

14. 5-266



.5

266

南支南洋研究調查報告書 第四輯

廣東語の研究

附常用文字聲音字典

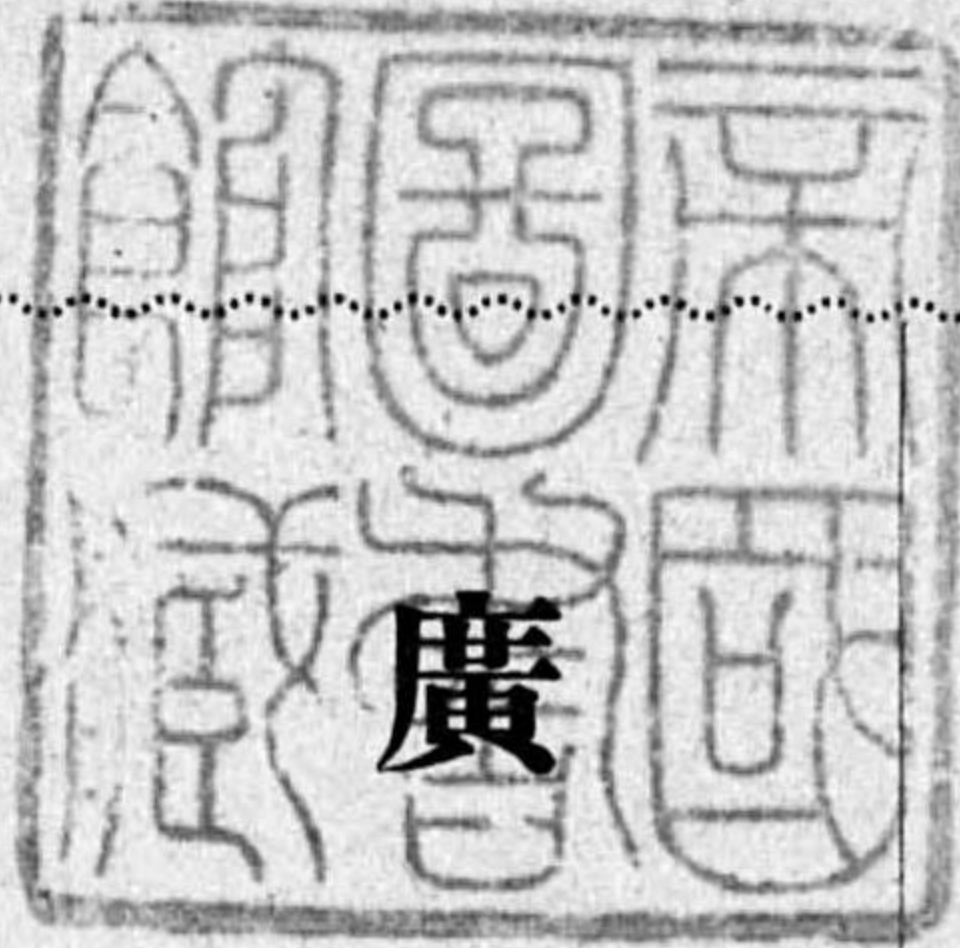
臺北高等商業學校



始







東語の研究

附常用文字聲音字典



香坂順一

發行所寄贈本



14  
300

凡 例

- 一 本冊子は昨夏廣東省城語研究の官命に依り赴粵せし、本校助教授香坂順一氏の研究報告書なり。
- 一 本冊子中に收めたる各項中「廣東語の表記問題」並に「北京音との對照」は研究の主眼點たりしものなり。
- 一 支那南方方言の研究が強く叫ばれて居る今日、本報告書がいつれかの方面で幾分でも活用せられる所あれば幸なり。

昭和十七年二月十四日

臺北高等商業學校調査課



目次

〔一〕	支那語中に於ける廣東語の地位	一
〔二〕	廣東方言の成立	七
〔三〕	廣東語の種類とその勢力	一三
〔四〕	廣東語と他方言との比較	一七
〔五〕	廣東語と北京語	二七
〔六〕	廣東語拉丁化の二案 —— 廣東語の表記問題 ——	四〇
〔七〕	廣東語の特徴	六二
〔八〕	廣東語中の隠語、歇後語、諧謔語	一〇四
〔九〕	廣東語の發音	一二七
〔十〕	廣東語發音表記法私案	一三七
〔十一〕	廣東語に關する著書	一七九
〔十二〕	北京、廣東兩音對照常用字彙	一八三



## 緒 言

本冊子は、昨夏廣州市に於いて得たる廣東省城に關する知識を整理せるものなり。廣東語は、厦門語とともに、南支那、南洋一帶に勢力を有する支那方言にして、使用人口より見るも、滿洲國內の漢語使用人口を優に凌ぐ勢をもつてゐるのである。廣東語研究の重要性は囁々たる説明を必要とせぬ。唯、英國が、この方言の研究に盡瘁し、今日から見れば、實に幼稚極まる字典の編纂出版に、敢へて時間的、經濟的に大きな犠牲を拂つた一事を見れば充分であらう。日本に於ける廣東語研究は漸くその緒に就いたばかりである。一方、日本の現狀は、これまでよりも必然的にこの方言の研究を要求して居る。この際に、不完全乍らも、この小冊子を報告書として纏め得たことに、筆者は格別なる喜びを感じる。

本冊子は、主眼點を、常用文字の聲音表示に置き、畫引によつて常用文字の聲音を知り得る様纏めて見た。尙北京語既修者の便を考慮し、括弧内に北京語の聲音を表示して置いた故、北京語、廣東語雙方の發音字典の用をなすであらう。

茲に一寸斷つて置かなければならぬことは、本冊子の「廣東語」とは臺灣に於ける所謂「廣東語」ではなく、廣東省城語即ち「廣州語」たることである。臺灣に於ける「廣東語」は、實は「客家語」であつて、支那方言の系統から言ふならば別な一系に屬する。この點誤解のない様にして載きたい。



本冊子の完成のために、各方面から種々なる御便宜の提供をうけた。特に、在廣州市甲賀三郎氏の御厚情と、本校教授各位が示下さった御厚誼に對して、衷心からの謝意を表する次第である。

昭和十七年二月大詔奉戴日

香 坂 順 一

## 【一】 支那語中に於ける廣東語の地位

支那に行はれる言語は、それが包擁する民族の多種多様なる如く、實に夥しい種類を數へる。大雑把に見ても、漢族の用ひる漢語、蒙古族の操る蒙古語、甘肅一帯に住むトルチス人の使用する土耳其語、南支那の苗族の苗語其他猺・獠・獯の諸言語等實に枚擧に遑ない位である。この中我々が通常「支那語」なる名稱の下に包括してゐるものは、廣義の場合は漢族の操る言語であり、狹義の場合は、現在中國の標準語となつてゐる「北京語」を指すのである。故に、廣義の支那語は、支那全土の漢民族間に行はれてゐる各種の方言を認容して居るのであるが、この方言に關する研究は、今日迄、極めて少數の人に依つて、僅かに基礎的なものが行はれたに過ぎない。即ち、歐米より渡來した宣教師は、その布教上の必要より、主として南方の方言について若干の研究をなし、支那の學者は、國語統一或は音韻研究の一助として、中原方言の研究を行つたのみである。故に、西洋人の研究は、北方の方言を忽諸にした嫌があり、支那の學者の研究は、南方方言を疎にした憾がある。従つて今日迄総合的に支那方言を研究大成したるものは、見當らないのであるが、とまれ、茲に現在發表されてゐる支那方言分布説の一斑を紹介しやう。

【1】 P. G. von Mallendorf の分類 [Chinese mission year book P.706]

- ① 官 話
- ② 蘇州語
- ③ 上海語
- ④ 寧波語
- ⑤ 福州語
- ⑥ 厦門語
- ⑦ 汕頭語
- ⑧ 客家語
- ⑨ 廣東語
- ⑩ 南海語

此の中、蘇州・上海・寧波の各方言、廣東・汕頭・南海の各方言は夫々類似せる點を多くもつてゐるとなし、又官話は、之を北部・西部・中部の三帯に分けられ、北部官語は、滿洲・河北・山西・陝西・甘肅・河南・山東の各省、西



部官語は、貴州・雲南・廣西の三省、中部官語は、江西・安徽及び浙江省の杭州一帯に行はれ、官話通用區域は全國の五分の四を占めると説かれてゐる。

此の分類は、極めて杜撰なるものと言はなければならぬ。既に蘇州語・寧波語・上海語と夫々一類をなしてゐるとなす以上、官話中に含まれるとなす四川・漢口或は南京官話にさへも、一類としての地位を與へねばならぬであらう。

### 【二】 何仲英氏の分類

- ① 黃河以北（河北・山東・山西）は一類をなす。唐虞の遺音高元にして入聲なきを特徴とす。
- ② 河南（開封以西ヨリ湖北鎮江一帯）は一系をなし夏音の發生地にして、武昌漢陽の音は醇中の醇なるものなり。
- ③ 陝西は自ら一系をなす、漢唐の舊都であり中原遺風韻残り、明晰簡直なり。
- ④ 湖南は自ら一系をなし、古の「楚聲」なり。
- ⑤ 福建・廣東も一類をなし、入聲を有する外九聲にも及ぶ。
- ⑥ 開封以東、山東の曹・沈沂から江淮間は四聲を有し、標準語に近い一系をなす。
- ⑦ 江南の蘇州・松江・太倉・常州及び浙江の嘉興・湖州・寧波・紹興は一系をなす。寧波・紹興は比較的複雑であるが、大體沿海居民の一方言代表となる。
- ⑧ 四川は自ら一系をなす。
- ⑨ 雲南・貴州・廣西は邊僻にして、本來蠻語が行はれてゐたが、明初に沐英が中原の言語を輸入し、明末に李自成北方軍を帶入してより、北方の言語稍々行はるゝあり。

### 【三】 章太炎氏による分類

- ① 河朔より北塞に至る、直隸・山東・山西及び河南の彰德・衛輝・懷慶を一類とす。
- ② 陝西は自ら一類をなす。
- ③ 河南・開封より以西、汝寧・南防等及び湖北の江に沿ふて下り、鎮江迄一類をなす。
- ④ 湖南は自ら一類をなす。
- ⑤ 福建は自から一類をなす。（浙江の温州・臺州・處州はこれに入る）
- ⑥ 廣東は自ら一類をなす。
- ⑦ 開封より東、山東沂・曹より江淮間は一類をなす。
- ⑧ 江南・蘇州・松江・常州・太倉及び浙江・湖州・嘉興・杭州・寧波・紹興は一類をなす。
- ⑨ 徽州・寧國は一類をなす。（浙江の衢州・金華・嚴州及び江西の廣信・饒州はこれに屬す）
- ⑩ 四川・雲南・貴州・廣西は合して一類をなす。

### 【四】 黎錦熙氏の分類

#### A、北京官話

- ① 河北系——河北省・山西省（太原一帯土語多し）山東省北部（登萊半島土語甚だ多し）河南省河北道。
  - ② 河南系——河南省中部開封一帯・山東省南部江蘇安徽の淮北一部。
  - ③ 河西系——陝西・甘肅・新疆の各省。
- B、南方官話
- ④ 江淮系——江蘇省江北一帯・安徽省の中部蕪湖、安慶・及び江西省九江。



- ⑤ 江漢系——河南省南部・湖北省。
- ⑥ 江湖系——湖南省東部・湖北省東南・江西省西部及南部。
- ⑦ 金沙系——四川・雲南・貴州・廣西の西北部・湖南省西部。

C、蘇浙語

- ⑧ 太湖系——江蘇・浙江の西部・錢塘道。
- ⑨ 浙源系——浙江金華道・安徽省徽州・寧國地方及び江西の饒州・廣信地方。

D、濱海語

- ⑩ 甌海系——浙江省永嘉道・福建省福寧。
- ⑪ 閩海系——閩江流域・廈門及び廣東省潮汕一帶。
- ⑫ 粵海系——廣東省の大部分・廣西の一部。

【五】王力氏の分類

A、官話

- ① 冀魯系——河北・山東・遼寧・吉林・黑龍江。
- ② 晉陝系——山西・甘肅・陝西。
- ③ 豫鄂系——湖南・湖北。
- ④ 湘贛系——湖南東部・江西西部。
- ⑤ 徽寧系——徽州・寧國。
- ⑥ 江淮系——揚州・南京・鎮江・安慶・蕪湖・九江。

B、吳語

- ⑦ 川滬系——四川・雲南・貴州・廣西北部・湖南西部。
- ① 蘇滬系——蘇州・上海・無錫・崑山・常州。
- ② 杭紹系——杭州・紹興・湖州・嘉興・餘姚・寧波。
- ③ 金衢系——金華・衢州・嚴州。
- ④ 溫臺系——溫州・臺州・處州。

C、閩語

- ① 閩海系——福州・古田。
- ② 厦漳系——廈門・漳州。
- ③ 潮汕系——潮州・汕頭。
- ④ 瓊崖系——瓊州・文昌。
- ⑤ 海外系——華僑の閩語——新嘉坡・泰・馬來。

D、粵語

- ① 粵海系——番禺・南海・順德・東莞・新會・中山。
- ② 臺開系——臺山・開平・恩平。
- ③ 高雷系——高州・雷州。
- ④ 欽廉系——欽州・廉州。
- ⑤ 桂南系——梧州・容縣・鬱林・博白。



⑥ 海外系——華僑の粵語—亞米利加・新嘉坡・安南・南洋群島。  
E、客 家 語

① 嘉惠系——嘉應州・惠州・大埔・興寧・蕉嶺。

② 粵南系——臺山・電白・化縣。

③ 贛南系——江西南部。

④ 閩西系——福建西部。

⑤ 廣西系——廣西東南部。

⑥ 川湘系——四川・湖南。

⑦ 海外系——華僑の客家語南洋蘭印に多し。

以上五氏の分類を示したのであるが、いづれも極めて大雑把なものであり、精細な分類となす事は出来ない。林語堂の指摘する處に依れば、廣西一省丈にも、少なくとも五種——

① 白 話 ② 官 話(西北) ③ 百姓話(船家が使用す) ④ 麻介話  
⑤ 獎 話 ⑥ 諺 話(更に十幾種かに分ける)

の方言が存在するとなし、省別に方言を分ける事は到底不可能であると言つてゐる。故に、これ等の分類に、支那の方言が總て包括されたと見る事は許されないであつて、唯支那語の多種多様な一面を窺ひ得るに過ぎないのである。廣東語は以上の分類中常に一類をなし、他方言とは獨立した地位が與へられてゐる。即ち最も新しい分類と見られる王力氏の依つて見れば「粵語系」は一類をなし、他の官話・吳語・閩語・客家語と相對立せる一獨立方言となつてゐるのである。

## 【二】 廣東方言の成立

結論的に言ふならば、廣東語は、古代中原漢民族の言語と、兩粵地方に先住して居つた蠻族の言語の混成したものである。林語堂は支那方言の成立には、

(1) 民族の遷移

(2) 異族との雜居

の二要因が擧げられると言つてゐるが、廣東地方は、この二成立要因をともに有つてゐた。即ち、兩粵地方の漢族は、支那歴史の示すところに依るならば、中原より移住したものであり、又兩粵地方には、漢民族移住の前に已に異民族——蠻族——が居住してゐたため、そこに、必然的に異族との雜居が行はれるに至つたのである。この間の事情に關しては、徐松石氏が「粵江流域民族史」中に極めて要領よく示されて居る故、その箇所を抄譯して見やう。

徐氏は、兩粵地方と中原との交渉については次の六期に分け説明してゐる。即ち、

(1) 周朝以前

文化感應、草昧時代

(2) 周朝時代

威讞德服、抑制時代

周朝以前、周朝を通じて、中原と兩粵地方の交渉は、特に見るべきものなく、僅かに兩粵地方に居住せる獠族が中原の文化を慕つて、北上し、その地の文化を吸収したにすぎない。然し、北上した獠族中、史上に名を残し



て居る者も少くはない。例へば、

勇 獲——南海人にして吳王夫差の大夫となる。黃池の會に功績有り。

高 固——周の顯王の頃、楚の威王の相となる。南海人である。

子 臧——齊國の相となり、大に威を耀せり。粵人である。

(3) 秦漢時代

力征流成、開拓時代に、

秦朝に至つて始めて、該地方の經營を計畫的に行つた。即ち史記始皇本紀に見られる記録の數は、これを物語る。一例をとると、始皇三十三年

「發諸嘗逋亡人贅瑁賈人・略取陸梁地、爲桂林・南海・象郡・以適遣戍」とあり、

又淮南子「人間訓」中には次の如き記録を見る。

「又利越之犀角齒翡翠珠璣、乃使尉屠睢發卒五十萬爲五軍、一軍塞鐔城之嶺、一軍守九疑之塞、一軍守番禺之都、

一軍守南野三界、一軍結餘干之水……」

この外、宋記の南越傳、漢書の高祖本紀等にも、中原漢族が、入粵し所謂南蠻と雜居する端緒を啓いたことが記録されてゐる。淮南子によると、屠睢の攻撃に對しては南蠻は極めて巧妙な戦をした。攻撃を受けるや草叢中に逃げ込み、隙を見ては、出て反抗した。斯くすること三年以上、ために秦の兵は三年甲冑を解かず、弩を弛めず、將兵の氣力衰へ、糧食つき、三十二年には秦兵は大敗し、屠睢は殺された。秦は更に、任囂、趙佗を派して平定し、任囂を南海尉に、趙佗を龍川令とした。趙佗は、任囂の死後、秦の威の衰へたるに乗じて、桂林、象郡を併せて南越の武王と號して自立したことは有名である。秦の該地との交渉は、中原と南支とを聯絡し、

(4)

豪雄逐鹿、混合時代

中原漢族が僮族や其他の原住民族と雜居する緒を啓いたのである。特に趙佗は、漢が天下を取つてからは、表面服従してゐたため、中原文化はこの僻地を潤した、又特筆に値することは、彼は漢民族と土人との通婚を奨勵したことで、南越亡びたときに、その後裔中には越妻の生んだものが甚だ多いと記録にのつてゐる。

兩晋・南北朝時代

この時代は、漢族と原住民が混合して了つた時代と言はれてゐる。これは北方が胡に擾亂せられ、南に難をさけるものも多く、又中原の逐鹿場は南に移つたからである。北に大きな脅威を受けた中原漢族は、擧つて南下を開始し、南方は群雄並び起り、漢族互に相打ち、好むと好まざるとに拘らず、原住民族もこの擾亂に捲き込まれて了つた。該地方の亂だけでも、例へば、

東晋、張璠は始興に據る。盧循は廣州に據る。梁末に元景仲の反亂。馮氏高羅二州を併吞す。等々實に枚擧に遑がない。

(5) 唐・宋朝

屯田謫謫、開發時代

唐時代、兩粵地方は嶺南道に屬してゐた。この頃文人學者の南方に流謫せられたるもの相繼ぎ、例へば、韓昌黎は潮州に、柳宗之は柳州に夫々流されたが、これが該地の文化に影響せるところは決して少くない。又唐朝は屯田制を布いたが、記録の示すところでは、當時已に屯田は數百所に行はれてゐた。この當時この地方が如何に唐朝の文化を吸収したか、又當地の住民は尙ほ未だ中原の漢族とは、同一の國家のものでないと考へてゐたかは、廣東方言中に、今日尙ほ「唐菜」(支那料理)「唐話」(支那語)「唐人」(支那人)なる詞が残つてゐる



點よりも十分に窺知出来るであらう。

宗時代の該地經營は、大體に於いて、唐代に模倣してゐたが、元朝の壓迫によつて、宗が南渡する以前は、矢張り依然として流謫や商賈の往來が主として行はれてゐた。唐宋時代の該地の情況は、中原文化の流入、漢民族との混合しきりなるに拘らず、極めて未開な状態であつたらしく、潮州に流された韓昌黎は、

「こゝは瘴海天に連り、颶風鱷魚の禍害測知れず」

と言つて居り、宋太平御觀には

「蒼梧、高要縣郡下の人、毎年筏にのりて肇唐城に至る。六月來り、十月去る。これ瘴氣を免れんため」

と言つてゐるところより大體想像がつくであらう。

#### (6) 元 明 清

##### 大量移民興盛時代

元の北方からの壓迫は、宋の南渡となり、北方漢族の移住は益々多きを加へて行つた。徐松石氏は、廣東最大の開發は宋朝南渡の後に在ると説く。譚彪の新會鄉土誌に次の如く當時の漢民族移住の様を書いてゐる。

「宋咸淳の頃に順德は未だ縣を設けず。境内の人は皆土人なり。當時、南雄・保昌縣牛田坊珠璣里の民家三十五姓、九十七人、谷を携へて南行し、湞水に浮びて下り、直ちに大良に至りて、土人の家に宿る。後開平新會に入り、人口日に多し」と、

又今日廣東の大家富族は、宋末に嶺を越えて來れるもの、又文天祥に従つて、江西、福建、潮汕を經由して來れるものが多いと言はれてゐる。斯くの如く、廣東の大なる開發は、今を去る六百年前にあつたのであるが、その後、明末より清朝にかけては、歐洲人の渡廣があり、支那全國の支關的存在となつた該地方の發展は周知の

通りである。宋末に如何にこの地方の開發が行はれたかは、専門の歴史書に譲り、ただこの時代の史實が如何にこの地方の人々に親しまれたか、又一面から見れば、この時代の歴史が如何にこの地方に大きな影響をもつたかは、今日廣東方言の隱語にこの時代の人名が多く使用されてゐる一事をもつても承知し得るであらう

〔廣東隱語・歇後語・諧謔語〕の項を参照)

廣東地方と中原との關係は、大略左記の通りであるが、之を要するに、中原漢族の來廣は、

- ① 官府による人民の遷移
- ② 兵卒罪人の謫戍
- ③ 商賈の自由遷移
- ④ 戦亂を脱れての移住
- ⑤ 官吏赴任による移住等があげられやう。

筆者は、先に支那方言の成立は、

- ① 民族の遷移
- ② 他民族との雜居

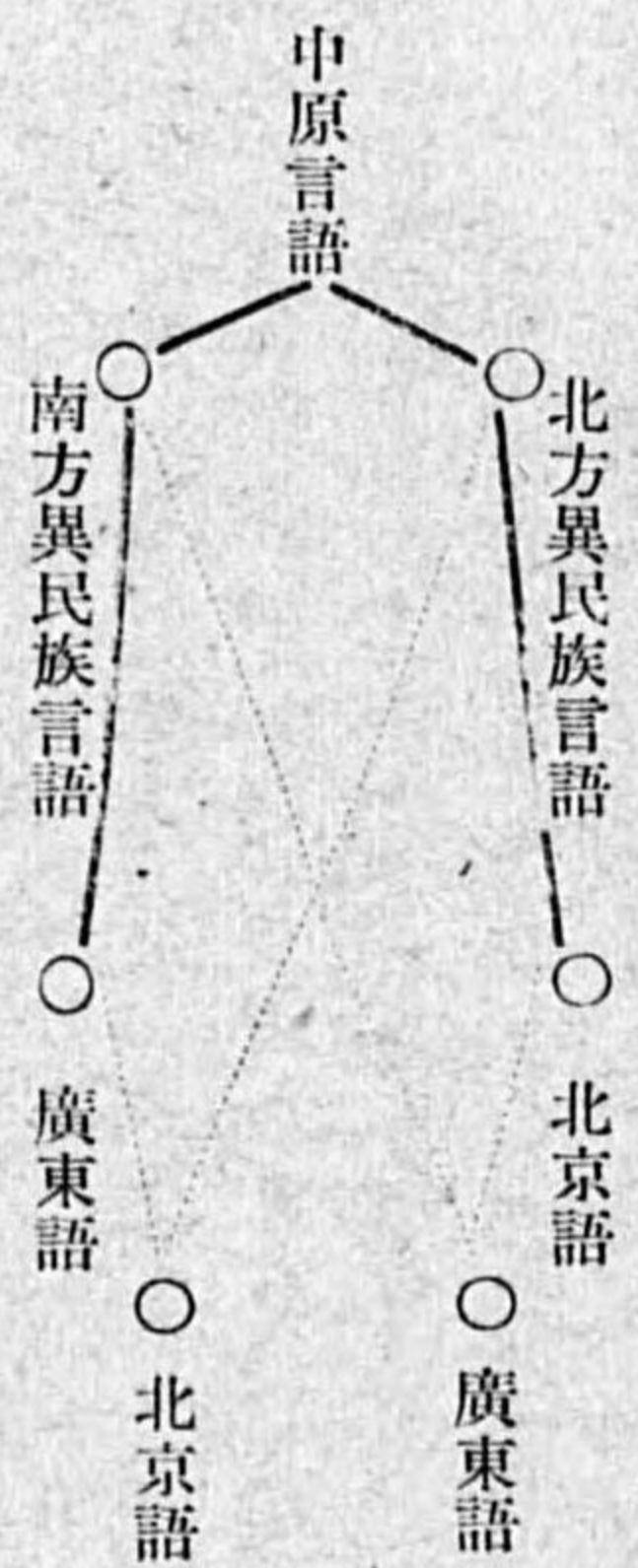
の二因に依るとの説を擧げたのであるが、この場合、言語的勢力——文化、經濟、政治更に言語の組織、表記符號の完成等に涉る——の勝つてゐるものが、他を壓倒し、必らずしも使用人口の多少には依らないのである。中原漢族の言語が廣東原住民の言語の影響を、極めて僅かなる程度しか受けなかつたのは、このためである。更に具體的に言ふならば、



- (1) 中原から入つて来た漢族は、文化、政治、經濟上常に指導的立場に在つたこと。特に初期に於いては、全く比較にならぬ位の懸隔が有つたこと。
- (2) 南方の原住民は、聽覺言語のみで、視覺言語を缺いてゐた。即ち中原から入つた漢族は表情達意の工具たる「文字」を有してゐた。
- (3) 中原から入つて来た漢民族は、原住民と混合して了つても、常に、中原を正統なるものとし、中原言語を奉じて、之を捨ててゐることをしなかつた。此は後來の客家族について見れば明白である。客家族は原住民と雜居を好まず、自ら一社會をなし、言語も中原の言語のみによつた。故に今日でも、客家語の研究は、中原音韻の研究上不可缺となつてゐるのである。原住民と混合した漢族中にも、この客家族的な行き方が、極めて濃厚であつたのである。
- (4) 官吏や讀書人は中原言語を使用した。中央から任命を受けたる官吏は、廣東地方へ赴任しても、中原の言語を使用した。従つて、その影響は下の者に及んだことは疑ふ餘地がない。又讀書人が中原言語を使用したところは、學ぶべき對象が中原のものである以上疑はない。我々が英語の勉強には、英語の發音をすると何等異なるところはなし。

斯くして、中原言語は、廣東の地に於いて大きな勝利を收めた。所が本元の中原言語は北方民族の使用する言語との、絶えざる接觸のために相當ゆがめられて了つた。北方よりする異民族の侵入は、否應なしに中原言語の基を搖動したのである。南方の原住民の言語は、中原言語と同一系統に屬する。故にそれが及ぼす影響は大きくなかつた。北方異民族の言語は、中原言語とは系統を異にした。故にその及ぼす影響は相當大なるものがあり、四聲は不完全になつて行つた。今日南支那の方言が漢語の原始音聲、原始形式を具へてゐると言はれてゐるのはこのためである。

斯くして、現在の支那國語と、廣東語は更に大きな階を有つ様になつた。この關係を圖示すれば次の如くなる。



### 【三】 廣東語の種類とその勢力

廣東語の種類に就いても、今日未だ信憑するに足る研究は發表されて居らず、僅かに、地理的條件に基礎を置いたと見られる分類が二、三の人に依つてなされてゐるに過ぎない。即ち我國人の研究したものとしては、福屋氏が「日粵會話」中に次の如く分けて居り、中國人の研究したものとしては、王力氏が前述の如き分類をなしてゐるに過ぎないのである。〔福屋氏に依る分類〕

- ① 南海・番禺系
- ② 香山系
- ③ 東莞寶安系
- ④ 昭關系
- ⑤ 三水北江系
- ⑥ 四邑・新會・臺山・關平・恩平系
- ⑦ 鶴山・新興・赤溪・八高・要四會・高明系
- ⑧ 封川・德慶・羅定・鬱南系
- ⑨ 陽江陽春系
- ⑩ 高州・石城・欽廉系
- ⑪ 汕頭・潮州系
- ⑫ 瓊州系

此の外二種をあげ、合計十四を數へてゐるが、王力氏は粵海系に①③及び⑥の一部を包括し、臺聞系は大體に於い



て⑩に相當し、欽廉系は⑩に入るのであるが、此處に此の二分類の根本的な差違は、福屋氏は、廣東省内に行はれる方言を分類したのに反し、王力氏は、言語學的に「粵語系」に含まれる方言を分けた點に存する。故に福屋氏は、汕頭、潮州の方言を一系として示してゐるが、王力氏は此の方言を閩語系に入れてゐるのである。汕頭、潮州は共に廣東省内に在るに拘らず、言語は閩語系に屬してゐる事は、廣東語の勢力を考へる場合——南洋華僑に於ける言語に就いて考へる場合——に大いに注意せねばならぬことである。福屋氏のは別として、王力氏は、言語學的基礎に立つての分類と見られないでもないが、まだ地理的條件を第一としての極めて概念的な分類としか受取れぬ點がある。例へば、廣州市番禺には中平聲は存在せず、中山、臺山、新會、開平等にきゝ得るのであるが、地理的條件近似を以つてか、粵海系として、番禺を南海、順德、東莞、新會、中山と一系に入れてゐるのである。廣東語分類の最も大きな根據は「聲」に在るべく、特に變聲上に求めなければならぬ、この點王力氏の分類には多くの缺陷が見られる。茲に「聲」に根據を置いて分類すれば次の如くなる。

- ① 廣州系——(廣州市增城・番禺)原聲九種・變聲二種が存する
- ② 四邑系——中平聲極めて明瞭、高抑、低抑(共に入聲の變調)稍々著し
- ③ 桂・平系——(廣西の桂平・平南藤・北容)——高抑、低抑完全に存在、入聲方面の變聲甚だ多し
- ④ 桂・梧系——(梧州・潯州・鬱林)中平聲を有し且つ入聲の變聲稍々多し
- ⑤ 準廣州系——(三水・高明・臺北の一帶)廣州語に比し中平聲の存在稍々明白なるも、所に依り、高抑を常に有する

(例へば三水が「男爵」の「爵」を高抑に發する如し)

以上の聲に依る分類も、極めて初步的なものであるが、之を基にして音聲の差異を究め更に精細なる研究を完成する事が出来やう。

斯く分類する事に依つて、或は廣東語は極めて種類の多い、且つそれらの間に大きな懸隔が有る如き印象を受けるかも知れないが、實際はその隔は甚だ小さく、決して北京語と廣東語の間に存する様な差異ではないのである。之は地理的に接近してゐる事が大きな因であらうが、更に廣州市は古から、文化、經濟の中心地であつた關係上、廣東省城語の影響は一方的に省内及び其の近接地に及び、其間の差異を徐々に縮めて行つた爲である。且つ、省城語は聽覺的方言としては勿論、視覺的方言として完全なる資格を備へて居た爲、この方言に自然吸收され、或は同化せられて行つた事是否難い事實でもある。例へば、汕頭に行はれてゐる言語は本來閩語系なるに拘らず、現在では多分に粵語系の色彩を帯びて來てゐる點、更に海南島の言語も本來瓊州と萬寧を連ねる線以東は閩語系であるが、最近調査せるものに依れば廣東語の分子が多分に認められるのである。故に、廣東省内、廣西の一半の漢民族の操る言語に關する限り、それらの間には極く微細な差異しかもつて居らぬと言ひ得るのであつて、省城語は殆んど總ての地方に通用するものと見るも差支へはないのである。特に海岸線・珠江に面した地方は完全に省城語の通用範圍に屬する。この意味に於いて、廣東語の勢力を考へるならば、廣東語は、廣東省内參千萬の民衆間、百萬方支里の地域に通用する外、香港、澳門の二港にも最大なる勢力をもつてゐる。更に茲に看過す事の出來ぬのは、華僑の言語である。王力氏は、粵語系の最後に「海外系」としてゐるが、之は「海外に於いて使用される粵語は自ら一系をなしてゐるもの」と解すべきではない事は明かである。蓋し海外に於ける粵語は決して本國の廣東語と異なる理はないからである。由來閩粵地方は、華僑を最も多く出して居る所なるは、最近夥しく出版せられたる「華僑」に關する翻譯書の均しく掲げ示してゐる處である。之等華僑は所謂「僑生」を除いては、一般に自分の故郷の言葉を使用して居る理であり、故に廣東省出身の華僑は、廣東語を使用してゐると見るべく、一九三四年の統計に依ると、南洋の華僑六百萬中、六分の一、百萬が廣東(廣東省に非らず)出身となつてゐる故、この地方にも半たる勢力をもつてゐる理である。更にこの華僑



を地域的に見る爲、一九三四年の調査を掲ぐ。

	佛	印	泰	國	馬	來	蘭	印	ビ	ル	マ	比	島
福建人	七六、二九四 (二〇%)	二五〇、〇〇〇 (二七%)	五八一、一九三 (三三%)	六七七、九五八 (五五%)	四四、一一八 (三%)	八八、四〇〇 (八%)							
廣東人	一九〇、七三六 (五〇%)	二五〇、〇〇〇 (二七%)	四一〇、二五四 (二四%)	一八四、八九七 (一五%)	三一、九七八 (六%)	二二、一〇〇 (二%)							
潮州人		一、五〇〇、〇〇〇 (二六%)	二〇五、一二七 (一七%)	二四六、五三〇 (二〇%)									
客家人	一一四、四四一 (三〇%)	二〇〇、〇〇〇 (八%)	三〇七、六九七 (二七%)	二四六、五三〇 (二〇%)									
海南人		二五〇、〇〇〇 (二七%)	一〇二、五六四 (八%)										
其他		五〇、〇〇〇 (二%)	一〇二、五六三 (六%)										
合計	三八一、四七二	二、五〇〇、〇〇〇	一、七〇九、三九二	二、三三二、六五〇	一九三、五九四	一一〇、五〇〇							

〔芳賀雄氏「東亞共榮圏と南洋華僑」ニ依ル〕

この表を一見すれば、直ちに分かる如く、廣東省出身華僑は、佛印の五〇%を最多とし、泰國の一〇%を最小とする。同じ廣東省出身でも、潮汕地方の華僑は、言語は閩語系に屬する事は前述の如くであるから、之等は別に考へなければならぬ。又廣東出身の華僑は一般に郷土愛、祖國愛に強く、子弟は本國に送つて教育し、爲に廣州市の嶺南大學は華僑の子弟が半數を占めると言はれてゐた。又廣東出身者は勿論であるが、潮汕、福建出身の華僑の子弟にして、廣州或は香港に於て教育を受ける者も少しとしない。故に福建系、潮汕系の華僑中知識份子中には廣東語を解する者が多い。又華僑とその言語を考へる場合、豫想される問題として、所謂「新客」(新に渡航せるもの)と「僑生」

(その土地で生れたるもの)があるが、福建系華僑にあつては、彼等は出稼地を樂土とし、其處に永住する故相當に本國の言語を使用しない、或は使用し得ない者も出て來る事が考へられるが、廣東系の華僑は、本國との交渉を斷つ事なく、子弟を本國に送り教育し、或はその土地に學校を創り子弟の教育に努むる爲、僑生間にも本國語の維持される可能性は、福建系の場合よりも強いのである。故に僑生、新客共に廣東語を操り得るものとし、廣東語は、同省内三三萬、香港八十三萬、マカオ二十九萬、南洋各地合計百八萬人、總計三千二百二十萬人の使用人口を持つ事になり、滿洲國內の支那語使用人口を凌ぐ勢に在るのである。

#### 【四】 廣東語と他方言との比較

茲に「廣東語」とは省城語を指す。「他」方言とは南支那に行はれる、福州語、廈門語、客家語、潮汕語、海南語の五種を總稱する。こゝに此等の方言について、次の諸項に涉つて比較検討して見る。

- ① 聲について
- ② 音について
- ③ 文字について
- ④ 語詞について
- ⑤ 使用人口について
- ⑥ 實際上の勢力について

(1) 廣東語は九聲にして、變聲二を有す。

客家語は六聲なり。

福州、廈門、潮汕、海南の四語は八聲、但し實際は七聲の別のみで十分である。

聲の名稱



廣東語九聲の名稱左の如し。



客家語六聲の名稱左の如し

上平・下平・上聲・去聲・上入・下入

福州・廈門・潮汕・海南諸語八聲の名稱左の如し

上平・上上・上去・上入……………高調  
 下平・下上・下去・下入……………低調  
 八種

但し此の系統に屬する方言は、上上聲と下上聲の差は認められず通常七聲で十分である。  
 聲調の比較

	廣東語	閩語系	客家語
上平	急に高く發し音尾を消す	北京語の第一聲	始め平に發音次第に音尾を強くあげ長くのばす
上上	北京語の第二聲の要領に同じ	北京語の第四聲	音尾を急に低く強く發し長くのばす
上去	北京語第四聲の要領に似てゐるが些か緩慢なり	北京語の第三聲の先の部分	高く強く發し長くのばす

上入	音尾急につまり高く息を出す	中調で急に音尾を促める	音尾を強くあげ急にとめる、
下平	北京語第三聲の下る音のみ	北京語の第三聲	北京語第一聲の要領
下上	北京語第三聲に全く同じ	上上聲に同じ	
下去	低音にて北京語の第一聲を發音す	中調で長く平坦	音尾を急に促め低音でとめる
下入	音尾を急激につめ息を低く吸込む	音尾急に促つて高し	
中入	音尾を促めるのみで息は普通にす		
超平	上平の消す音尾を軽く長音にする		
變上	上上聲の中間の音を低くする即ち出だしを高くし中間を低くし收音を高くする		

(2) 音の比較

音の數について言ふならば、

- 廣東語——七百十五——七百三十二種と言はれるも、未だ確たる研究なし。
- 廈門語——八百五十——九〇〇種を算すと言はる、これ亦未確定なり。
- 潮州語——六百八十音、未確定
- 福州語——九百二十八音、未確定
- 客家語——六百五十音、未確定
- 海南語——七百十五音、未確定



今日に至るまで確定的なる數字は研究されてゐないが、此は方言の性質上仲々に至難なことである。何故ならば方言は極めて安定性を缺如してゐるからであり、地理的に判然と方言地域を分けることが不可能であるからである。依つて甲と乙の調査したものには常に若干の差異が認められるのである。今茲に平均をとつて見ると、

廣東語 七百十六音  
閩語系 八百四十四音  
客家語 六百五十音

となり、閩語系が最多を占める。

上海語が六百六十音と言はれてゐる故、客家語と大差なく、閩語系より二百音近く少いのは注目し得る。北京語が四百九音と言はれる故、北京語最少、閩語系の方言就中廈門語が最多、廣東語は廈門語より大體百音少いと言ふ結論になるであらう。夫々の音の差異については、「語詞」の所で説明するが、すべてを通じて有氣音と無氣音の別を有する。客家語にはv其他完全なる濁音が存する。

(3) 文字について

支那各地の方言は、一應漢字に依つて表記せらる。然し一般的に見て、南支那の方言は漢字をもつて表記する場合に、多くの無理が出て来る。これは、方言は表記文字を伴つて發達して來たものではないからである。蓋し表記すべき場合には、土白語によらず、一概に文言に依つてゐたため、何等の不便を感じて居らなかつたからである。一般民衆は、文言を知らずして、文を書く等と言ふことは全く夢想だになつたのであらう。従つて口頭の言語は文字の隨伴なしに、どんどん變つて行つたのである。西洋の宣教師が布教に來て、パイブル

を土語に譯さんとし、文字なきに苦しみ、ローマ字を以つて不完全ながらその目的を達したることは、如何に漢字が方言表記の工具として不適當であるかを物語るに十分であらう。

今夏廣州市に於いて、陸次言の「國語會話」の一部を福州、汕頭、客家、廈門の者に各その土白を以つて譯出せしめたる結果、次の如き缺字の程度を明かにすることが出來た。

福州語 三十%強 (千五百三十字中)  
廈門語 二十五%弱 (千四百六十五字中)  
汕頭語 二十八%弱 (千五百八十二字中)  
客家語 十九%強 (千四百〇三字中)

但し、此を翻譯せる者は、夫々教育程度を異にしてゐるため、此を以つて決定的なものとすることは出來ないが、少くも參考となすに足るものであらう。

福州語の三十%強は餘りにも多すぎるが、この翻譯をなしたものは、高中卒業の者であつて、他の者と少くも同等の教育を受けた者である。彼の翻譯後の感想に

「白話を漢字で表はすことは、今まで簡單なものゝ外なしたことがなかつた。今白話を文字で表はさうとする、文言音がすぐ頭に浮んで來るが、どうも適當な文字が見出せない云云」

彼の言つてゐる如く、漢字は方言表記に、決して適當なるものとは言ふことは出來ない。若し白話を表記せんとするならば、何等かの方法を設けなければならなくなつて來る。盧憲の如き國語運動の先覺者が廈門から出たことも、決して偶然ではないことを知るであらう。

盧憲に關しては、「南邦經濟」第十卷第一號拙稿「支那に於ける國語運動」を参照せられたし



南支那一行はれる各方言が、斯くの如き不完全なる表記符號しか有たぬに反し、廣東語は、此の難點を已に立派に解決してゐる。即ち廣東語は土白を表記するに不足なる漢字を自ら作り、或は借用して、一方言として表情達意に毫も差支へない様な字彙を完成したのである。廣東語は視覺言語としても相當なる程度——北京語に次ぐであらう——まで完成されてゐる。こゝに北京語を「國語」として、廣東語通用圈内に普及せしめるに困難も來すことにならるのである。廣東土白で書かれたバイブルを見るととき又粵語を見るとき、筆者はその完成さに一驚を喫したと同時に、北京語のみに接して來た眼に、極めて異様に映る文字の多きにも驚かされた。

(4) 語詞の比較

——主として音について——

各方言の凡ゆる語詞を比較することは、到底時間的にも、量的にも、許されないことである故、茲には専ら代名詞に依つての比較検討をなし、各方言間に如何なる程度の差異が存するか一斑を窺ふことにする。

① 人稱代名詞

	第一人稱	第二人稱	第三人稱
廣東語	我 ngo	你 nei	佢 kēi
廈門語	我 goa	汝 lu	伊 i
潮汕語	我 oa	恁 lin 汝 lu	彼 fu

福州語	我 nguai	你 nūi	伊 i
海南語	我 wa	你 lu	他 i
客家語	吾 ngai	汝 un ng	佢 ki

第一人稱中、廈門、潮汕、海南の三語は極めて似てゐる。又福州、客家の二語も同じく相似す、廣東語は鼻音なる點と似てゐる點有るも、差異大なり。

第二人稱、廈門・潮汕・海南・客家の四語は類似或は同じきものあり。廣東・福州のみは異なる。

第三人稱、廈門・福州・海南・客家の四語は全く同一と認めらる。廣東・潮汕のみ異なる。

	第一人稱(複)	第二人稱(複)	第三人稱(複)
廣東語	我哋 ngo tei	你哋 nei tei	佢哋 kēi tei
廈門語	阮 gōn	恁 lin	伊 yin
潮汕語	阮 gon un	恁大家 lin tai kei	伊 yin
福州語	濃家各人 nung ga ko noen	你各人 nūi ko noen	彼各人 i ko noen



海南語	我人	wa nǎng	你人	lu nang	他人	i nang
客家語	吾等	ngai teu	汝等	ng teu	佢等	ki teu

此の表を通覧するに、最も多くの類似點を有するのは、厦門語と潮汕語であつて、第一人稱と第三人稱を等しくする。福州語と海南語には或る程度類似の點がある。

各人稱代名詞の複數を作る場合は、大部分が一音節或は二音節加へてゐるが、厦門語と潮汕語のみは一音節であるのは注意を要する。第一人稱單數に於いて、閩語系の各方言は、皆夫々類似點のあること、或は同一なるを示したが、複數の場合には、僅かに厦門語と潮汕語のみが類似を示してゐるに止める。

近 指 遠 中 指 疑 問 指

廣東語	呢個	ni ko	嗰個	ko ko	邊個	pin ko
厦門語	此個	chit eh	彼個	hit eh	何一個	to chit eh
潮汕語	此介	chit kai	彼介	hu kai	何一介	chi chit kai
海南語	這個	chih kai	彼個	ho kai	那個	di kai

客家語	此個	lia kai	彼個	kai kai	奈個	nai kai
福州語	這	tsi	彼	hui	那	te

指示代名詞の對照表を見るに、潮汕語と海南語の類似が最も大きく、厦門語、潮汕語がこれに次ぐ、客家語、廣東語には夫々他語との類似點見出し得ず。

近 指(複) 遠・中 指(複)

廣東語	呢啲	ni tit	嗰啲	ko tit
厦門語	此等	chia eh	彼個	hia eh
	此幾個	chit kui eh	彼幾個	hit kui eh
潮汕語	這介共總	chia kai kang tsong	彼幾介	hit kui kai
海南語				
客家語	此等	lia teu	彼等	kai teu



福州語 此 裏 chī lieh

彼 裏 hi lieh

指示代名詞の複數について見るに、廣東語、客家語は夫々自ら一系をなし、他の閩語系の諸方言は夫々相似點を有してゐるのを知る。特に廈門語と潮汕語との類似は大きい。廣東語の「𠵼」は人稱代名詞にもつくことは（但し「我等」とか「君等」の意になるのでなく）「廣東語と北京語」の項を参照して戴きたい。

父 母 兄 弟 姉 妹

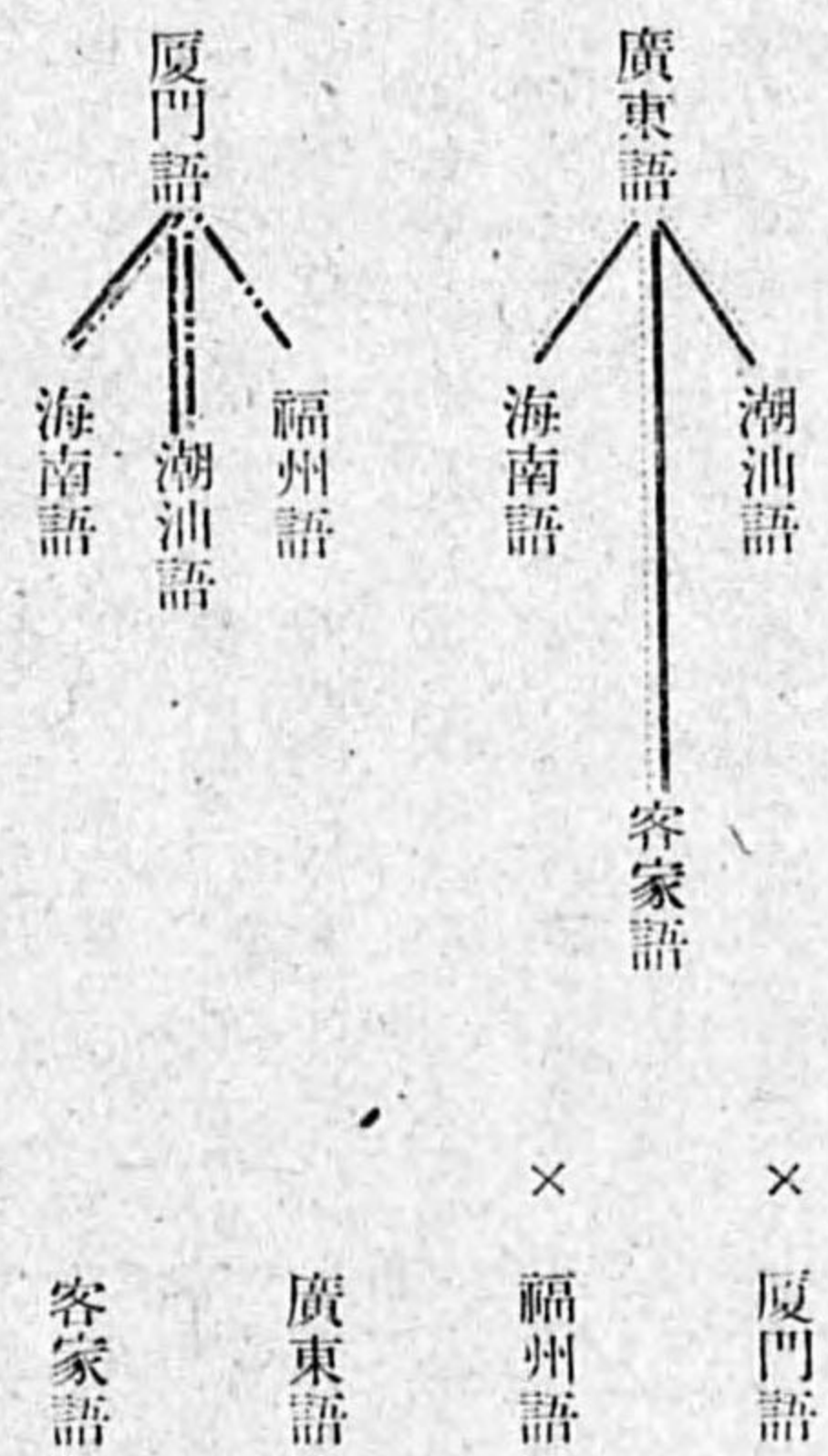
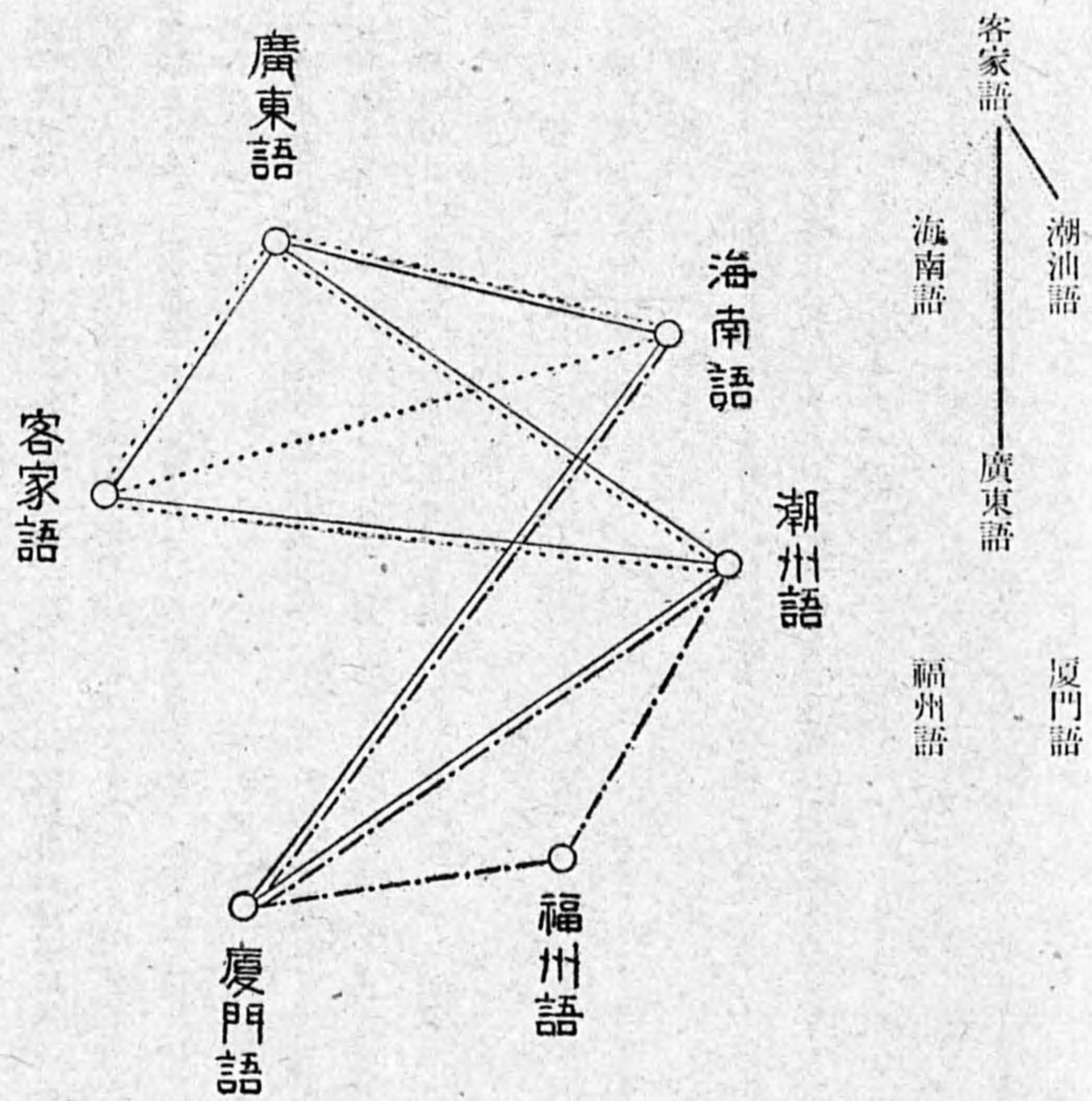
廣東語	阿爸 a pa	阿媽 a ma	阿哥 a ko	細佬 sai lou	大姉 tai che	阿妹 a mui
廈門語	老父 lau peh	老母 lau bu	大兄 toa hia	小弟 sio ti	大姉 toa ti	小妹 s'io pei
潮汕語	阿父 a peh	阿母 a bo	阿兄 a hia	阿弟 a ti	阿姉 a chieh	阿妹 a moi
海南語	父 be	母 mai	兄哥 hia ko	老弟 lau di	大姉 dua che	小妹 toi mui
福州語	依爺 i yeh	依媽 i ma	依哥 i ko	依弟 i tieh	依姐 i chia	依妹 i mui
客家語	阿爸 a pa	阿媽 a mei	阿哥 a ko	老弟 lou tai	阿姐 a chi	老妹 lo moi

この表を一見して驚くことには、六方言の餘りにも、此の語詞に於いては、類似點が多いことである。廣東語を基にして見るならば、潮汕語、海南語が「阿」なる音を冠する點で、最も近く、廈門語を基にして見るならば、「父」「母」「兄」「弟」「姐」の音に於いて、潮汕語が最も近い。斯くして見ると、この若干の詞に關する限り、潮汕地方は、廣東語と廈門語の影響を多分に受けてゐると言ひ得るのである。又若し、筆者の推斷が許されるものとすれば、潮汕語は、中央の言葉たる廣東語の吸収が不十分であつたため、在來の廈門語音が殘存し、混血的な方言を作つたものと認められる。廣東語と廈門語を比較して見れば、その差は他のいづれの二者の比較に見出し得るものよりも大きい。南支那の二大勢力語たる、廣東語、廈門語の他方言に及ぼせる影響は（客家語を除き）この表によく示されてゐる。

以上若干の語詞の比較によつても、各方言の差異の程度、各方言の屬する系統が明白になつたことと思ふが、茲に要約するならば

- ① 廣東語は常に一系をなし、他方言の聯繫少く、潮州語に若干の影響をあたへたるを認む。
- ② 客家語は常に一系をなすも、他方言との聯繫に相當見るべきものあり、特に、潮汕語、海南語には相當の影響を與へたるを認む。
- ③ 廈門語は、閩語系方言の雄であつて、潮汕、海南語に大きな影響を及ぼしてゐるが、客家語の影響は受けて居らぬ。
- ④ 潮汕語は、閩語系なるも、廣東語、廈門語、客家語の影響を多分に受けてゐる。人倫呼稱中に廣東語の影響の、代名詞に客家語の影響の、更に諸名詞中に廈門語の影響の一部を見出すことが出来る。
- ⑤ 海南語は、廣東語、廈門語、客家語の影響を受けてゐるが、聲は廈門系に屬し八聲（實際は七聲）であるが、音は廣東語、客家語にのみ見られる f v の音がある。海南語は語詞方面にマレー語分子相當入り居るは近時の





研究によりて明かにされたり。  
 ⑥ 客家語の聲音は、支那古代中原の音聲なりと言はれる。この族は、自ら一社會を構成し他社會と交渉をためため、その言語も他方言の及ばざる純度を保ち得たるものである。  
 ⑦ 福州語は、廈門語に類似するもの少くはないが、寧波、温州の方言にも語詞上類似を見る。この方言を表記するに使用する文字は、他方言に比して、最も北京語に近きは、興味有る現象なり。  
 以上の方言を、廣東語、客家語、廈門語を夫々中心として、類似度の強き順に排列すれば次の如くなる。

—— は語詞に類似有るを示す  
 - - - - は聲音に類似有るを示す  
 ..... は音にのみ類似有るを示す  
 ×印 は大體に於いて獨立せるを示す



(5) 各方言の使用人口と分布地域

言語の勢力は、それを操る種族の經濟、文化、政治的條件の優越に依つて左右せられることは勿論であるが、その種族の人口、地理的條件も看過し得ぬ決定要素である。この意味で各方言を操る人口、又それが分布されて居る地域を知ることが必要となつて来る。以下簡単に此等に就いて紹介して見る。

① 福州語

福州・福清・古田・福安・壽寧一帯に通用する外、南洋各地に居住する此等の土地出身者の間に使用される。使用人口は

福州市 三九〇、〇〇〇人  
福清 三四、〇〇〇人

古田

福安

壽寧

不明

合計四十五萬前後と推定せられる。南洋華僑中の福州人は、その人口未詳なるが、福州の三刀ミツカミナ(料理人、裁縫人、理髮人)と言はれて居る位、その社會的地位は低いのであるから、使用人口が假令多くあつても、その實際上の勢力は取るに足らないであらう。

② 厦門語

厦門語は南支那方言中の雄たるのみならず、南洋に於いても實に大きな勢力を有する、厦門語とは、勿論厦門市の言語を指して言ふのであるが、泉州地方、漳州地方の言語もこれと大同小異であり、且つ南支那沿岸一帯

は、厦門人の進出發展により、温州より海南島に至る間、隨處に使用地域を有してゐると言はれてゐる。厦門市の人口は、僅々二十一萬位のものであるが、沿岸各地の人口を算入するときは二百萬以上の使用人口を有することになる。福建省の人口は一一、七五五、六二五人(内務部の調査)又は九、七四一、七九四(陶孟和氏の調査)と言はれ、約一千萬人と推定される故、その二十パーセントを占める理である。又南洋の華僑について見るに、所謂福建人となつてゐるのは、殆んど厦門地方の者であるが、これは

佛印 七六、二九四 泰國 二五〇、〇〇〇 馬來 五八一、一九三  
蘭印 六七七、九五八 ビルマ 四四、一一八 比島 八八、四〇〇  
合計 一、七一一、九六三

の數字を示すが、福州語使用華僑を二十%と見れば、約百五十萬の厦門語使用華僑の存在を見る理である。

③ 潮汕語

潮汕語の使用地域は、汕頭・潮州・潮陽・揚陽一帯の地方で、福州語と同様に使用範圍は極めて限られ、使用人口も、汕頭市の約二十萬、其他の計約二十五萬、合計約四十五萬にすぎないが、南洋に於ける勢力は、實に刮目するに値する、即ち、

泰國 一、五〇〇、〇〇〇 馬來 二〇五、二二七  
蘭印 一、二二三、二六五

計 一、八二八、三九二  
で泰國に於いては全華僑の六十%を占めてゐる。華僑中に廣東出身の者が多いと言はれるが、使用言語の方面から言つたならば、潮汕系の華僑は、厦門系に入ることを見なければならぬ。



④ 海南語

海南語の分布地域は、支那に於いては海南島に限られてゐるが、南洋に於いては、タイ國、馬來、蘭印に見られる。その使用人口は、

海南島	二、一九五、六四五人
泰國	二五〇、〇〇〇人
馬來	一〇二、五六四人

である。但し、海南島に於いては、瓊山縣の四二一、七四八人、文昌縣の四一、五六七人の漢族に通用するのみであるとも言はれる。

⑤ 客家語

今回の日支事變を契機として、客家問題は我々の前にクローズアップせられた。客家の來歴については、専門書に譲る。客家の分布地域は、次の如く分けらる。

東部客家 大埔、梅縣、五華、饒平、惠來、興寧、蕉嶺、普寧、平遠、海豐、陸豐、  
 中部客家 花縣、清遠、赤溪、乳源、英德、翁源、佛岡、  
 南部客家 欽廉地方——防城、欽縣、靈山、合浦、廉江、  
 これ等の人口は、東部二百五十萬——二百六十萬、南部八十萬、中部百六十萬、計約五百萬前後と見られる

も、もとより確實なる統計はなく、これは非客家系の者の推定に基くものである。客家自身の推定によれば、彼等は、廣東省人口三千萬中少くも三分の一以上は客家人であるとなし、又民國十九年客家大同盟會は「長江以南の廣東、廣西、福建、江西、浙江に散在する客家は四千萬人に達す」と言つてゐるところよりしても、大體の見當がつくのであらう。

各地の客家語は、勿論全く同じではないが、大同小異であると言はれ、特に支那社會上に勢力を有する廣東客家の言語は統一されてゐる。南洋華僑中の客家人は殆んどすべて、廣東系客家で、次の如く人口分布を示す。

佛印	一一四、四四一	泰國	二〇〇、〇〇〇	馬來	三〇七、六九一
蘭印	一二三、二六五	計	一、七五四、二二二		

⑥ 廣東語

廣東語使用地域、人口については「廣東語の勢力」の項を参照して載きたい。各方言の勢力

(7) 先づ使用人口から見ると、次の如き順位を示す。

(イ) 支那國內

(1) 廣東語 (2) 客家語 (3) 廈門語 (4) 海南語 (5) 潮汕語 (6) 福州語

この中一千萬以上の使用人口を有するのは、廣東語、客家語のみである。海南語は海南島の人口は二百萬以上有るが、使用人口の實際は前記二縣の約四十六萬人に限られる故潮汕語、福州語と殆んど同じ位置に立つ理である。

(ロ) 南洋華僑間



(1) 潮汕語 (2) 廈門語 (3) 廣東語 (4) 客家語 (5) 海南語 (6) 福州語  
 前記の如く、福州語使用人口は未詳なるを以つて、この人口を廈門語使用人口から控除せねばならない。さするときは廣東語と廈門語は殆んど同等になるであらう。これらの中百萬以上の使用人口を有するのは、潮汕語、廈門語、廣東語である。

(ハ) 合計せる順位

- (1) 廣東語 (2) 客家語 (3) 廈門語 (4) 潮汕語 (5) 海南語 (6) 福州語

次に各方言の社會的經濟的價值に就いて考察して見よう。

福州語 福州人の社會的地位の低さと、福州の經濟的價值の貧窮さは一般に認められてゐる如く、従つて福州語の勢力は南支那方言中最下位に屬するものである。

廈門語 廈門人の海外發展成功に結びつき、福建省内南支沿岸に最大の勢力を振ふ外、南洋に於ける勢力は、同地方出身者の占める社會的經濟的地位の優越に隨つて、實に驚くべきものがある。例へば、馬來に於いては有力華僑二十名中十五名を占めて居り、(陳嘉庚、葉玉推、李光前、陳賜敏、李俊成等) 蘭印に於いては、二十六名中二十名を占める(林金寧、莊西言、張青龍、陳興硯、林盛輝等)

潮汕語 この方言は南支沿岸に於いては、潮州、汕頭一帶の極く限られた地域にのみ行はれるが、汕頭の經濟的活動の如何により相當なる勢力を有ち得やうが、廈門語程の勢力は期待出來ない。然しこの方言は泰國に大きな勢力を有する。この地方出身者の大部分は、泰國に於いて精米、貿易、商業に従事し、泰國の經濟上の實權を掌握してゐるのは周知の事實に屬する。試みに華僑有力者を拾つて見るならば、十四名中九名を占める(陳景川、曾仰梅、陳梧賓、廖公圃、鄧子彬等)

海南語 海南島の通用語として相當必要の有る言葉であるが、經濟上は廣東より來たる廣東人が實權を握り、廣東語は相當に通用する。又南洋に於ける勢力は、海南人の職業が、漁業、家庭使用人、製材業等下位に在るをもつて、殆んど見るべきものはない。

客家語 この言語の勢力は實に大きい。我々はこれを看過してはならない。参考までに客家族が如何に支那の各方面に進出してゐるかを紹介して見やう。

- (イ) 軍事方面  
 張發奎 廣東始興の客家族 第四戰區總司令  
 陳濟棠 廣東防城の客家族 元第一集團軍總司令  
 張炎 廣東合埔の客家族 元十九路軍副司令
- (ロ) 政治方面  
 鄒魯 廣東東江の客家族 西山派の一巨頭  
 陳銘樞 廣東廉縣の客家族 元廣東の省政府主席  
 陳公博 廣東省惠州の客家族 廣東省主席
- (ハ) 財政方面  
 陳維周 廣東省防城的客家族 元兩廣鹽務使  
 沈載和 廣東省羅定の客家族 元廣東省銀行頭取  
 鄒敏初 廣東省大埔の客家族 元中央銀行頭取
- (ニ) 文筆方面



張 資 平

廣東省梅縣の客家族

作家

支那人名辭典から一寸拾ひ上げて見ても、これ等の人々が居る。今日の支那を動かす中心力となつてゐるのは客家族であるときで言はれてゐるのも、決して空語ではない。歴史的な人物でも洪秀全、馮雲山、廖仲愷等が居り、更に孫文も客家族であるときへ言はれてゐるのである。南洋に於ける客家族の勢力も決して小さくない。例へば、かの抗日華僑の總元締的存在であり、馬來華僑を自らが有する言論機關（彼は星州日報、星華日報、星光日報を經營してゐる）を動員して煽動してゐる胡文虎は客家人である。斯の如く客家人の勢力は一般の豫想外に大きく、従つて客家語の勢力も他の方言より大きい。廣東の放送局が客家語の放送を行つてゐることは、客家民族の勢力を十分に認識してゐるからに外ならない。

廣東語 廣東、廣西の共通語は廣東語である。香港澳門も廣東語の勢力が及ぶ。廣東語は南支那の唯一の文化的香りをもちつ方言であり、經濟界に潤歩してゐる共通語である。廣東省の政治及廣東人の手によつてなされた廣東省の文化は、廣州市、香港を中心として廣東語を以つて傳へられた。そして各地方は廣州市を中心として動いた。又動かざるを得なかつた。これが廣東語を勢力有らした基である。廣東省出身の有力者は實に多い。然し彼等の活動すべき土地は、廣州市であり、香港であつた。彼等は廣州市の洗煉された言葉を操る様になつた。斯くして廣東語は省内の共通語となり、福建省に見られる如く方言の對立を解消した。今南支那の經濟的活動を考へるならば、珠江をはなれることは出来ない。これは即ち廣東語の勢力地域である。南洋に於ける廣東語は、佛印に最も大きな勢力を有する。（これについては「廣東語の勢力」の項を参照されよ）

以上を綜合要約して、各方言をその勢力の大なる順に排列するならば次の如くなる。

- (1) 廣東語 (2) 廈門語・客家語 (3) 潮汕語 (4) 海南語 (5) 福州語

## 【五】 廣東語と北京語

支那各地の方言を北京語と比較するならば、凡ゆる點——文法・語詞・發音——で此の二者の隔たりは最も大きい。聽覺言語方面・視覺言語方面より見るも最も完成されて居るのは北京語で、廣東語は之に次いでゐる。他地方の方言には、常用慣用さるべき文字を伴つてゐるもの少く、視覺に訴へる場合には、一様に、文言文に依頼してゐるのであるが、獨り北京語は常用慣用さるべき「白話文」を有する。次ぎにこの北と南に相對立する二方言の比較検討をなさんとするのであるが、凡そ言語相互間の比較は、文學・音聲・語法に就いてなされるのが常とするのであるが、方言の比較に於いては語詞の比較も重要な一部を占めるのであらう。

### 【一】 文字に就いての比較

廣東語は北京語と同様に、漢字を使用して表記される。北京語にも、例へば「不用」を續けて「甬」とする如く獨特な文字がない理でないが、廣東語にはそれ特有なる漢字が夥しい。最も普通に使用されてゐるものでも五十を下らないが（試みに坊間の「速成廣東語」等の書に就いて見られよ、茲には印刷の都合上例擧を略す）これ等は、表意文字たる漢字の不足を補ふ表音文字であるが、或は或る特定の名詞或は動詞に與へるために創造したるものである。故に一般に「口」偏を有して居り、或は二文字の結合されたものが大部分を占めて居るのである。

### 【二】 音・聲に就いての比較

- (1) 廣東語の音・聲に就いては、次の「廣東語の發音」に詳述するが、茲には簡単に北京語と比較して見る。



a 北京語の音の数は四百三十四百七であるが、廣東語は最小六百五十以上である。

b 北京語には舌葉音と、舌尖音の差異がある、ウエード式によると  
[chih] [ch'ih] [shih] [jih] と [ch'i] [chi] [hsi] [li]

c 單母音の数は、北京語は七種、廣東語は九種である。

d 複母音の数は、北京語四種、廣東語九種である。

e 附聲母音の数は、北京語四種に比し、廣東語は三十種を數へる。これは「入聲」の存在によるのである。

f 子音は、北京語二十二種、廣東語十九種である。

g 北京語には長母音、短母音の別はない、廣東語には a [o] にこれが認められる。

h 北京語に於いては、入聲は完全に消滅して居るが、廣東語は（三種の聲）の入聲を有する。

即ち北京語には [-p] [-k] [-t] はないが、廣東語の入聲はこの中のどれかで收音してゐる。

(2) i 北京語に於いては [n] [ng] は常に收音の役を果すが、廣東語に於いてはこれらが音頭になる場合がある。聲に就いて

北京語の聲は已に周知の如く、上平・下平・上聲・去聲の四種に分けらる、廣東語は、平・上・去・入を高調と低調に分け、入聲には更に中入聲があり、計九聲であるが、次節に説く如くこの外に變聲が有る。

北京語……………四聲

北京語

上平 下平 上聲 去聲

廣東語

上平 上上 上去 下平 下上 下去 上入 中入 下入

a 到著方向を表はす「介詞」の省略

北京語

廣東語

上平・下平・上聲・去聲

廣東語……………九聲

上平・上上・上去・上入……………高調

下平・下上・下去・下入……………低調

中入……………中調

(3) 尙ほ廣東語の「聲」の種類については、今日迄多くの異説があるが、九聲以下の説は皆誤であり、九聲以上の説も、九聲以外の聲を變聲として取扱はないならば、これも誤である。換言すれば、九聲は嚴として存在するが、九聲では不十分であり、更に變聲を或る一定の制限の下に認めるべきである（次節に詳述）尙参考までに上部に北京語と廣東語の音譜を掲げて置く。語法に就いて文法上の差異は僅かに次の諸點に認められるにすぎない。



你上那兒去？

你去邊處呀？

你到這兒來罷！

你嚟呢處喇！

b 可能を表はす助動詞の後置

他不能來

佢唔嚟得

我不能吃

我唔食得

c 比較の場合

這個比那個好

呢個好過個個

他比你高

佢高過你

廣東語も、北京語と同じく、「比」を使つて比較を表す句を作るが、この様な比較法を取る「過」は古文の「於」が形容詞に直續して、比較を表はすに似てゐる（「紅葉紅於二月花」紅葉ハ二月「花ヨリモ紅ナリ」）

d 副詞の位置

多買幾本書

買多幾本書

這個太大（過於大）

呢個大過頭

先用這個吧

用呢個先喇

再走一盪吧

再去仗添喇

(イ)の「多」の位置は動詞の後に來るのが、一般の語序であるが、北京語と同様にしても差支へない場合もある。それは、次に程度を表すべき形容的な言葉の來ない場合である。ロの「頭過」なる副詞は北京語で極度を表すとき「到家」「極了」を使用するのと軌を一にする。

(=)(ハ)(ロ)(イ)

(ハ)は廣東語に特有なる表現法である「先用呢個喇」と言ふも良いが、それにもまして「用呢個先喇」が使用される。そしてこの場合「喇」は必ず上平聲に讀まなければならない。

(ニ)も「先」の後置と同様に見られる、「喇」は矢張り上平聲に讀まねばならない。

e 賓語の位置

我給你錢

我畀錢你

「把」錢我給你

錢畀過你

直接賓語と間接賓語の位置は、普通反對になる。若し双賓語に非ざるときは「過」の如き介詞を伴ふのが常である。勿論介詞による賓詞の提前、例へば、「我把這本書送給你」の如き場合は「把」の代りに「將」や「械」の如き介詞を使用して、「我將呢本書送你」とすることは出来る。「送你」の「送」がないときは「過」なる介詞を要求することは、前に同じである。

f 量詞に就いて

量詞（陪伴詞）に就いては、支那語を習ふ者が一度は悩まされる問題であるが、廣東語にも、この量詞は存在し、然も北京語の使用するものと殆んど異つてゐない。唯使用する文字が、音の關係で北京語より見慣れぬものが多い（例は印刷の都合を考慮し省略す）

g 現在完了の經驗を表はす場合

你坐過飛機嗎

你有坐過飛機嗎

你到過日本嗎

你有去過日本嗎

北京語に於いて過去の經驗を表はす場合には助動詞「過」を主動詞に後置する文で十分であるが、廣東語



に於いては、肯定の場合は通常「有」字を主動詞の前に置き、「過」を主動詞の後に置いてゐる。若しこれが否定になるときは

我沒(有)坐過飛機

我有坐過飛機

となり北京語では始めて「有」なる字が關係して来る。廣東語の「有」は一般に北京語の「沒有」のつまりたるものと説かれるも、南方方言に見られる「無」と同一のものと見た方が妥當するであらう。

h 人稱代名詞領格の複數表示

北京語に於いて、若しも「我的」と言ふ時は「私の」と言ふ意味にとゞまり、次の領せられるものが複數なるか、或は單數なるかは、知る由もない。例へば

我的兩本書(私の二冊の本)

に於いて「兩本書」を言ふまでは、複數なるか單數なるかは「我的」のみでは推定がつかない。廣東語に於いては、「我的」に當る詞は「我嘅」であるが、この場合は常に領するものが單數の場合に使用される。

若し複數なる時は、「嘅」は「啲」に改めることが必要になる。例へば

我嘅一枝鉛筆(私の一本の鉛筆)

は正しいが

我嘅兩枝鉛筆(私の二本の鉛筆)

とは言はずして

我啲兩枝鉛筆(私の二本の鉛筆)

としなければならぬのである。

「啲」は又「個」とも對照的に、單複の表示に使用されてゐる。例へば

呢個……これ

呢啲……これら

(4) 語詞に就いて

方言構成の大きな要因は、常に音韻と語詞の差異に存する。換言すれば、甲方言と乙方言を比較する時、最も大きな相違は語詞と音に認められ、語法には見出し得ぬのが常なのである。元來同一言語と雖も、相異れる條件の下に、その變化を自然に委せて置く時は、或る長い年月の間には、必ず、種々な點に不一致を來たす事になるのは否定出來ぬであらう。況んや廣東と北京は地理的に歴史的に常に相對蹠的立場を取り來たつて居るからには、この二方言の差異が年の経過と共に益々大きくなつて行つた事は、點頭き得る所である。故に語詞に於いては、音韻に於ける以上に、外國語も當らぬ隔が認められ、これ等を一一對照して行く丈でも、優に一著をなし得る位であるが、今こゝには各品詞別に若干の對照をなして見やう。

a 代名詞

北京語

我 (第一人稱)

我們 (同複數)

你 (第二人稱)

你們 (同複數)

他 (第三人稱)

他們 (同複數)

廣東語

我 (第一人稱)

我哋 (同複數)

你 (第二人稱)

你哋 (同複數)

佢 (第三人稱)

佢哋 (同複數)



甚麼(何)  
那個(それ、あれ) (どれ)  
這個(これ)

乜野(何)  
嗰個(あれ) 邊個(どれ)  
呢個(これ)

b 形容詞

賤 (安い)

平 (安い)

小 (小さい)

細 (小さい)

漂亮 (きれいな)

靚 (きれいな)

結實 (丈夫な)

穩陣 (丈夫な)

骯髒 (きたない)

污糟 (きたない)

c 動詞

站 (立つ)

企 (立つ)

說 (言ふ)

講・話 (言ふ)

是 (……である)

係 (……である)

吃「飯」(「飯」を食べる)

食「飯」(飯を食べる)

喝「酒」(「酒」をのむ)

飲「酒」(酒をのむ)

d 助動詞 (一)

打算

想要 (……せんと欲す)

想・打算 (……せんと欲す)

願意

唔使 (……するに及ばず)

不用 (……するに及ばず)

味 (……する勿れ)

別 (……する勿れ)

緊 閱 住 (……しつゝある)

e 助動詞 (二)

着…… (哪)

緊 閱 住 (……しつゝある)

(……しつゝある)

(……しつゝある)

f 副詞

很 (非常に)

好 (非常に)

一點兒 (少し)

些少・啲 (少し)

恰巧 (丁度)

正話・啱啱 (丁度)

現在 (今)

而家 (今)

早就 (疾くに)

大早 (疾くに)

這程子 (この頃)

呢牌 (この頃)

g 介詞

在 (……にして)

喺・在・响 (……に、……で)

給 (……に……)

界 (……に)



爲・替 (……と……の爲に……から)

的 (……の)

把・將 (……を)

同・同埋 (……と、……の爲に……から)

嘅 (……の)

將 (……を)

h 連

詞

若 (若しも)

就是 (也・都)(假令……でも)

若果 (若しも)

就係……(都)(假令……でも)

和

同 (……と)

同・同埋 (……と)

跟

及

可是 (然し)

但係 (然し)

i 名

詞

此は最も普通なるものを「人倫」「職業」「日用品」に分けて若干宛擧げる事とする。

① 人倫關係

爸爸 (御父サン)

媽媽 (御母サン)

爺爺 (御祖父サン)

亞爸 (御父サン)

亞媽 (御母サン)

阿爺 (御祖父サン)

② 職

職業

拉車的 (車夫)

木匠 (大工)

泥匠 (左官)

理髮館 (床屋)

照像館 (寫真屋)

車仔 (車夫)

抖木佬 (大工)

泥水佬 (左官)

飛髮舖 (床屋)

映相館 (寫真屋)

③ 日用品名

雨衣 (レインコート)

雨傘 (雨傘)

手帕子 (ハンカチーフ)

胰子 (石鹼)

黃油 (バター)

手套子 (手袋)

雨褸 (レインコート)

雨遮 (雨傘)

手巾仔 (ハンカチーフ)

番梘 (石鹼)

牛油 (バター)

手襪 (手袋)



冰淇淋 (アイスクリーム)

雪膏 (アイスクリーム)

自行車 (自轉車)

單車 (自轉車)

紙數の都合上、以上簡單に、腦裡に浮かび出たものを列擧して見たが、これ丈でも、如何に語詞上に大きな差異が有るかを知らぬに充分であらう。特に之等が同じく漢字で表記されて居らず、若しローマナイズされたとしたら、全く異なる二つの外國語であると思ひ込むも何等怪しむに足らぬであらう。

## 【六】 廣東語拉丁化<sup>ラテン</sup>の二案

### ——廣東語の表記問題——

傳道に渡來した宣教師が、バイブルを翻譯するに當つて最も苦しんだ事は、それを如何なる文字に依つて表記するかの問題であつた。漢字は一部讀書人即ち官吏の獨占物であつた支那では、文盲は信じ得ぬ様なパーセンテージを占めてゐた。之等の文盲に道を傳へる爲に、若しも漢字に依つて表記されたるバイブルを興へんとするならば、勢ひその前に、識字教育を施さねばならない。而も文盲に屬する人々に、あの筆畫の難しい漢字を一々教へて行く事は、少くも數年の努力を必要とするであらう。斯る時間的餘裕を見出す事は、宣教師側にとつても、傳道の對象となるべき一般文盲にとつても極めて困難な事であらねばならない。之が漢字に代るべき文字の考案を促した。厦門、福州、汕頭等の土白に譯されたバイブルが羅馬字を以て記されてゐるのも此の現れである。支那語を羅馬字で表はさんとする試みは、斯くして清朝の末期に已にその芽生を見て居つた。(南邦經濟第十卷第一號拙文「支那に於ける國語運動」

の切音運動中に「厦門の人盧憲が、宣教師が羅馬字に依つて土語を表記し、バイブルを著してゐるのに啓示を得て、苦心の結果『中國第一快切音新字』なる五十五箇の記號を發明し……」は此の邊の事情を明かに物語つてゐるのであらう)然し此の羅馬字表記法は、傳統と因襲の國支那に於いては、容易に漢字の地位を乗取る迄には至らず、その間注音符號の制定(一九一八年)國語羅馬字の公布(一九二八年)等の劃期的な事は見られたが、改革に對し常に「換湯不換藥」的な方法を尊重する支那に於いては、漢字に代るどころか漢字に從屬的なものに墮せしめて了つた。所が之等御用的な考案と全く離れ、或一つの鮮明なる目標をもつて登場した「新文字」があつた。之が「中國拉丁文字」であり、之を普及せんとする「拉丁化運動」であつた。中國拉丁文字の發祥は蘇聯であつた。蘇聯當局は一九一三年に、在蘇聯華僑——或は漢民族と言つた方が適當であらう——の知識吸収用、共產主義宣傳の爲に考案したる「中國拉丁文字」にその源を有するものである。此の考案は支那の文化人の間に物凄い反響を惹起した。此の案の魅力は何に在つたか。① 難解なる漢字の桎梏から文盲を又自らをも脱せしめ得ると考へた事と、② その使用する文字は二十六字にして、覚え易く、書き易く、發音し易い事、③ 各地の方言を許容したる事、④ 大衆語を表記するには決して不自由せぬと考へられた事、⑤ 國際化せる現代術語を吸収し得る事、⑥ 又凡ゆる地名人名その他の固有名稱は、完全に漢字音で表はされぬ不満より免れる事、⑦ 支那語の國際化を計り得る事、等々が擧げられるであらうが、此の中①②は、文盲に文字を興へ、更に支那文化一般水準の提高に特に貢獻するところがあると考へられた。されば魯迅の如き者も、「門外談文」中に、

「……若しも全國各處に赴き集めるならば、此の種類の作品(大衆的文學)は、恐らくまだ多く事であらう。だが缺點がある。それは難しい文字、難しい文章の封鎖を受けて、現代の思想と隔絶してゐるのである。若しも支那の文化が共に向上せんとするならば、是非とも、大衆語、大衆文を提唱せねばならない。而もその書法は必ず拉丁



化でなければならぬ」と言ひ放つてゐるのである。文化的指導家の彼が斯くの如き言葉を發して居る位、支那語を拉丁化にせんとする一部文化人の熱望は熾なるものがあつたのである。又一方此の拉丁化法案は（南邦經濟十卷第一號の七七頁に示した如く）五つに分けた地方々言を標準として、各々の拉丁文化を計る立前となつてゐる關係上、五方言の研究は、改めて之等拉丁化運動家達に依つて行はれるに至つた。北京語は國語として研究されてゐる爲か、先づ北方語拉丁化案が世に問はれた。（之に關しては北京新文字研究會の『新文字課本』が最も詳しく説いてゐる）續いて胡繩氏の『江南話概論』『厦門語概論』が公にせられ（一九三四年）、次いで『廣州新文字統一方案』（廣州新文字書店出版）一九三六年）、『廣州話新文字課本』が世に問はれた（一九三七年）斯くして、湖南、江西方言を除いた、全ての拉丁化の用意は完了したのであるが、實績から言つたならば、全く見るべきものを持たぬ中に、今回の事變に逢著し、すべての文化運動の餘儀なき停止と同時に、その普及も一時的（或は相當長い時間に亙るかも知れないが）休止のやむなきに至つてゐる。此の拉丁化については、支那の國字問題と關聯して、極めて興味ある問題を我々の前に提供して呉るのであるが、一方我々の如く支那語を學習研究して居る者には、その發音に關して實に有益なる知識を授けてくれるのである。こゝに改めて、廣東語の拉丁化方案を紹介せんとする意圖は、今日迄發音に關して定説のない、廣東語界に一資料を提供せんとするに外ならない。

扱て廣州語方案は一九三六年に公にせられたが、その案の内容は北方語拉丁化案の一般原則を廣東語に踏襲せるに過ぎず又極めて抽象的なものである。『廣州話新文字課本』は荻原氏（中國人）の編著にかゝり、一九三七年二月に出版され、『方案』に比して、極めて具體的であり、殊に我々廣東語を學習する者にとつて、知り度い發音について詳述しあるを以て、茲には此の『課本』を基にして説明して行く豫定である。

※

※

※

※

※

第一部 發音

(1) 母音

拉丁化廣州語（以下單に拉廣と稱す）に於いては母音の數は六箇である。即ち

a	e	i	o	u	y
[a]	[ɛ]	[i]	[o]	[u]	[y]
ア	エ	イ	オ	ウ	ユ
(a)	(e)	(i)	(o)	(u)	(y)
亞		衣	荷		於

〔〕内は國際音標、三段目は注音符號、（）内は北京語ウェード式、a e i o u の五母音は「正則母音」、y は「非正則母音」と言はれる。之は前者が共に圓唇、縮舌、扁唇、舌伸の法則に依つてゐるに反し、後者は、此の法則の二種を合せ用ゐる爲である。此の中 e と u は獨立しない。y の發音は、北京語の「ü」に同じである。即ち i を發音しつゞけて、口を u の型にすれば、この音が出て来る。

(2) 複母音

『拉廣』に於いては、十一の複母音を擧げてゐる。

① i との複合……五種



iu	au	ao	② uとの複合……四種							ui	oi	ei
[iu]	[ ]	[au]	會	悔	茶	拾	波	呆	地	地	飛	
			議	過	杯	椅	菜	仔	皮	下	機	
※ 反		※ ㄤ	wui	fui	ca	toi	bo	oi	dei	dei	fei	
※ (yu)		※ (ao)	i	gwo	bui	ji	coi	zai	pei	xa	gei	
			霽	梅	加	五	改	外	四	奇	譬	
腰	歐	拗	左	菜	倍	彩	過	邊	個	怪	如	
			mui	mui	ga	ng	goi	oi	sei	kei	hei	
			zo	coi	pui	coi	gwo	bin	go	gwai	jy	

		ae		ai		※ ae	ui	oi	ci	ai
例	契	矮	拐	太	寫	[ai]	[ui]	[oi]	[ci]	[ai]
如	仔	仔	帶	太	晒					
lae	kae	ae	gwai	tai	se		ㄨ		ㄨ	ㄨ
jy	zai	zai	dai	tai	sai				(ei)	(ai)
禮	細	鼻	打	皮	挨					
拜	個	涕	牌	帶	餓					
lae	sae	bei	da	pei	ai					
bai	go	tae	pai	dai	o					

※印のaeとaiとの差に就いては明瞭を缺くも、實際はaの方にaiとの差があるのである。「廣東語の音」の項で説明した複母音と單母音との差である。此の複母音を含む詞を若干あげる。







[3]

鼻音韻  
① mとの結合……三種

	oe				ey
耳	吓	對	火	佢	女
菜		暗	腿	哋	仔
		住			
i	coe	dey	fo	key	ney
doe		m	tey	dei	zai
		zy			
皮	鋸	暗	累	衰	去
靴	野	使	贅	仔	街
		拘			
pei	goe	m	ley	sey	xey
xoe	je	sae	zey	zae	gai
		key			

この三種は双唇鼻音とも言ふべきものにして、先づ a e i を夫々發したならば、續いて迅速に双唇を閉ぢ、氣

息を鼻腔から流出せしめるのである。

次に出て来る n ng の鼻音にも關係してゐるのであるが、若し此の種の鼻音が入聲（上入・中入・下入を問はず）に發音される時は、m は b、n は t、ng は g に變化する。

故に  
m ↓ b      ム ↓ ブ  
n ↓ t      ヌ ↓ ツ  
ng ↓ g      ン ↓ ク

im ↓ ib      [ip]      葉  
em ↓ ep      [ap]      鴨  
am ↓ ab      [ap]

之等入聲音の發音法は、a e i 母音を發し、續いて直ちに雙唇を閉ぢると同時に息を斷てばよいのである。この三種を雙唇促母音と言つてゐる。以上二種の例をあげる。

← am      悽      慘  
cae      担  
cam      挑  
dam  
tiu



un	on	oen	in	en	an
↓	↓	↓	↓	↓	↓
ud	od	od	id	ed	ad

[ut] [ot] [oet] [it] [ ] [at]

熱 壓

※は稍々その音に近きを示す。  
 之等を舌尖鼻母音と稱する。先づ母音を發し、舌尖にて硬口蓋を抑へ、氣息を鼻口から流出せしめればこの音になる。  
 若しも、舌尖にて硬口蓋を抑へ、突然氣息を斷つならば、nはb(t)に變り、入聲の音が出て来る。その各々は

yn un  
 [yn] [un]  
 寬  
 (yüin) (un)

② nとの結合  
 ou oen in en an  
 [ou] [oen] [in] [ ] [an]  
 安 烟 歪 晏  
 ( ) ( ) (iu) ( ) (an)

ib ← im cb ← em af

事 試 緝 侵 玷  
 業 驗 私 佔 坂

si si ceb cem lab  
 jib jim si zim sab

獵・檢 救 二 水  
 狗 查 急 嬌 塔

lib gim gau i sey  
 gau ca geb sem tab



oeng ing eing eng ang

[oey] [iy] [ey] [afi] [afi]

-( ) (ing) (eng) ( ) (ang)

ㄨ ㄨ<sup>\*</sup> ㄨ

英 鶯 罌

③ ngとの結合……七種

oed ← oen yd ← yn ud ←

律 春 說 冤 活  
師 天 話 屈 潑

loed caen syd yn wud  
si tin wa wed pud

出 進 血 完 潤  
街 步 汗 全 佬

coed zoen xyd yn fud  
gai bou xon cyn low

un od ← on id ← in cd ← en ad ← an

碗 割 安 切 癩 毛 毘 殺 犯  
碟 開 心 茶 佬 筆 鈍 人 罪

wun god on cid din mou wen sed an  
dib xoi sem cai low bed ten jen zey

半 沙 漢 熱 緬 油 喇 牙 懶  
日 葛 奸 烈 甸 漆 攪 刷 鬼

bun sa xon id min jau fen ao lan  
jeed god gan lid din ced gao ad gwae

以上の例詞をあける。

yn ↓ yd

[yt]

月



ig ← ing	eig ← eing	eg ← eng	ag ← ang				
歴 政	踢 精	北 朋	革 冷				
史 治	波 乘	京 友	命 天				
lig zing	teig zing	beg peng	gag lang				
si zi	bo wai	geng jau	ming tin				
織 冰	石 鐵	得 點	拆 甜				
布 糖	灰 釘	意 燈	屋 橙				
zig bing	seig tid	deg tim	cag tim				
bou tong	fui deing	ji deng	ug cang				

以上の例詞をあげる。

ung	ong	oeng	ing	eing	eng	ang
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ug	og	oeg	ig	eig	eg	ag
[uk]	[ɔk]	[oek]	[ik]	[ek]	[ ]	[ak]
屋	惡	益	握	扼		

發音に際し、若しも突然氣息を阻塞するならば、次の如き入聲の音になる。これらを舌後促母音と言つてゐる。

※は稍々近き音を示したり。

ung	ong
[ug]	[ɔg]
(ung)	( )
ㄨ	
ㄨ	ㄨ



r	n	l	t	d
[r]	[n]	[l]	[t']	[t]
	ㄋ	ㄌ	ㄊ	ㄊ
(n)	(l)	(t')	(t)	
挪	羅	拖	多	
} 舌尖音				

m, f は北京語の m と同じである。  
w は上下唇を合せ、氣息を兩唇中間の窄道から出す。北京語の u と同じである。

老	爸	lou	ba
婆	爸	po	ba
			啤
		恐	酒
		怕	
		pa	zau
			bei
			zau

は有氣音。      は無氣音。

此の五種の子音は雙唇の活用によつて發せられる。即ち b, p は先づ上下唇を固く閉ぢ、舌を下齒床においてから上下唇を強く開く事に依つて、この音を出す。b と p との差は有氣音と無氣音なり。例へば

f	w
[f]	[w]
	×
(f)	(u)
科	渦

(4) 子音

『拉廣』は、次の如き子音を決定してゐる。

m	p	b
[m]	[p']	[p]
ㄇ	ㄆ	ㄇ
(m)	(p')	(p)
摩	破	波
} 雙唇音		

ug ← ung	og ← ong	oeg ← oeng			
粟	大	確	工	麻	手
米	衆	實	廠	雀	槍
sug	dai	kog	gung	ma	sau
mae	zung	sed	cong	zoeg	coeng
木	凍	剝	恐	手	生
頭	死	削	慌	脚	蓋
mug	dung	mog	xung	sau	sang
tau	sei	soeg	fong	goeg	goeng



この五種の子音は、舌尖の活用に依つて發せられる。例へば d, t は先づ舌尖を上齒根につけ、氣息を阻めてから發するのである。d は無氣音、t は有氣音に使用せられる。

r なる音素は、廣東語中にはないのであるが、『拉廣』は外來語を吸收する場合の便を考へて設けて置くに過ぎない。

z	s	c
[ts]	[s]	[ts']
p	ʌ	ʈ
[ts]	[s]	[ts']
左	梳	初
舌葉音		

此の三種の子音の發音には、前舌葉を上齒と接觸させるが、舌尖を門齒の背面に接近させてはいけない。但し廣州市西關一帶では、この音を發する時には、舌尖を門齒に接近さす。廣州市の西關話が綺麗だと言はれてゐるのはこのためなり。

j	ŋg	k	g
[i]	[y]	[k']	[k]
l	兀	ㄎ	ㄍ
(j)	(ŋg)	(k')	(k)
(y-)	(ŋg-)	は北京語 になし	
啣	我	卡	哥
舌後音			

この四種の子音を發するには、舌後を活用する。例へば、g, k を發音するには、舌後を外起し、軟口蓋と接觸(或は接近)させ氣息を完全に阻塞してから、舌を降し軟口蓋からはなせば氣息が出、この音を構成する。g は無氣、k は有氣を示す。

こゝに注意を要するのは、ŋg 子音である。ŋg が母音と結合して鼻母音となる事は已に説明したが、このŋg は音段の最先に来るものである。『拉廣』に於いては、之を省略するもよいが、若し詞の連書の場合他の音が先行した時は、省略は許されないものである。強いて省略する場合には「ㄥ」を以て表示する事になつてゐる。

我 ŋgo→o. ŋg の省略可

烏鴉 wu ŋga→wu' a. ŋg の省略( ) の必要

文藝 memguae→men'ae 同上

『拉廣』に於ける j の音は i に同じである。j は唯「音を略する」に使用せられるのみならず(i, y の最初の音段)「也」(ja)「野」(je)「喇」(jo)の如き詞に於いては、全くの子音と同じである。

x [h] ㄏ ㄏ 苛 聲帶摩擦音

この音を發する時は、聲門を大きく開き、氣息を口腔から自由に流出させる。但し、聲門を通過する時は摩擦の響がなければならぬs。「哈」(xa)「嘻」(xe)「苛」(xo)はこの音である。

以上で『拉廣』の二十四の子音をあげたのであるが、特記すべき點は、有氣音、無氣音の別を二つの異つた符號に依つた事、又注意すべきは x, j の用法である。

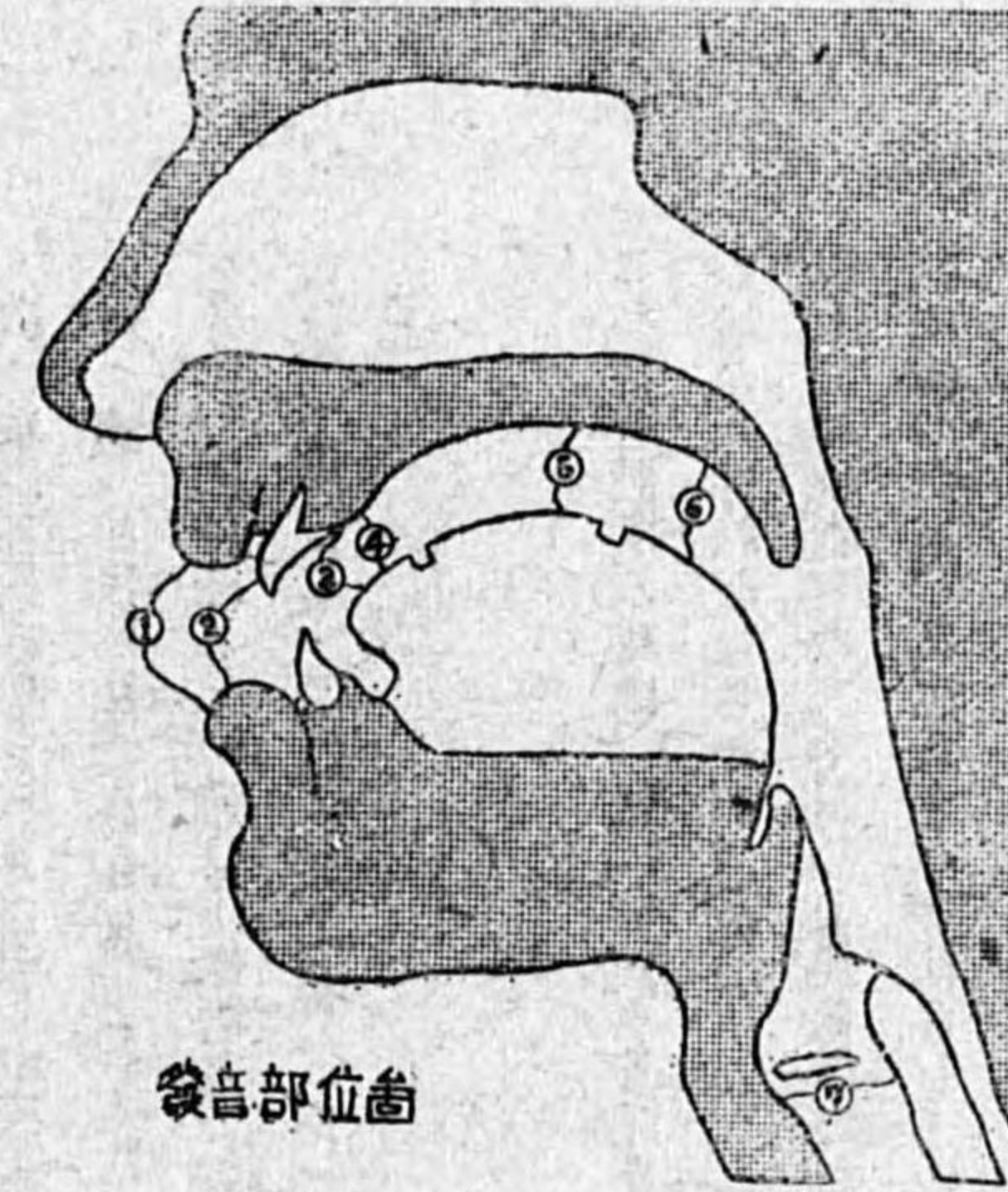
次に參考迄に發音部位表を掲げて置く。



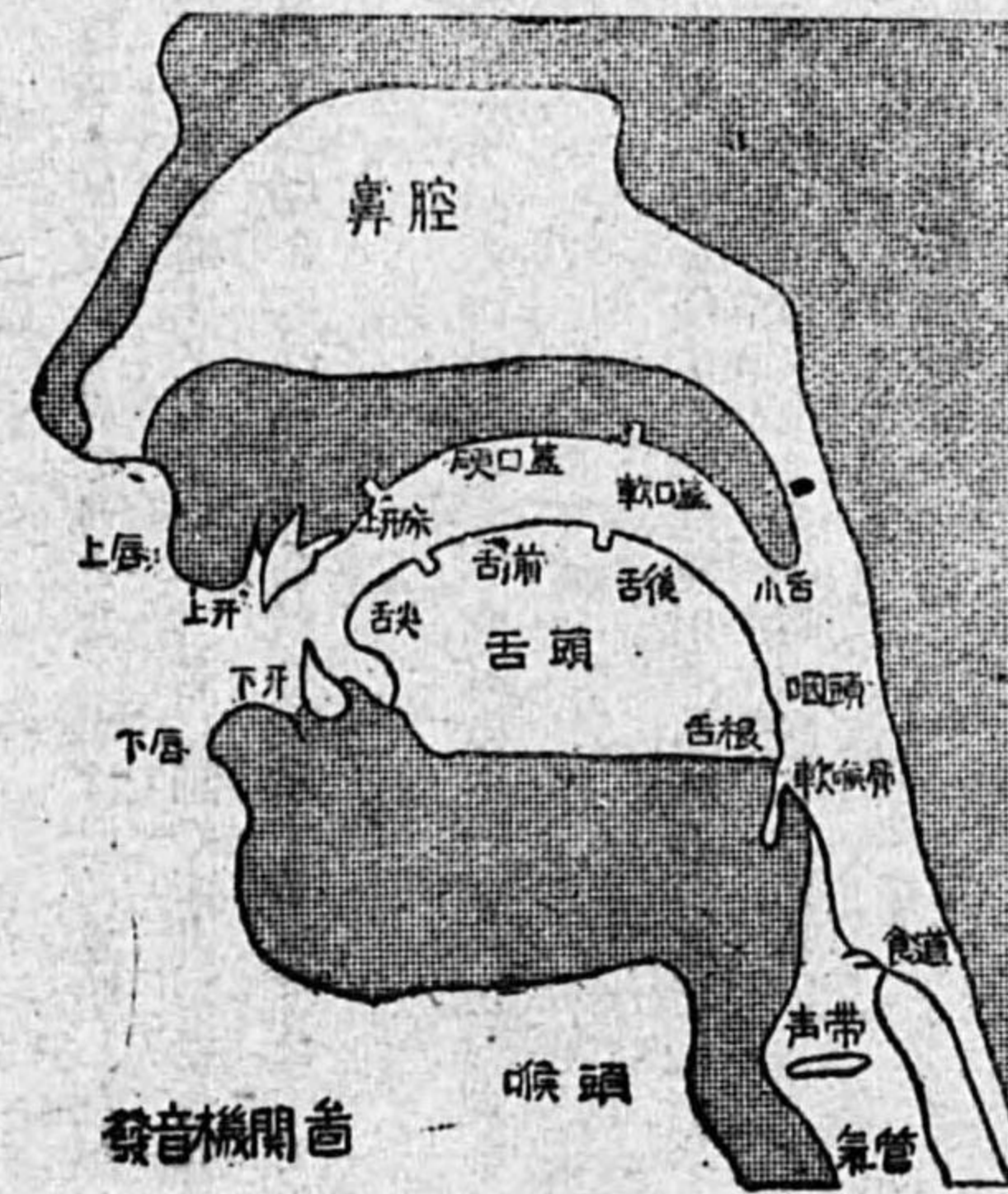
	(二)																				
ag ad ab	促母音	ang an am	ハ、鼻母音					イ、單母音													
eg ed eb		eng en em						複母音													
eig id ib		eing in im		<table border="0"> <tr><td rowspan="5">}</td><td>ai</td><td>ao</td><td rowspan="5">}</td></tr> <tr><td>ae</td><td>au</td></tr> <tr><td>ei</td><td>iu</td><td>ey</td></tr> <tr><td>oi</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ui</td><td>ou</td><td>oe</td></tr> </table>	}	ai	ao	}	ae	au	ei	iu	ey	oi			ui	ou	oe		a
}	ai	ao	}																		
	ae	au																			
	ei	iu				ey															
	oi																				
	ui	ou		oe																	
ig od		ing oen		e																	
oeg oed		oeng on		i																	
og ud		ong un		o																	
ug yd		ung yn		u																	
					y																

(一)

以上掲げた母音子音をまとめれば、(一)の如くなり、又之等を組合せれば(二)表の如く、八つの表を得る。



發音部位圖



發音機關圖

- (1) b. p. m. w.
- (2) f
- (3) d. t. n. l. r.
- (4) c. s. z.
- (5) j.
- (6) g. k. ng.
- (7) x.







(第四表)

帶雙唇促音母音

子 母 音	ab		eb		ib	
	鴨				葉	
b						
c	cab	插	ceb	輯	cib	妾
d	dab	答	deb	(下垂)	dib	疊
f						
g	gab	甲	geb	急	gib	劫
j	jab	(招手)	jeb	入	jib	(同ib)
k			keb	及		
l	lab	腊	leb	笠	lib	獵
m						
n	nab	納	neb	(凹)	nib	聶
ng	(ng) ab	鴨	(ng) eb	(點頭)		
p						
r						
s	sab	霎	seb	濕	sib	攝
t	tab	塔	teb	(合也)	tib	貼
w						
x	xab	呷	xeb	合	xib	怯
z	zeb	鬧	zeb	汁	zib	摺

帶雙唇鼻音母音

(第三表)

子 母 音	am		em		im	
	岩		庵		闇	
b			bem	兵		
c	cam	杉	cem	尋	cim	織
d	dam	担	dam	(踏)	dim	店
f						
g	gam	監	gem	甘	gim	兼
j	jam	(齶)	jem	飲	jim	(同im)
k			kem	衿	him	(拎)
l	lam	藍	lem	林	lim	廉
m			mem	[餌]		
n	nam	南	nem	(輓)	nim	拈
ng	(ng) am	岩	(ng) em	(耳語)		
p						
r						
s	sam	三	sem	深	sim	閃
t	tam	探	tem	(騙)	tim	添
w						
x	xam	鹹	xem	堪	xim	謙
z	zam	簪	zem	針	zim	尖



母音	子音		an	en	in	oen	on	un	yn
	an	en							
b	ban	ben	班	賓	邊	春	安	半	全
c	can	cen	餐	賓	前	頓			端
d	dan	den	旦	分	電	頓		歡	端
f	fan	fen	反	分	堅	潤	干		捐
g	gan	gen	奸	分	乾				權
j	kan	ken	懈	分	連	倫		門	權
k	kan	ken	懈	分	面				聯
l	lan	len	懶	分	年				聯
m	man	men	難	分	篇				聯
n	nan	nen	難	分					聯
ng	(ng)an	(ng)en	眼	分			岸	判	聯
p	pan	pen	盼	分					聯
r	san	sen	山	分					聯
s	tan	ten	嘆	分					聯
t	wan	wen	灣	分		盾	汗	碗	聯
w	xan	xen	慳	分					聯
x	zan	zen	賺	分					聯
z	gan	gen	關	分					聯
kw	gan	gen	關	分					聯
kw	gan	gen	關	分					聯

(第五表) 帶舌尖鼻音母音

母音	子音		ad	ed	id	oed	od	ud	yd
	ad	ed							
b	bad	bed	八	筆	必	出		bud	撥
c	cad	ced	擦	七	切			fud	撥
d	dad	ded	跌	突	跌				dvd
f	fad	fed	發	弗	(潔)		割		dyd
g		ged		吉	一				gyd
j	kad	ked	(措也)	一	咳				kyd
k	lad	led	揀	咳	也	律			kyd
l	lad	led	揀	咳	也				lyd
m	mad	med	[抹]	( )				mud	劣
n	nad	ned	(燙)	( )					
ng	(ng)ad	(ng)ed	(壓)	(匹)				pud	濼
p	pad	ped	( )		撤	率			syd
r	sad	sed	殺	失	薛			wud	脫
s	tad	wed	撻	風	鐵	卒			tyd
t	wad	wed	撻	乞	歇		渴		xyd
w	wad	wed	撻	質	折				zyd
x	zad	zed	扎	骨					
z	zad	zed	扎	骨					
gw	gwad	gwed	刮	骨					
kw	kwad	kwed	刮	骨					

(第六表) 帶舌尖促音母音







第二部 『拉廣』の書法

『拉廣』に於いては、聲調を標出することをしない。之は『拉北』に於いても同一である。國語ローマ字に於いては、(a) については a (第一聲) ar (第二聲) aa (第三聲) ah (第四聲) の如く聲調を表はす考案がなされてゐるが、『拉廣』『拉北』にはこれがないのである(この是非に關しては南邦經濟第十卷一號にのべた)然し、『拉廣』と雖もこれを全く無視することは出来ず、聲の表示なくしては區別し難い、そして區別を必要とする詞のみは、特別詞として特殊な考案がなされて居る。例へば、

賣 mai (賣る)

買 maai (買ふ)

佢 key (彼)

姪 keey (彼女)

係。xae (……である)

喺 xaai (「在」に同じ)

一 jeb (一)

日 jeed (日)

個個 go go (一個毎)

個個 goo go (あれ)

右にあげてある詞は、發音上特に紛らわしいのを集め、綴法を考慮したものであるが、「佢」と「姪」のみは些か趣を異する。これは北京語に於ける第三人稱代名詞の區別に同じもので、ただ性の別を明示せんがために外ならない。

〔1〕 名詞・代名詞の書法

一切の名詞・代名詞は、それが如何なる組織たるを問はず、連書しなければならない。

一觀念を表示する二つの名詞は、分開して書かねばならない。例へば、

中國學生 zungkwog xagseng

但し多くの音節の名詞でも、一つの觀念を表示してゐるものは、連書せねばならない。例へば、

帝國主義 Daegwagzyi

名詞の詞尾たる「仔」zai は本來の名詞とともに連書しなければならない。例へば、

細蚊仔 saemzai

番鬼仔 fanwazai

代名詞の複數詞尾たる「咁」dei は連書しなければならない。例へば、

我 咁 odei

你 咁 neidei

佢 咁 keydei

代名詞の所有格語尾、嘅 ge は連書されなければならない。例へば、

我 嘅 oge

你 嘅 neidege

若しも、ge が名詞の所有格を表はす場合には、それは語尾ではなく、後置せられたものであるから、分けて書かねばならない。例へば、

爸爸嘅朋友 Bada ge nengjau



〔2〕

動詞の書法

(1) 一般的書法

a 動詞とその目的語が単音節のときは、この二詞を連書する。例へば、

落 雨 logji 落—動詞、雨—目的語

食 飯 sigfan 食—動詞、飯—目的語

寫 信 seoen 寫—動詞、信—目的語

b 動詞とその目的語が、どちらか、或は兩方ともに兩音節以上のときは、分けて書かねばならない。例へば、

睇報紙 tae bouzi

食完飯 sigjin ian

打倒漢奸 dadou xongjan

但し

イ、動詞の目的語が代名詞のときは連書しない。

佢俾我 key bei o

ロ、動詞「係」はいつでも目的語と分離して書く—連書しない。

我係人 o xae jan

ハ、單音節の目的格語も、若し修飾語を伴つてゐるときは、三者を分けて書く。

寫封信 se fung soen

(2) 格と時—語尾は連書を要す。

現在を表はす 緊 食 緊 siggen

過去を表はす 左 食 左 sigzo

未來を表はす 就 就 食 zauig

推測假定を表はす 會 會 嚟 嘅 vuilaegc

(3) 動作の方向を表はす語尾は連書を要す。

嚟 lae 返 嚟 fanlae

上 soeng 上去 soengxey ↓ 走上法 zausoengxey

去 xey 出去 coexey

落 log 落來 loglae ↓ 跳落來 tinloglae

開 xoi 行開 xangxoi

(4) 動作の可能・意志などを表はす詞は連書せず。

能・可以 neng xaji 可以寫 xai se

我要學新文字 o iu xog sen menzi

但し可能を表はす中置詞(得)不可能を表はす中置詞(唔)は連書す

睇 得 見 taedeggin

睇 唔 見 taemgin

(5) 被動を表はす「被」は連書す。



被 厭 逼 bei 'adhiŋ

(6) 反覆の詞は連書す。

睇 一 睇 taejedtae

睇 唔 睇 tae-mtae

(7) 「唔係」(……た非らず)は常には連書する。

唔 係 mɨxae

[3] 形容詞・數詞・副詞の書法

(1) 一切の形容詞或は副詞は、それが幾音節たるを問はず、皆連書するを要する。

聰 明 cunŋmɨŋ

忽 然 fedjin

(2) 形容詞語尾「嘅」は連書するを要する。

白 嘅 beŋge

(3) 副詞語尾「咁」「咁」は連書するを要する。

慢慢 咁 nanmɨŋem

慢慢 咁 nanmandei

(4) 形容詞が、動詞・目的語と目的語の修飾語とより組成されるときは、夫々を分けて書く、但し「嘅」字の前には「一」を用ひて、最も接近せる詞と聯絡せしめる。例へば、

讀佐三年書嘅人 dugza samnin sy-gejen

(5) 一切の數詞と指示形容詞は、その後の「個」go「張」zoeng「本」han「塊」tai「條」tu「件」ŋin等と連書する。然しその後の名詞とは分開して書かねばならない。例へば、

一 張 枱 jedzoeng toi

一 本 書 jednu sy

(6) 指示形容詞と數詞は分けて書かねばならぬ。

個 五 個 人 goo uŋgo jen

(7) 數詞が若しも量詞を伴はないときは、分けて書かねばならない。

七 歲 ced sey

(8) 次序を表はす「第」は數詞と「」を以つて分けなければならない。

第 三 晚 dae-sam man

(9) 不定を表はす詞は「一」を用ひてつゞける。

「每」mi「頭」tauの書き方は、これに準ずる。

三 四 個 人 sam-seigo jen

(10) 一分數もこれに準ずる、例へば、百分之一は baglenzi-jed

副詞の成語若しも四或は四以上の音節よりなるときは、中間に「一」を入れる。

唔 知 唔 覺 mzi-mŋog

(11) 「好」xou「最」zey「頂」ding「太」tai等の副詞は、分けて書かねばならない。

「好」xou「大」xou dai



最 壞 zey wai  
 頂 有 錢 ding jau cin  
 太 嘈 tai cou

〔4〕 否定詞の書法

(1) 否定詞「唔」m「冇」mou「咪」mae とそれらと關聯する詞は、分けて書かなければならぬ。

唔 嚟 m lae  
 唔 讀 書 m dug sy  
 咪 食 mae sig

但し「唔係」は連書する。

(2) 複合動詞・詞中に入る「唔」は連書するを要す。

講 唔 定 gong manding  
 攞 唔 咁 gaot mandim

(3) 否定詞「非」fei 或は「反」fan とそれらと相關聯する詞は、「一」を入れて連書する。

非 戰 fei zin  
 反 英 fan-jing

〔5〕 前置詞と後置詞の書法

(1) 一切の前置詞は、それと關係ある目的語とは分けて書かれなければならない。

用 jung ↓ 用筆寫字 jung bed sezi

(2) 後置詞が若しも、單音節ならば、それと關係する名詞と連書されねばならない。

被 bei ↓ 被警察捉左 bei sing cad zu ngo  
 由 jau ↓ 由香港嚟 jau Hongkong lae  
 喺 xaac ↓ 喺呢處 xaac nisy  
 對干 deyv ↓ 對干佢 deyv key

上 soeng ↓ 樓 上 lauseng  
 下 xa ↓ 地 下 buixau  
 前 cin ↓ 面 前 miencin  
 後 xau ↓ 背 後 buixau  
 底 dae ↓ 櫓 底 dengdae  
 頂 deing ↓ 屋 頂 ngdeing

(3) 後置詞が多音節のときは、分けてかゝねばならない。

喺水裏邊 xae sey ley bin

(4) 多くの常用成語中には、後置詞が「之」字によつて分けられてゐることがあるが、この場合は、後置詞が單音節なるときは、連書し、然らざるときは分ける。

喺研究會領導之下 xaac ingau wui ling dou zix a

〔6〕 連詞の書法

連詞はすべて連書する。



就 係 zauxac  
如 果 y' gwo

〔7〕

感嘆詞と命令式の書法

これは「」を間に入れる。

唔嚟 囉嗚 miae-lowo

感嘆詞・助詞の常用のものを示す(漢字は印刷の都合上省略す)

log, ni ue, wo gwo, la, ze' a, ma, lenne, la, geme, me, zema, lobo, lome, lowo.

以上は荻原氏編の「廣州話新文字課本」を基にした説明である。一讀して明白なる如く、この案には幾多の缺陷を含んでゐる。例へば母音にしても、二重母音の存在に意を向けなかつたためか

(ai) (ae) の別 (an) (en) (ang) (eng) 等に不統一を暴露してゐる。然しこの案は、我々に多くの啓示をあたへてゐる。聲の表示をなすための補助方法などは——まだ研究の餘地は残されてはゐるが——支那方言を

ローマナイズする場合の一方法を與へたものと言ひ得るであらう。『拉廣』と同目的の下に、黃錫凌氏は「粵語ローマ字母注音符新法建議」を公にしてゐるが、この案は、聲の表示を認めた點、二重母音の表示に意を用ゐた點に於いて、荻原氏に勝るものであるが、詞の連書については全く何の説明もない。最後に附してある「總理遺訓」のローマナイズより見るに、連書は全くなして居らぬ故、連書の必要を認めてゐないのかも知れぬ。或は連書の必要を認めないために、聲の表示をなしたのかも知れない。とに角荻原氏とは相當に隔たりがある故、これも併せて、概略を次に紹介して見やう。

黃氏の該方案を一見するに、同案は、黃氏の廣州語發音符號に則つてゐるにすぎず、たゞ萬國音標文字に代へるに、ローマ字を以つてしてゐるにすぎないのである。即ち、單母音、複母音、鼻音、入聲音、子音に分け夫々ローマ字を與へてゐる。

〔1〕 單母音

a, aa  
a- e- i- o- eu u ue

aが單獨なる時は、そのまゝ。若し更に他の音の續くときはaaとする。此は[e]に相當するaと混同することを防ぐためである。[e]は必らずiと結合しeiとなる。[ɛ]に當るeは獨立し、或は其の他の音尾を有する故、同じくeとしても[e]とは混同せぬ。

[o]はoに相當するが、此れは獨立することなく、常にuと結合しouとなる。[ɔ]に相當するoは獨立するか、其の他の音尾を有する。故にこの二つを同じくoとするも[o]と混同することはない。

[œ]は常に佛語のeuの注音に使用されてゐるので [œ]の代りにeuを使用する。

[y]はこゝではueになつてゐる。これは獨逸語のüであるが、タイプするときueで代替してゐる故、茲にはそれに従つたのである。

〔2〕 複母音



[aj] と [au] の [a] は aa にし、 [ei] の [e] は単 a である。  
 [æy] は [æ] と [y] の結合せるものであるから、來來は euue となすべきであるが u を一つ省き eue とした。

[3]

鼻母音

[m] は m にする、これと結合するもの

m aam am im

[n] は n にする。これと結合するもの

aan an in on eun un uen

[ŋ] は ng にする。これと結合するもの

ng aang ang eng ong eung ung

[4]

入聲母音

[p] は p にする。これと結合するもの

[t] は t にする。これと結合するもの  
 aap ap ip  
 aat at it ot eut ut uet  
 [k] は k にする。これと結合するもの  
 aak ak ek ik ok euk uk

[5]

子音

此の方案には二十二、實際は十九の子音を設ける。

b d dz (dj) f g gw h y k kw l m n ng p s (sh) t ts (ch) w  
 此の中 b・p・d・t・dz ts・g k・は夫々有氣音と無氣音との關係に在る。

( ) 内は、北京語中の捲舌音に屬する場合の音を表示するに使用するのであるが、此れは廣州語ローマ字としては全く無用のものである。故に實際としては十九の子音である。

dz は簡單に z とすることが出来る。(ドイツ語の z はこの音に近い)

i は前に子音がないときは、y を冠する。

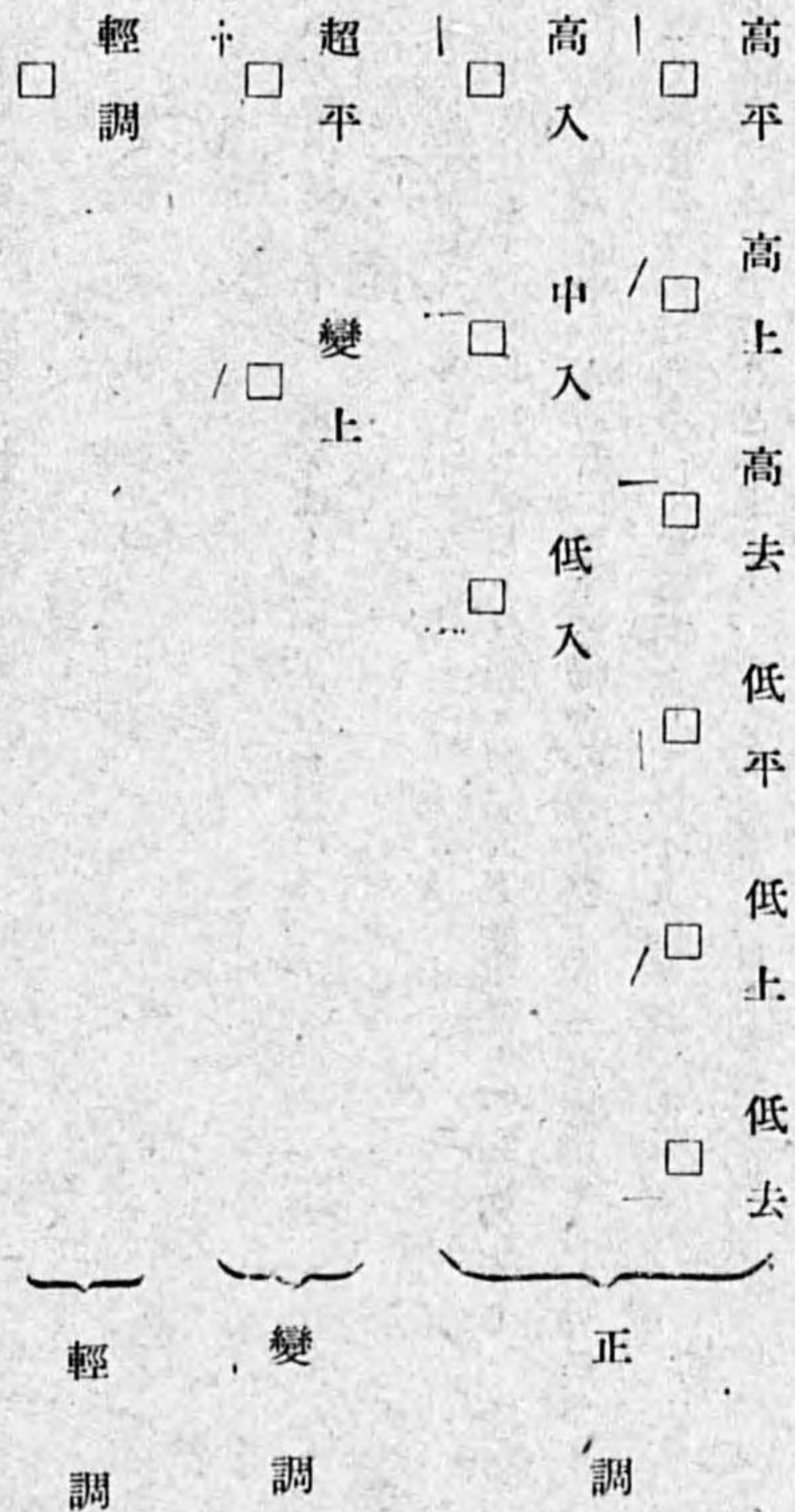
ue も前に子音がないときは、y を冠する。

u は前に子音がないとは、w を冠する。但し uk (屋) と ung (蕪) は例外とする)



〔6〕 聲調

『拉廣』は前述の如く聲を表示しないが、この案によると、廣東語には、九聲あり。更に變調二、輕調一、合計十二の聲調を認め、次の如き表示法を定めてゐる。



〔1〕 『拉廣』と『黃氏方案』の比較  
母音についての比較

イ、『拉廣』の單母音は六種、複母音は十一種、『黃氏方案』(以下『方案』と簡稱す)は單母音十種、複母音十種である。

ロ、『拉廣』には、aとoの長母音と短母音の差異を設けない。この結果「特別詞」なるものを出來させた。

ハ、『方案』中の [æ] 即ち eu は『拉廣』では (oe) なる複母音である。此は『拉廣』が正しい。

ニ、『拉廣』中の ai と ae の別は、『方案』では aai と ai になつてゐる。これは『拉廣』に於ける (e) よりして『方案』が正しい。

ホ、『拉廣』は [ey] は [oey] の如く讀むを要求する。『方案』は萬國音標文字をはなれ eue としてゐるのは『方案』の方が統一がとれてゐる。

ヘ、従つて『拉廣』の y と『方案』の y に關しては根本的な差異がある。(兩者の y に關しては夫々の y の部を見よ)

ト、『方案』に於いては、獨立せぬ a e o を一つの母音としてゐるが、『拉廣』に於いては、獨立せぬ母音は之を他母音と結合させて複合母音として了つてゐる。

〔2〕 鼻母音についての比較

イ、『拉廣』の鼻音は m nŋ で表はす。『方案』は m ng で表はす。即ち異なるのは ŋ g である。

〔3〕 『拉廣』の鼻母音の數は十七、『方案』は十九種である。『方案』中の m ng が『拉廣』中に入つてゐない。促母音についての比較

イ、『拉廣』の入聲音は、b d g で表はす。『方案』は p t k で表はしてゐる。

〔4〕 『拉廣』の促母音の數は十七、『方案』も十七、一致する。子音に就しての比較



イ、子音の数は『拉廣』二十、『方案』二十二、但し『方案』中には、北京語との關聯を考慮して設けたるもの

三あり、此は廣東語表記には必要なれば、實際は十九なり。

ロ、『拉廣』が『方案』に比して一つ多いのは、rの音が入つてゐるからで、此は前に説明せる如く、専ら外來語吸収に用意されたものであつて、現在の廣東語表記には不要である。

ハ、『拉廣』と『方案』の子音を對照すれば次の如し。

方案	b	d	dz	f	g	gw	h	y	k	kw	l	m	n	ng	p	s	t	ts	w	
拉廣	b	d	z	f	g	gw	x	j	k	kw	l	m	n	nq	p	s	t	c	w	r

〔5〕 聲に就いての比較

『拉廣』は聲の必要性を認めず、詞の連書によつて此れを解決せんとし、連書の方法を示す。此れに反し『方案』が聲の存在を認めその表示方法を示してゐる。

## 【七】 廣東語の特徴

廣東語の特徴に關しては、已に此迄の記述の中に多く含まれてゐるであらうし、又之からの説明中にも多く含まれる事である。特に此の一項を設け「廣東語の特徴」と題したのは、落穂拾ひ的に若干の問題を取り上げんとするの意圖に外ならない。故に此の項の記述は極めて断片的になるを免れない事をお断りして置く。

※ ※ ※

廣東語は前にも説ける如く、音素は多く僮語や瑶語に出で、語調は中原漢語の影響を受けたるものと言はれてゐる。

之は簡易な指示代名詞に於いても見られる。廣東語では「あれ」とか「それ」即ち遠稱、中稱の指示代名詞は、個(ko)或は啾啾(ko ko)であるが、このkoといふ音は僮語であるといはれる。廣東、廣西省の地名に「古」なる文字を冠したる地名が非常に多い。「古井」「古樓」「古鎮」「古塘」「古橋」等の「古」字は決して「古い」といふ意味ではなく、僮語で「あれ」「それ」と指示する時に「古」音を使用するのである。故に「古井」は「あの井戸のある村」といふ意味から名付けられたもので、古い井戸があるから「古井」と名付けられたのではないのである。此の「古」音が今の廣東語の個(ko)になり「個邊」(そこ)とかの「個」になつたものと言はれるのである。又「柚子」を廣西白話では「十六」廣東白話では「六僕」といふのは、僮語で「勒薄」をいはれる爲である。「勒」は果實、「薄」は「柚」廣東語で六僕と言ふのは、僮語は倒置されるからである。又家を僮語では「欄」と言つてゐるが、この影響は廣東白話の「果欄」「魚欄」「菜欄」「牛欄」等に見受けられる。廣東語では人稱代名詞を複数にする時は「哋」なる文字をつけ(tei)音を出させるのであるが、之は瑶語の「隊」から出たものと認められる。現在でも四會地方では「我隊」「你隊」「佢隊」と言つてゐるさうである。(以上「粵江流域民族史」による)

※ ※ ※

廣東語では支那に關する名詞例へば「支那人」「支那料理」「支那語」等の場合に「中國一」とする事は勿論であるが、之にもまして「唐」なる文字を使用したがる、之は實に奇怪なる事である。我々日本人が外來のものに對し「唐カラン」「唐チリメン」「唐イモ」「唐ナス」とか言ふならば、別に異とするに足りない。又廣東人が西洋から來たものに「洋」や「番」をつけて「番梘」(石鹼)「番菜」(西洋料理)「洋琴」(ピアノ)「洋紙」(西洋紙)と言つてゐるならば之また、怪しむに足りないが、支那人自身が支那のものに對し「唐」とは些か奇怪である。それが今日已に「唐朝の」



「唐時代の」といふ形容詞的意義を離れてゐるから尙更である。之は唐時代の文化の影響と彼等の祖先が當時は、自ら化外の民と思ひ、決して中原を自分達の國家と認めなかつた結果である。之に關しては「廣東語」の成因中に説いた處でもあるから、茲では唐なる形容詞を持つ若干の詞を書きとめて置く。

唐人(支那人) 唐菜(支那料理) 唐文(支那文) 唐話(支那語)

※ ※ ※

北京語の語尾に「兒」が多いのは誰しも氣づく事であらう。「子」「頭」等と同時に北京語では名詞を構成する一分子であり支那語詞の安定に大きな力を持つてゐる事は屢々支那語研究者の發表せる説である。廣東語には「仔」といふよく詞尾として使用せられる文字がある。之は北京語の「兒」等とは全く趣を異にする(若し「兒」が語詞の安定といふ事のみで使用されるとするならば、若し然らずして「小さなもの」「可愛もの」等感情の表現を伴つてゐるとすれば相似たものになる。北京語で「盒兒」は「小箱」であり、「盒子」は「盒兒」より大きな箱』といはれる如く感情の表現を助ける場合もないではない)。「仔」は一般に「小さなもの」「卑しきもの」「常用されるもの」の詞尾として使用されてゐる。「仔」の使用は南方支那語方言中に見られる一特徴であり、福建語を代表してゐる廈門語中にもよく見受けられる。臺日大辭典に依れば廈門語の「仔」には次の如き用法がある。

- ① 小 さ い 意 狗 仔 小 犬 烏 仔 小 烏
- ② 輕 蔑 の 意 番 仔 毛 唐 警 察 仔 おまはり
- ③ 語 調 を 整 へ る 詞 柱 仔 柱 牆 仔 塀
- ④ 親 し み 尊 敬 江 海 仔 江 海 さん
- ⑤ 簡 單 に、一 寸 作 彩 仔 一 寸 縁 起 直 し する

⑥ 場所數を明示したい 此塊仔 一こゝら 二個仔 二個ばかり

此の中の③の「仔」は語調を整へる詞と言はんよりは詞の安定に資する詞であり④は呼掛の言詞であらう。⑤は北京語の「動詞+一+動詞」の型、廣東語では「吓」となる。兎に角この「仔」は南方方言では屢々使用される詞である。廣東語の例を擧げると、

① 小 さ い 意

手巾仔(ハンカチーフ)「手巾」は「手拭」「手拭の小さいもの」の理である

石 仔(小石、砂利)石の小さいのといふ意

河 仔(小川)河の小さいのと言ふ意

碟 仔(小皿)「碟」は「皿」、皿の小さいのといふ意

② 名詞語尾として使用された場合

橙 仔 椅 仔。「橙」なる名詞に單に語尾を附したのもの

鍋 仔 鍋。「鍋」なる名詞に單に語尾を附したのもの

煙 仔 卷煙草。「煙」なる名詞に單に語尾を附したのもの

〔以上の「仔」には「小さい」意はなし〕

③ 輕蔑の意を含む場合

日本仔 日本人を蔑稱する言葉

學生仔 小僧。番頭

侍 仔 ボーイ



- ④ 年少きものを表はす場合
- 男 仔 (男の子)
- 女 仔 (女の子)
- 後生仔 (少年)
- 學生仔 (學生)

又廣東語名詞の語尾として、職業を表はす場合にはよく「佬」が使はれてゐる。例へば、

- 倒屎佬 (オワイ屋) 打石佬 (石屋)
- 拉車佬 (車夫) 做鞋佬 (靴屋)
- 泥水佬 (左官) 抖木佬 (大工)
- 賣菜佬 (野菜賣り) 打更佬 (夜廻り)

等仲々多いが一見して判る如く、之等「佬」字を語尾とする名詞は肉體勞働的職業に携はつてゐる者を意味する様である。もう一つ廣東語の語詞中の特徴は、外來語を相等に保有してゐる點である。廣東が昔から諸外國との交通の衝に當つてゐた事は、今更説く迄もない。此の關係で多くの外國語が廣東語的發音に依つて採り入れられてゐる。茲に若干を例示して見る。

- 骨 〓 十五分 英語の quarter
- 呢 喱 〓 一 秒 英語の minute
- 芝士 〓 チーズ 英語の cheese
- 士的 〓 ステッキ 英語の stick

- 油 (士) 〓 シリング 英語の shilling
- 占 〓 チアム 英語の jam
- 咕 喱 〓 苦力 英語の coolie
- 名 咭 〓 名刺 英語の name card

※ ※ ※

廣東語は視覺言語としても、略々完成せられてゐる事は已に説いた所であるが、然しその完成の程度は北京語との比較に於いては全く問題にならぬ位である。支那語が大體に於いて表意文字たる漢字を使用してゐる以上、音を表はす文字が缺如し特に聽覺にのみ依る言語たる方言に於いては此の缺如が著しくなつて來るのである。於是表音文字を創造し或は表意文字を表音文字として借用しなければならぬ必要が生じてくる。廣東語に所謂廣東漢字なる特殊文字を見、又一般の漢字がそれが原有する意義の使用に従つて居ないのは、實に此の爲なのである。茲に廣東語(別に廣東語に限らぬが)ローマナイズの説が出来もし將又廣東語をその漢字面からのみは斷じて譯出するを許されない危険が生じて來るのである。

次に廣東漢字並に廣東語に於ける借用文字の若干を例示する。

- 我 哋 〓 「哋」は (tei) なる表音漢字にして、人稱代名詞の複數を示す。
- 呢 啲 〓 「啲」は (tit) なる表音漢字にして、指示代名詞の複數を示す。
- 個 個 〓 「個」は (ko) なる表音漢字にして、指示代名詞の「あれ」「それ」の意。



啗・啗——「啗」は (ngam) なる表音漢字にして北京語の「恰巧」の意を表はす

頂——「頂」は (mei) なる表音漢字にして「背負ふ」の意を表はす

脗——「脗」は (lei) なる表音漢字にして「舌」の意を表はす。廣東語にて「舌」なる漢字を使用しないのは

「舌」は「蝕」に普通であり「蝕」が損をする意を表はすのを忌んだもので「利」なる反對の意を表はす音に依つたものである。之は「箸」なる音を忌んで「筷子」としたるものと同じである

馴・覺——「馴」は (fan) なる表音漢字にして「ぬる」の音を表はす

冇——「冇」は (mou) の音を表はし「沒有」の意味である

皮唸——「唸」は (kip) の音を表はし「靴」の意味である

喙處——「喙」は (hai) の音を表はし「在る」の意味である

咕喱——「咕」は (ku) 「喱」は (lei) の音を表はし「苦力」の意味になる

當字を使用してゐるもの

响處——「响」は「響」の本字であつて (heung) なる音を借るため「响」を使用する

先個駁——「先日」の意であるが (pok) なる音を出すため「駁」を借用する

面豬——「頬」の意なるが「猪」の (chü) なる音を借用してゐる。猪の意に非ず

屎弗——「尻」の意なるが (fat) の音を出すために「弗」を借用してゐる

好耐——「久しい間」の意なるが (noi) の音を出すために「耐」を借用してゐる

一便——「片側」の意なるが (pin) の音を出す爲に「便」を借用する

※ ※ ※

廣東語の聲調の變化は決して輕視するを許されない。北京語に於ける音調の變化は第三聲——上聲の連續の場合を除いては、常に四種の聲の中のどれかに變り四聲以外の變聲に涉る事はない。(勿論「輕聲」の問題はあるが) 廣東語は之と趣を異にする。「聲音」の項で説明した様に廣東語には「超平聲」「變上聲」といはれる變聲がある。そして之等は音の調子を整へる外、或特定の意味を表はすに使用せられる。

日本語で「君は偉いよ」といふ言葉を、その意味をそのまま傳へる場合と、それと異つた反對の意を含ませた時は、自ら「偉いよ」の言ひ表はし方、ストレスの置く所が異つて來るであらう。廣東語の變聲は斯くの如き場合にも







と述べてゐるが、その二箇所を次に抄釋してみる。

- ① 原始音に近し——原始人が萬物の聲音に模倣して語音を使用し、萬物の形狀に眞似て文字を造りしは周知の事であらう。前者を「象聲」或は「繪聲」後者を「象形」或は「繪形」と稱する。前に種族の言語と原始漢音は極めて接近して居ると説いた。粵語は漢語と密接なる關係ある以上、勿論自然音との關係は密接である。例へば「鴨」(yap)の字音は鴨(アヒル)の聲を表はしたものであり「鴉」(nga)の聲は鴉の聲を象したものである。又例へば「啄」(toek)は兩唇を伸ばし、その音は「木を啄む」口形をなして發せられる。「開」(hoi)は開口音であり

「合」(hap)は合口音である。「喋喋」(tip)の二字は合口・開口を續ける。恰も魚が水を吸ふ如き口形にして、その音も亦相似してゐる。之等は音を以て聲を像し、口形を以つて形を像してゐるもので、北京語の遠く及ばざるところである。北京語に於いては「合」は(ho)に發音せられ、決して合口音ではない。粵音が古代の北方音にその源を持つてゐるとは言ふを得ないが、廣義の原始漢音と最も接近してゐると言はれるのはこゝにもあるのである。更に動物や樂器の聲音に就いて見るならば、

鷄の聲	喔喔	(ok)	(ok)	(粵音)	(wo)	(wo)	(北京語)
蹄の音	得得	(tak)	(tak)	(〃〃)	(ti)	(ti)	(〃〃〃)
爆竹の音	辟拍	(pek)	(po)	(〃〃)	(pi)	(pai)	(〃〃〃)

虫の音	唧唧	(chik)	(chik)	(〃〃)	(chi)	(chi)	(〃〃〃)
管絃の音	嘔啞	(au)	(ah)	(〃〃)	(ou)	(a)	(〃〃〃)

であり、之等を見ても、粵音が遙かに原始音に近い事を、知るに十二分であらう。

## ② 歌唱に適す

廣東、廣西の住民は歌唱を好む。之は習俗に出でたるは勿論であるが、粵語の聲音と大きな關係ある事を看過出来ない。即ち粵語には次の如き歌唱に適する特徴が存する。

- (1) 粵語の音素は非常に複雑して居り特殊母音が多く、歌唱の際音の變化に富む。  
 (2) 四聲の陰陽判然とし、平上去入に明かなる陰陽(高低)を有す。故に歌唱に際しては抑揚頓挫の自在なる便あり。

- (3) 鼻音が比較的多い。鼻音には伸長力あり接引力あり、調和力ある故「余音梁々繞ル」の妙を出し得る。

廣東語が歌唱に適するは、廣東に「粵謳」なるものが存在するに依つても、充分に知悉出来る。「粵謳」とは「招子庸」といふ人が、「秋喜」といふ妓女の死を唱つて作つたものに始まるといはれ、琵琶に合はせて歌ふのであるが、廣東語の發音に依らなければ、歌唱は全く不可能であり、歌詞は全く廣東方言漢字に依つてゐる。廣東語研究家の一讀せねばならぬものである。

尙ほ粵語と大きな關係を有する廣東客家語にも民謡が多いが、之も上述の理由に依るものであらう。(客家民謡に關しては、羅香林氏の「粵東之風」に詳述しあり)



## 【八】 廣東語中の隠語・歇後語・諧謔語

北京語に歇後語が発達してゐることは、北京語を學んだ人は、すぐに氣がつく筈である。廣東語中にも、歇後語は多い。但し嚴密なる意味の歇後語は、北京語にも少いと同樣に廣東語にも多くはない。蓋し、歇後語と言はれてゐる中には、多くの隠語や諧謔語が含まれてゐるからである。然らば、嚴密なる意味の歇後語とは何であらうか。又そして隠語・諧謔語とは如何に異つてゐるものであらうか。

支那語に於ける、歇後語は、音或は意味上の關聯を有する二句（或は二語）が有つて、一句の表示が、他の一句の表示を必要としない程の密接な、或は不可分のな聯繫をもつてゐるものである。此に反して隠語とは、或る特定の者の間にのみ通用する言葉を目指すものであり、例へば、或る市場にはそれ獨特なる價格表示の言葉をもつてゐる如きである。更に諧謔語とは、或る特定なる詞や語句が、その發音、意義或は性質形態などから、第二義的な意義をもつ場合に、第一義を表はす如く見せかけ、實は第二義的な意を表はすものである。各々を例示するならば、

## イ、歇後語

護國寺西口兒／狗市……北京歇後語

北京の護國事の西門には犬の市がたつので「狗市」なる意が出て来る。ところがこの「狗市」は「苟事」即ち「オベツカを使ふ」と音が通じるので、「護國寺的西口兒」だけ言つて「オベツカを使ふ」と言ふ意味にする。

秀才 手巾／包書……廣東歇後語

秀才の手拭は書を包むのに使用するから、「包書」である。ところが「書」は「輸」と普通であつて「包輸」と

なり「必らずまける」の意味が出て来る。

〔以上二つはともに音の關聯を利用したもの〕

## ロ、隠語

北京語——質屋で價格を表はす場合左の如き特殊なる數詞を使用する。

〔姚〕一 〔俺〕二 〔蘇〕三 〔臊〕四 〔委〕五 〔料〕六 〔梢〕七 〔奔〕八 〔焦〕九 〔杓〕十

（宮越外語教授の御調査による）

廣東語——茶館などでは次の如き特殊なる數詞を使用する。

〔支〕一 〔神〕二 〔斗〕三 〔蘇〕四 〔馬〕五 〔零〕六 〔候〕七 〔裝〕八 〔灣〕九 〔响〕十

## ハ、諧謔語

日本鴨子……北京語

日本の家鴨と言ふ意味であるが、日本人の脚が一般に彎曲してゐるところが家鴨に似てゐるので、「日本人」と言ふ代りに「日本鴨子」と言つたものである。

馬來雞……廣東語

馬來の雞と言ふ意味であるが、馬來の雞は瘦せてゐること、「雞」は廣東では女を賤稱するとき使用してゐるので、「瘦せてゐる女」を指すときに、かく言ふのである。

以上夫々の例示によつて、歇後語、隠語、諧謔語の差異が明かになるであらうが、これまで支那語界に於いては、この三者は往々にして混同されてゐた様である。更に「俗語」などの名稱で、此れ等の言葉を表はしてゐるが、假令支那の一部の人がその名稱を使つてゐても、これは斷然排斥しなければならない。蓋し彼等は一時の便法によつたも



のか、或は無智からかく稱してゐるからである。「俗語」とは「俗諺」の謂である。

廣東語中歇後語、諧謔語は北京語に比して品がない。又その取材範圍がせまい。これは直ちに、廣東の文化が常に北方に及ばなかつたことを意味する。例へば、北京語の歇後語中には、歴史上の人物、白話小説中の主要人物なども取材したるものが多いのであるが、廣東語のそれの中には、極めて卑近なもの、蛋家、廣州市の名所、動物、日用品などに取材してゐる。然かも、我々の使用に堪へない位下品なものも少くはないのである。こゝに、取材に分類點をおき、稍々上品なるものゝ若干を紹介することにしよう。

イ、蛋民族に取材せるもの

蛋民族は、御承知の如く珠江上に居住する一民族であり、廣州市に居住する所謂廣東人とは、常に何等かの關係をもつ。又廣東人は、これら水上生活者を常に自分たち以下のものと看做してゐる。故にこれに取材した歇後語、諧謔語には、蛋民族を蔑視して取扱つたものが多い。廣東語で蛋民族は普通「蛋家」とよばれることを記憶しておかねばならない。

蛋 家 雞

蛋民族の雞 ↓ 蛋民族の飼育してゐる雞は放飼ではなく、必らず籠に入れて船尾に繋いでおく。雞は水を見て居りながら飲むことが出来ない。ところから、渴望してゐるものが、目前に在りながら、手に入れることが出来ないのを言ふのである。

蛋家婆摸蜆

蛋民の女が蜆をとる ↓ 蛋家が蜆を取つてゐる風景は、珠江上によく見受けられるが、篩を手渡してやつてゐる。即ち「選篩」であるが、これは「第二世」と普通であるところから、その意に使用する。

蛋家妹某脚

蛋家の娘が纏足する ↓ 蛋家は水上生活をし、女も船を操る。娘が纏足することはない。若し纏足するとするならば、仕事がないからである。それで「仕事がない」と言ふ意味に使用する。

ロ、傳説・史實に取材せるもの

傳説に取材せるものは、大分多いが、その中には、特に廣東地方に限られたものもあり、支那全國に及んでゐるものもある。史實の方は、宋末の頃の人名に取材せるものが多いのは、その頃中原の影響が最も強くこの地に及んだためであらう。

陳 顯 南

昔陳顯南と言ふ藥屋があつて、その宣傳廣告は街に満ち巷に満ちてゐたが、皆一様に「……藥——藥」と言ふ様に千篇一律のものであつたと云はれる。それでクドクドしくて人に厭な感を與へるものを「陳顯南」と言つてゐる。

彭祖尿壺

傳へるところによると、彭祖は八百歳まで長命した古今第一長生きした人であるとのこと。尿壺は尿瓶であるが、八百年も使つたら……故に世故にたけて中に祕界を有するものと言ふに使用する。

阿蘭賣猪

傳説に言ふ。「昔阿蘭と言ふ抜け作が居つた。彼の妻が彼に豚を賣りにやらせ、價の多いものに賣る様言ひつけた。彼は、豚をつれて市へ出かけた。買手が來て一千の數を以つて買はんとした。阿蘭は一は數の最も小なるものを知つてゐたので、一以上の數なら賣ると言つた。買手はしばし考へて、では八百ならと言ふ。



阿蘭は一は八より遙かに大なるをもつて喜んで手放した」と。この傳説から「阿蘭賣猪」は、利の有る方に就かず、愚かに不利の方に就くことを言ふのである。

張天師遇鬼迷

此は猿も木から落ちる類である。張天師とは、龍虎山の張天師のことが、邪鬼を拂ふ能を有してゐたと言はれる。「張天師」は支那全國に知れ渡つたものらしく、この名を使つた此の種の言葉は、各地に見られる、例へば、

張天師走罷……北京

張天師被鬼迷……江蘇無錫

張天師叫親娘……四川重慶

張天師家鬧鬼……北京

張天師教鬼迷……安徽

張天師叫門……南京

張天師的鞋……安徽

張天師跪在泥水裡……四川成都

張天師下海……四川一帶

趙匡胤

宋朝の始祖は趙匡胤である。故に彼は「大宋王」である。「大宋王」は「大饅王」に普通する「大饅王」の「饅」は「料理」の意である。料理をたらふく食へるを言ふのである。

宋朝に關聯したもので「忽必烈」と「文天祥」と言ふ歇後語がある。前者は「金を併吞し宋を滅亡させた」ところから「吞金滅宋」↓「吞金滅饅」料理を請負つてゐて金をごまかすの意。後者は、宋の滅亡をのびした歴史上の人物から「推宋尾」↓宋は饅と普通——残り料理を食べるの意になる。

二世祖

二世の祖とは秦の始皇帝の子英を指して言ふのであつて、秦が天下を掌中に收めるや、長城を築き、法を立て、その國家を萬世に傳へんとしたるは周知のこと。所が始皇の子は、國祚を保持する能はず神器を失つた。これは、普通の家に見れば、父兄の遺産を保てず、此をすつかり使つて了つた様なものである故、放蕩息子、或は凡庸なる後繼者を言ふに使用してゐる。

ハ、獸に取材したもの

動物と言つても、凡ゆる種類に互つてゐるのでは決してなく、最も日常親しみ得るものに限つてゐる様である。

例へば「豚」「犬」「猫」「牛」「馬」「鼠」「羊」の如きものである。次にこれ等の若干の例をあげて見る。

猪、驗猪、裝猪

「猪」は「みのしし」に非らずして、「豚」である。「豚」は廣東に於いては、貞操の印とされ、貞潔の女子の結婚に際しては、夫の家からその證として豚の贈物をする。嫁の家では、この豚を親戚朋友に分けて、自分の娘の品行方正なるを誇示する。故に「驗猪」「裝猪」なる言葉が出て来る。前者は結婚前に貞操を醫學的方法によつて驗査することであり、後者は、猾い媒酌人が、不貞の女を純潔な女と見せかけることを言ふのである。

熟狗頭



廣東では犬肉を食用肉として賞味するとはよく言はれてゐる。犬の頭をよく煮ると、その形は笑つてゐる如く見えるところから、人の常に笑つて、齒を出してゐることを言ふのである。

狗上瓦桁

犬が天棚（暑さをさけるために作る蔽）に上る、猫が天棚に上るのならば異とするに足ないが、犬が上るならば、必らずそこには「一條の道」（一條路）がある筈である。「一條路」とは「一條路數」の意で「何か方法」とか「或る手段」の意になつて来る。

羊 咩

廣東人は、羊のことを「羊咩」と言ふ、羊の聲が「咩」と聞えるからである。又羊の鬚はたれ下つてゐる老人に似てゐるので、老人を「羊咩」と言ふのである。

割 死 牛

匪賊等の強奪を言ふのであるが、此は屠殺した（割死）牛の骨を析ち、皮をはぎ、肉を取つたりするのが、恰も掠奪の如き感があるところに由来するのである。

胭脂 馬

これは御し難きものを「馬」に譬へ、胭脂を「女」に比したものである。馬の性質として、ともすれば暴れ制御が出来なくなる。女も脂を塗り、白粉をつけ、中には夫の言ふことなど馬耳東風なものがある。こんな女性を譬へたもの。

千里 馬

草鞋を千里馬と言つてゐる、これは、身體をのせ遠くに行くものから、洒落たものであらう。

市 虎

自動車を廣東人は「市虎」（町の中の虎）と稱してゐる。廣東の十字路にはよく「馬路如虎口、當中莫乱走」と書いてあるが、この「虎」なる言をとつて「市虎」としたものと言はれてゐる。

老虎 吊頭

虎が首を吊る。如何なる悪人と雖も末路の日があるものだと言ふ意味をもつてゐる。

冇 牙 老虎

牙のない虎、外は威勢が良いが内はさつぱり駄目なものを譬へたのである。又「火事」のことを「冇牙老虎」と言ふこともある。此は火事の及ばず損害が、虎にもまして甚だしいものがあると言ふに外ならない。

猫、野猫、猫寶、捉猫

「猫」はよく私娼を指すに使はれる。「野猫」は北京語では「兎」の意になるが、廣東語では「ノラ猫」で、それが晝はぢつとしてゐて夜歩き廻るところから、私娼の意をもたせたもので、従つて「猫寶」は「私娼の居る所」「捉猫」は「私娼を相手にする」の意になる。

神 枱 猫 屎

猫は自分の家に落つかないものが多く、それらは、所嫌はず脱糞する。猫の糞は臭気甚だしい故人に悪い感を與へる、特にそれが神を祭つてある清い所へなされた場合は、人に嫌惡の情を起させること一層甚だしい。故に、憎まれ小憎的存在を言ふ。

老 猫 燒 鬚

年とつた猫が鬚を焼く。猫の性として寒さを怖れる。寒ければ、爐邊で暖を取る。年とつた猫は、この暖の



取り方が上手である筈なのに、鬚を焼き失敗するは、猿が木から落ちる類である。この語は慣れてゐるものも失敗はするものだと言ふ意を寓する。

老鼠跌落天秤

鼠が天秤に落ちる。天秤は銀の重さなどを量る秤であるが、鼠がそこへ落ちたとすれば、自分の目方を計ることになる。即ち自秤（自らをはかる）なる語が出て来る。「自秤」は「自稱」に普通で、「自ら誇大する」「自慢する」の意味になる。

棺材老鼠

棺材は「棺桶」である。棺桶の中の鼠は何も食べるものがないから、死人を食べる→人を食べる「食人」は性質ケチにして常に人にたかつて飲食する者と言ふのである。

此と同じ意のものに「旅館木虱」と言ふのがある。旅館の南京虫は専ら人のみを食ふから「棺材老鼠」と同じ意味になる。

老鼠拉龜

鼠が龜をひく、龜は甲の中に脚や首を入れて了ひば、鼠は龜を引く方法がない。即ち手をかける方法がないところから、何事によらず着手困難なるを言ふのである。北京語では「狗咬刺蝟」（犬が針鼠をかむ）と言ふ。

二、雞、家鴨に取材せるもの

「雞」は廣東では女を卑稱する、或は娼妓を稱する場合に隠語として使用される。例へば「雞窩」は「私娼窟」「追雞」「索雞」は「獵艶する」「拉雞」は「私娼を検束する」の意味になる。

衝暈雞

何かに衝突して目を廻した雞は、前後左右の見境なく、所嫌はず走り廻るところから、慌てたり急いだりして道を擇ばない、或は慌て焦つて手段方法を選ばないの言ふ。

墮落雞

墮落せる（おちぶれた）雞、雞が「女」を指すところから、倫落した女をかく言ふ。

無掩雞籠

蓋のない雞籠。普通の雞の籠は蓋がついてゐて、雞が自由に出入出来ない様になつてゐるが、若し蓋がないらば、出入は自由自在である。故に何等の束縛もないことを「無掩雞籠」と言つてゐる。

竹織鴨

竹で編んだ家鴨の玩具は、内臓なし。即ち「有心肝」である。「有心肝」は、事をなすに不注意にして、遺漏の多いことを言ふのである。

ホ、魚、蛇、龜に取材せるもの

炒魷魚

魷魚を炒める。廣東で魷魚を料理するときには先づ細かくスズを入れ、熱を加へた場合にまるまる様にする。雇はれてゐたものが、主人にひまを出されると、その夜具をまるめて退去するが、魷魚が熱でまるまるのと、夜具をまるめるのが共通するところから、雇人が主人に暇を出されることをかく言つてゐる。

龜、龜婆、龜爪

龜は支那に於いては嫌はれる存在である。この嫌はれる理由を含めた言葉中に「龜婆」「龜爪」「龜女」等の言葉がある。此等は皆娼妓に關聯せるものである。



龜 殼

龜の背が洋服のチョッキ(背心)に似てゐるので、「背心」を罵る場合を斯く言ふのである。

飽 蛇

蛇が満腹するときは、動作緩慢になり、實に懶惰の様があるので、「満腹せる蛇」と言つて、懶け者を罵る場合に使用する。

蛇 都 死

蛇も死す(事必ず敗れん)と言ふ意味であるが、この言葉には歴史がある。二十年前に龍濟光が廣東地方に羽振をきかせてゐた頃、その部下の横暴さには、人民一同皆非常な苦しみを受けたが、公然これを言ふときは、罰を受けることを恐れ、「龍」が「蛇」に似てゐるところから「蛇都死」(蛇も死せん)と言ふ寓語を作つた。その後龍濟光は失脚したが、「蛇都死」は流行語となつた。

へ、花に取材するもの

花は一般に女性、特に妓女をさす言葉として使用せられる。例へば、

「燃花」は「女を弄ぶ」ことであり、「花心蘿蔔」(蕊が出味淡くして食べるに適せぬ大根)は妓女の多情なを言ふ如きである。

花 瓶

官廳や會社などの女職員を「花瓶」と言ふ。此は女の事務能力は男に劣り、彼女等の存在はただ花瓶的のもの外は、何物もないことを諷したものである。

燃 妹 花

此は下女となすべき少女を買つて利を求めることである。「妹」は「妹仔」や「佳年妹」の意味である。貧家の女の子を安い金で買取り、禮儀を教へたり、書を教へたりし、成長したら富家へ賣りつける。富家で此を妾にでもする時は、高いのになると數千圓もの身代金を貰ひ受ける。この貧家の少女を買取つて、何年後かの利を圖ることを「燃妹花」と言つてゐる。

攪 大 花 炮

この言葉には、傳説がある。佛山の祖廟大魁堂の管理人某は、或年、會計上に怪き點有りと指摘されたのに憤慨し、正月關係者一同を集めて、金錢の收支を明白にし、且つ神に祈り、自らは大きな花火を抱いて、若し我身に疚しきところ有ればこの花火とともに我身を無くされんことを言つて、火を點じた。轟然たる音とともに身は吹飛んだと想ひきや、煙薄まりて見れば、傷一つ負はずに居た。衆人は之を見て驚き且つ疑惑を抱きしことの非を謝した。——これより「自信満々たる」を言ふにこの言葉が使はれる様になつた。

ト、其 他

十 三 點

時計は最も多くても、十二しか打たない。壊れでもしなければ十三打つことはない。やたらに聲ばかり出してゐて、實行の伴はなかつたり、内容のないものを「十三點」と言ふ。

屎 坑 姑

これは廣東地方の風俗迷信にその源を有する。廣東の迷信で婦女が集ると「仙姑」や「麻籃姑」を叫ぶ風習がある。「屎坑姑」も叫ぶことがあるが、叫んで現れると、仲々歸つて貰ふのに大變、で色々呪文を唱へたり、護符を使用したりする——これから叫び入れるのは何でもないが送り出すのに大變な人を「屎坑姑」



と言ふ様になつた。

隔夜茶

一夜おいた茶——夜越しの茶は、明朝起きたらついで出さなければならぬ、即ち「倒」しなければならぬ。「倒」は「賭」に普通なるところから、朝起きるなり、あつちこつちと賭博に歩く人を「隔夜茶」と言つてゐる。

招牌鈎

看板の鈎——此は看板と切つても切れない縁があり、且つ外から見れば看板のみは見え、鈎は存在を認められない。こんなところから、主人と使用人の關係で、主人になくはならない使用人を「招牌鈎」と言つてゐる。「女房役」「縁の下の力もち」的存在を言ふのである。

西瓜皮

西瓜の皮を踏むと、滑つてころがることがある。斯の意味から、計を弄し人を術中に陥れたり、人をベテンにかけたりすることを「西瓜皮」と言ふ。

東莞臘腸

東莞縣製の腸詰——此は太くて短いのが特色で、廣州市製のとほ些か異なる。それで、肥えてゐて背の低い者を「東莞臘腸」と言つてゐる。

白蟻蛙觀音

白蟻が觀音を食べる、觀音は人の身を守るものである。然るに今自分の身が蟻に食べられてゐては、人の身を守るだけの能力を疑はざるを得ない。この意味から、人の能力なきに拘らず、他人を助けんとする者を皮

肉つたものである。

蛙米大虫

米食の大虫、米を食べる外何の能もない者、「穀潰し」の謂である。

以上有りふれたものを若干あげたが、廣州市に於いて使用されてゐるものだけで、約三百を數へてゐる。これ等のすべてを掲げ説明を加へることは、到底紙數の許す範圍では不可能である。故に、これについては後に別に一稿を起して、紹介することにする。

## 【九】 廣東語の發音

今日まで公にせられたる、廣東語の著書は西洋人、日本人、中國人のを入れて、約二十種を數へるが、二、三の著を除き信憑するに足るものはない。西洋人の研究したものは、大部分順徳人周冠山の著「分韻撮要」に準據した爲、純粹な廣東省城語の研究とは爲し得ぬものが多く、日本人の著書は、福屋氏の「日粵會話」山下氏の「廣東語講座」を除いては、眞摯なる著と受取れるものはない様である。中國人の研究したものとしては、先づ「京粵注音中華新字典」が相當の努力を拂つたものと認められるが、可惜いかな西洋人の研究を鵜呑みにしてゐる點が多く、これまた、廣東省城語の研究書としては些か適確ではない。斯くの如く、廣東語の研究は未完成であり、従つてその音聲に關する研究も實に誤り多く、我々をして適從するところならしめて居つたのであるが、今夏、一學徒黃錫凌氏は「粵語韻彙」を斯界に提供、又現廣州市中日語言學校講師陳泉旺氏の聲に關する眞摯なる研究ありてより、廣東語の發音に關する研究は漸くその緒についたかの觀がある。筆者は茲に、今日まで發表せられてゐる研究の成果を取りまとめ、



出来るだけ詳細に紹介の筆を進め、最後に「廣東語發音表記法私案」を提示して見ようと思ふ。

(一) 音に關して(黃氏の著書に依據す)

(a) 單母音——廣東語の單母音は次の十種である。

- [a] 英語 Father の「a」であるが、長音と稱せられる位であるから發音時には口を大きく開く。
- [ɐ] 中性母音にして、英語の cut, cup 等の「u」で短「u」である。
- [e] は常に「i」と結合「ei」となり、英語の所謂長「a」であり、北京語ウエード式は (ei) で表はす。
- [ɛ] 英語の there の「e」であり、北京語には此の音はなし。
- [i] 英語の長「e」であつて、北京語ウエード式では (i) を以つて表はされる。
- [o] 之は常に「u」と結合「ou」となり、英語の長「o」北京語ウエード式は (ou) を以て表はすが北京語の場合の如く複母音ではなし。
- [ɔ] 英語の saw の「aw」である。北京語ウエード式は (o) を以て表はす。
- [œ] 之は佛語の deux feu の「eu」であるが、北京語ウエード式の (e) と (u) を續けて發音すればこれに近い音が出る。

[y] [u] は英語の「oo」であり、北京語ウエード式の (u) と全く同じである。  
[y] [u] は獨逸語の「u」であり、北京語ウエード式の (u) でもある。

(b) 複母音——廣東語の複母音は十種ある。

- [y] [u] [i] との複合
- [u] [i] との複合
- [y] [u] [i] との複合
- [œy] [au] [ai] の一種
- [eu] [ei] の四種
- [iu] [ci] の五種
- [ou] [ui]

(c) 附聲母音——鼻音と結合するものと入聲韻と結合するものに分る。

- ① 鼻音
  - [m] との結合 [m] の三種
  - [n] との結合 [n] の三種
  - [ŋ] との結合 [ŋ] の三種
- ② 入聲韻
  - [p] と結合する——十七種
  - [t] と結合する——十七種
  - [k] と結合する——十七種

- (d) 鼻音韻——二種
  - [k] との結合 [ak]
  - [t] との結合 [at]
  - [p] との結合 [ap]
  - [k] との結合 [ɛk]
  - [t] との結合 [ɛt]
  - [p] との結合 [ɛp]
  - [k] との結合 [ik]
  - [t] との結合 [ɔk]
  - [p] との結合 [ɔk]
  - [k] との結合 [œk]
  - [t] との結合 [ut]
  - [p] との結合 [uk]
  - [k] との結合 [yk]
  - [t] との結合 [yt]
  - [p] との結合 [yt]

(c) 子音——單子音十七種、複子音二種、合計十九種



(3) [au] との結合——十一音

[ bau ]	包	[ pao ]
[ dzau ]	找	[ chao ]
[ gau ]	交	[ chiao ]
[ hau ]	孝	[ hsiao ]
[ kau ]	靠	[ k'ao ]
[ mau ]	猫	[ mao ]
[ nau ]	鬧	[ nao ]
[ yau ]	咬	[ yao ]
[ pau ]	跑	[ p'ao ]
[ sau ]	梢	[ shao ]
[ tsau ]	抄	[ ch'ao ]

(2) [ai] との結合——十九音

[ bai ]	拜	[ pai ]
[ dai ]	呆	[ tai ]
[ dzai ]	債	[ ch'ai ]
[ fai ]	快	[ k'uai ]
[ gai ]	梅	[ chieh ]
[ gwai ]	拐	[ kuai ]
[ hai ]	鞋	[ hsieh ]
[ jai ]	踮	[ ch'uai ]
[ kai ]	楷	[ k'ai ]
[ kwai ]	櫃	[ k'uai ]
[ lai ]	賴	[ lai ]
[ mai ]	埋	[ mai ]
[ nai ]	乃	[ nai ]
[ yai ]	厓	[ ai ]
[ pai ]	排	[ p'ai ]
[ sai ]	徒	[ hsi ]
[ tai ]	太	[ t'ai ]
[ tsai ]	猜	[ ch'ai ]
[ wai ]	壞	[ huai ]

(1) [a] との結合——十九音

[ ba ]	巴	[ pa ]
[ da ]	打	[ ta ]
[ dza ]	乍	[ cha ]
[ fa ]	花	[ hua ]
[ ga ]	加	[ chia ]
[ gwa ]	瓜	[ kua ]
[ ha ]	蛤	[ ha ]
[ ja ]	也	[ yeh ]
[ ka ]	卡	[ chia ]
[ kwa ]	夸	[ kua ]
[ la ]	拉	[ la ]
[ ma ]	嗎	[ ma ]
[ na ]	那	[ na ]
[ ga ]	牙	[ ya ]
[ pa ]	扒	[ pa ]
[ sa ]	卅	[ sa ]
[ ta ]	他	[ t'a ]
[ tsa ]	茶	[ ch'a ]
[ wa ]	話	[ hua ]

(文字を中心にし右は北京音、左は廣東音を示す)

以上の五十三の母音と、十九の子音が結合して次の如き五八〇種の音を構成する。

[u] にして、その前に他の子音なき時は [w] を冠する。但し [uk] [y] の場合は例外である。

子音なき時は [i] を冠し、主要母音が [y] にして、その前に、他の子音なき時も [i] を冠す。更に主要母音

無氣音、有氣音の關係にある。又 [j] と [w] は半母音にして、主要母音が [i] にして、其の前に其の他の

[t] [b] [ts] [d] [w] [dz] [f] [g] [gw] [kw] [gw] [h] [j] [k] [d] [kw] [i] [t] [dz] [ts] [g] [m] [k] [gw] [n] [kw] [y] [b] [p] [s]

が複子音にして、 [d] [t] [dz] [ts] [g] [k] [gw] [kw] [b] [p] は夫々



(7)  
 [ap] との結合—九音  
 [dap] 答 [ta]  
 [dzap] 習 [hsi]  
 [gap] 夾 [chia]  
 [hap] 俠 [hsia]  
 [lap] 立 [li]  
 [nap] 納 [na]  
 [sap] 澁 [sé]  
 [tap] 塔 [t'a]  
 [tsap] 挿 [ch'a]

(6)  
 [ay] との結合—十三音  
 [bay] 糊 [pêng]  
 [dzay] 爭 [chêng]  
 [gay] 更 [kêng]  
 [gway] 逛 [kuang]  
 [hay] 行 [hang]  
 [kway] 框 [k'uang]  
 [lay] 冷 [lêng]  
 [may] 盲 [mang]  
 [yuy] 硬 [ying]  
 [pay] 棒 [pang]  
 [say] 生 [shêng]  
 [tsay] 撐 [chêng]  
 [way] 橫 [hêng]

(5) [an] との結合—十六音  
 [ban] 班 [pan]  
 [dan] 單 [tan]  
 [dzan] 贊 [ts'an]  
 [fan] 番 [fan]  
 [gan] 間 [chien]  
 [gwan] 關 [kuan]  
 [han] 閑 [hsien]  
 [lan] 蘭 [lan]  
 [man] 萬 [wan]  
 [nan] 難 [nan]  
 [yan] 眼 [yen]  
 [pan] 盼 [p'an]  
 [san] 散 [san]  
 [tan] 炭 [t'an]  
 [tsan] 產 [ch'an]  
 [wan] 灣 [wan]

(4) [am] との結合—十音  
 [dam] 耽 [tan]  
 [dzam] 站 [chan]  
 [gam] 監 [chien]  
 [ham] 函 [han]  
 [lam] 覽 [lan]  
 [nam] 南 [nan]  
 [yam] 岩 [yen]  
 [sam] 三 [san]  
 [tam] 探 [t'an]  
 [tsam] 慚 [ts'an]



	(11)		(10)
	[vu]		[vi]
	との結合—十五音		との結合—十九音
[dɛu]	斗 [tou]	[bɛi]	閉 [pi]
[dzɛu]	走 [tsou]	[dɛi]	低 [ti]
[fɛu]	復 [fu]	[dzɛi]	祭 [chi]
[gɛu]	句 [kou]	[fɛi]	揮 [hui]
[hɛu]	口 [k'ou]	[gɛi]	鷄 [chi]
[jɛu]	憂 [yu]	[gwɛi]	歸 [kui]
[kɛu]	求 [chiu]	[hɛi]	系 [hsi]
[lɛu]	留 [liu]	[jɛi]	曳 [yeh]
[mɛu]	某 [mou]	[kɛi]	啓 [ch'i]
[nɛu]	紐 [niu]	[kwɛi]	規 [kuei]
[yɛu]	牛 [niu]	[lɛi]	來 [lai]
[pɛu]	剖 [p'ou]	[mɛi]	迷 [mi]
[sɛu]	修 [shiu]	[nɛi]	泥 [ni]
[tɛu]	頭 [t'ou]	[yɛi]	危 [wei]
[tsɛu]	秋 [ch'iu]	[pɛi]	批 [p'i]
		[sɛi]	西 [hsi]
		[tɛi]	提 [t'i]
		[tsɛi]	妻 [ch'i]
		[wɛi]	威 [wei]

	(9)		(8)
	[ak]		[at]
	との結合—十五音		との結合—十四音
[bak]	百 [pai]	[bat]	八 [pa]
[dak]	叮 [ta]	[dat]	達 [ta]
[dzak]	拏 [chai]	[dzat]	扎 [cha]
[gak]	革 [ko]	[fat]	法 [fa]
[gwak]	擱 [kuo]	[gat]	軋 [ya]
[hak]	客 [k'é]	[gwat]	厥 [kua]
[jak]	吃 [ch'ih]	[lat]	辣 [la]
[kak]	絳 [k'o]	[mat]	抹 [mo]
[lak]	肋 [lei]	[nat]	納 [na]
[mak]	麥 [mai]	[yat]	醫 [nieh]
[yak]	纈 [é]	[sat]	撒 [sa]
[pak]	拍 [p'ai]	[tat]	達 [ta]
[sak]	索 [so]	[tsat]	察 [ch'a]
[tsak]	冊 [t'sé]	[wat]	斡 [wo]
[wak]	或 [huo]		



(15)  
 [ep]  
 [ dzep ] 汁 [ chih ]  
 [ gep ] 急 [ chi ]  
 [ hep ] 合 [ ho ]  
 [ jep ] 入 [ ju ]  
 [ kep ] 吸 [ hsi ]  
 [ lep ] 立 [ li ]  
 [ nep ] 粒 [ li ]  
 [ sep ] 十 [ shih ]  
 [ tsap ] 輯 [ chi ]

(14)  
 [ey]  
 [ bey ] 崩 [ pêng ]  
 [ dey ] 登 [ têng ]  
 [ dzeY ] 曾 [ tsêng ]  
 [ geY ] 更 [ kêng ]  
 [ gweY ] 轟 [ hung ]  
 [ hey ] 亨 [ hêng ]  
 [ key ] 梗 [ kêng ]  
 [ meY ] 盟 [ mêng ]  
 [ neY ] 能 [ nêng ]  
 [ peY ] 朋 [ p'êng ]  
 [ seY ] 僧 [ sêng ]  
 [ teY ] 疼 [ t'êng ]  
 [ tseY ] 曾 [ ts'êng ]  
 [ way ] 宏 [ hung ]

(13)  
 [en]  
 [ ben ] 笨 [ pên ]  
 [ den ] 墩 [ tun ]  
 [ dzen ] 眞 [ chên ]  
 [ fen ] 分 [ fên ]  
 [ gen ] 斤 [ chin ]  
 [ gwen ] 君 [ chun ]  
 [ hen ] 很 [ hên ]  
 [ jen ] 因 [ yin ]  
 [ ken ] 近 [ chin ]  
 [ kwen ] 坤 [ k'un ]  
 [ men ] 文 [ wên ]  
 [ nen ] 撚 [ nien ]  
 [ yen ] 銀 [ yin ]  
 [ pen ] 貧 [ p'in ]  
 [ sen ] 辛 [ hsin ]  
 [ ten ] 吞 [ t'un ]  
 [ tsen ] 親 [ ch'in ]  
 [ wen ] 溫 [ wên ]

(12)  
 [em]  
 [ dzem ] 怎 [ tsên ]  
 [ gem ] 金 [ chin ]  
 [ hem ] 勘 [ k'an ]  
 [ jem ] 音 [ yin ]  
 [ kem ] 禁 [ chin ]  
 [ lem ] 林 [ lin ]  
 [ nem ] 稔 [ j'ên ]  
 [ sem ] 心 [ hsin ]  
 [ tsem ] 侵 [ ch'in ]



	(19)		(18)
	[s]		[ci]
	との結合——十一音		との結合——十一音
[ bɛ ]	啤 [ p'i ]	[ bei ]	卑 [ pei ]
[ dɛ ]	爹 [ tieh ]	[ dei ]	地 [ ti ]
[ dzɛ ]	姐 [ ch'ieh ]	[ fei ]	非 [ fei ]
[ gɛ ]	痴 [ chia ]	[ .gei ]	基 [ chi ]
[ jɛ ]	邪 [ hsieh ]	[ hei ]	希 [ hsi ]
[ kɛ ]	騎 [ ch'i ]	[ kei ]	期 [ chi ]
[ l ]	咧 [ lieh ]	[ lei ]	梨 [ li ]
[ mɛ ]	咩 [ mieh ]	[ mei ]	眉 [ mei ]
[ nɛ ]	呢 [ ni ]	[ nei ]	尼 [ ni ]
[ sɛ ]	些 [ hsieh ]	[ pei ]	皮 [ p'i ]
[ tsɛ ]	且 [ ch'ieh ]	[ sei ]	死 [ ssu ]

	(17)		(16)
	[ɛk]		[ɛt]
	との結合——八音		との結合——十七音
[ bek ]	北 [ pei ]	[ bɛt ]	不 [ pu ]
[ dɛk ]	得 [ tei ]	[ dɛt ]	突 [ r'u ]
[ dzɛk ]	則 [ tsé ]	[ dzɛt ]	疾 [ chi ]
[ hek ]	克 [ k'o ]	[ fet ]	佛 [ fo ]
[ lek ]	勒 [ lé ]	[ get ]	吉 [ chi ]
[ mɛk ]	墨 [ mo ]	[ gwɛt ]	骨 [ ku ]
[ sɛk ]	塞 [ sai ]	[ het ]	乞 [ ch'i ]
[ tsɛk ]	測 [ ts'é ]	[ jɛt ]	一 [ i ]
		[ ket ]	咳 [ k'o ]
		[ let ]	甩 [ shuai ]
		[ mɛt ]	勿 [ hu ]
		[ nɛt ]	呐 [ na ]
		[ get ]	迄 [ ch'i ]
		[ pɛt ]	匹 [ p'i ]
		[ sɛt ]	膝 [ h'si ]
		[ tsɛt ]	七 [ ch'i ]
		[ wɛt ]	屈 [ ch'ü ]



(23)  
 [iu]  
 との結合—十四音

[ jiu ]	要	[ yao ]
[ biu ]	標	[ p'iao ]
[ diu ]	去	[ t'iu ]
[ dziu ]	焦	[ chiao ]
[ giu ]	橋	[ chi o ]
[ hiu ]	曉	[ hs'iao ]
[ kiu ]	僑	[ ch'iao ]
[ liu ]	聊	[ liao ]
[ miu ]	苗	[ miao ]
[ niu ]	鳥	[ niao ]
[ piu ]	漂	[ p'iao ]
[ siu ]	小	[ hsiao ]
[ tiu ]	調	[ t'iao ]
[ tsiu ]	肖	[ hsiao ]

(22)  
 [i]  
 との結合—四音

[ ji ]	衣	[ i ]
[ dzi ]	茲	[ t'zu ]
[ si ]	司	[ ssu ]
[ tsi ]	此	[ ts'u ]

(21)  
 [ɛk]  
 との結合—十音

[ bɛk ]	壁	[ pi ]
[ dɛk ]	笛	[ ti ]
[ dzɛk ]	績	[ chi ]
[ hɛk ]	吃	[ clih ]
[ kɛk ]	劇	[ chi ]
[ lɛk ]	癩	[ li ]
[ pɛk ]	劈	[ p'i ]
[ sɛk ]	錫	[ hsi ]
[ tɛk ]	踢	[ t'i ]
[ tsɛk ]	尺	[ ch'ih ]

(20)  
 [ɛŋ]  
 との結合—十二音

[ bɛŋ ]	病	[ ping ]
[ dɛŋ ]	定	[ ting ]
[ dzɛŋ ]	精	[ ching ]
[ gɛŋ ]	驚	[ ching ]
[ hɛŋ ]	輕	[ ch'ing ]
[ jɛŋ ]	影	[ ying ]
[ lɛŋ ]	領	[ ling ]
[ mɛŋ ]	名	[ ming ]
[ pɛŋ ]	平	[ p'ing ]
[ sɛŋ ]	星	[ hsing ]
[ tɛŋ ]	聽	[ t'ing ]
[ tsɛŋ ]	青	[ ch'ing ]



(27)  
〔ip〕  
との結合—十音

〔 jip 〕	葉	〔 yeh 〕
〔 dip 〕	喋	〔 tieh 〕
〔 dzip 〕	接	〔 chieh 〕
〔 gip 〕	劫	〔 chieh 〕
〔 hip 〕	怯	〔 ch'ieh 〕
〔 lip 〕	獵	〔 lieh 〕
〔 nip 〕	捏	〔 nieh 〕
〔 sip 〕	涉	〔 shê 〕
〔 tip 〕	帖	〔 t'ieh 〕
〔 tsip 〕	妾	〔 ch'ieh 〕

(26)  
〔iy〕  
との結合—十六音

〔 jiy 〕	英	〔 ying 〕
〔 biy 〕	兵	〔 ping 〕
〔 diy 〕	丁	〔 ting 〕
〔 dziy 〕	井	〔 ching 〕
〔 giy 〕	京	〔 ching 〕
〔 gwiy 〕	炯	〔 chiung 〕
〔 hiy 〕	兄	〔 hsiung 〕
〔 kiy 〕	傾	〔 ch'ing 〕
〔 liy 〕	零	〔 ling 〕
〔 miy 〕	名	〔 ming 〕
〔 niy 〕	寧	〔 ning 〕
〔 piy 〕	平	〔 p'ing 〕
〔 siy 〕	性	〔 hsing 〕
〔 tiy 〕	停	〔 t'ing 〕
〔 tsiy 〕	青	〔 ch'ing 〕
〔 wiy 〕	榮	〔 jung 〕

(25)  
〔in〕  
との結合—十四音

〔 jin 〕	烟	〔 yen 〕
〔 bin 〕	邊	〔 pien 〕
〔 din 〕	典	〔 tien 〕
〔 dzin 〕	賤	〔 chien 〕
〔 gin 〕	堅	〔 chien 〕
〔 hin 〕	牽	〔 ch'ien 〕
〔 kin 〕	乾	〔 ch'ien 〕
〔 lin 〕	連	〔 lien 〕
〔 min 〕	棉	〔 mien 〕
〔 nin 〕	年	〔 nien 〕
〔 pin 〕	片	〔 p'ien 〕
〔 sin 〕	先	〔 hsien 〕
〔 tin 〕	天	〔 t'ien 〕
〔 tsin 〕	千	〔 ch'ien 〕

(24)  
〔im〕  
との結合—十一音

〔 jim 〕	炎	〔 yen 〕
〔 dim 〕	黠	〔 tien 〕
〔 dzim 〕	尖	〔 chien 〕
〔 gim 〕	儉	〔 chien 〕
〔 him 〕	缺	〔 ch'ieh 〕
〔 kim 〕	黔	〔 ch'ien 〕
〔 lim 〕	臉	〔 lien 〕
〔 nim 〕	念	〔 nien 〕
〔 sim 〕	閃	〔 shan 〕
〔 tim 〕	添	〔 t'ien 〕
〔 tsim 〕	簽	〔 ch'ien 〕



(31) [ɔ]  
との結合——十七音

[ bɔ ]	波	[ po ]
[ dɔ ]	多	[ to ]
[ dzɔ ]	左	[ tso ]
[ gɔ ]	哥	[ ko ]
[ gwɔ ]	過	[ kuo ]
[ hɔ ]	何	[ ho ]
[ jɔ ]	晴	[ yü ]
[ kɔ ]	訶	[ k'o ]
[ lɔ ]	羅	[ lo ]
[ mɔ ]	魔	[ mo ]
[ nɔ ]	那	[ na ]
[ yɔ ]	我	[ wo ]
[ pɔ ]	破	[ p'o ]
[ sɔ ]	所	[ so ]
[ tɔ ]	他	[ t'a ]
[ tsɔ ]	坐	[ tso ]
[ wɔ ]	和	[ ho ]

(30) [ou]  
との結合——十三音

[ bou ]	保	[ pao ]
[ dou ]	刀	[ tao ]
[ dzou ]	租	[ tsu ]
[ gou ]	高	[ kao ]
[ hou ]	好	[ hao ]
[ lou ]	勞	[ lao ]
[ mou ]	無	[ wu ]
[ nou ]	奴	[ nu ]
[ you ]	敖	[ so ]
[ pou ]	抱	[ pao ]
[ sou ]	蘇	[ su ]
[ tou ]	徒	[ t'u ]
[ tsou ]	操	[ ts'ao ]

(29) [ik]  
との結合——十四音

[ jik ]	益	[ i ]
[ bik ]	碧	[ pi ]
[ dik ]	的	[ ti ]
[ dzik ]	卽	[ chi ]
[ gik ]	極	[ chi ]
[ gwik ]	隙	[ hsi ]
[ lik ]	力	[ li ]
[ mik ]	覓	[ mi ]
[ nik ]	匿	[ ni ]
[ pik ]	辟	[ p'i ]
[ sik ]	昔	[ hsi ]
[ tik ]	忒	[ t'é ]
[ tsik ]	戚	[ ch'i ]
[ wik ]	域	[ yü ]

(28) [it]  
との結合——十四音

[ jit ]	熱	[ jo ]
[ bit ]	必	[ pi ]
[ dit ]	秩	[ chih ]
[ dzit ]	節	[ chieh ]
[ git ]	結	[ chieh ]
[ hit ]	歇	[ hsieh ]
[ kit ]	揭	[ chieh ]
[ lit ]	列	[ li ]
[ mit ]	滅	[ mieh ]
[ yit ]	嚙	[ nich ]
[ pit ]	瞥	[ p'ieh ]
[ sit ]	舌	[ shê ]
[ tit ]	鐵	[ t'ieh ]
[ tsit ]	切	[ ch'ieh ]



	(35)		(34)
[ got ] 割 [ ko ]	[ ɔt ]	[ boy ] 邦 [ pang ]	[ ɔy ]
[ hot ] 喝 [ ho ]	との結合——二音	[ doy ] 當 [ tang ]	との結合——十八音
		[ dzoy ] 藏 [ tsang ]	
		[ foy ] 方 [ fang ]	
		[ goy ] 岡 [ kang ]	
		[ gwoy ] 光 [ kuang ]	
		[ hoy ] 降 [ hsiang ]	
		[ koy ] 航 [ k'ang ]	
		[ kwoy ] 狂 [ k'uang ]	
		[ loy ] 郎 [ lang ]	
		[ moy ] 亡 [ wang ]	
		[ noy ] 囊 [ nang ]	
		[ yoy ] 昂 [ ang ]	
		[ poy ] 旁 [ p'ang ]	
		[ soy ] 桑 [ sang ]	
		[ toy ] 湯 [ t'ang ]	
		[ tsoy ] 倉 [ ts'ang ]	
		[ woy ] 汪 [ wang ]	

	(33)		(32)
[ gon ] 干 [ kan ]	[ ɔn ]	[ doi ] 代 [ tai ]	[ ɔi ]
[ hon ] 看 [ k'an ]	との結合——三音	[ dzoi ] 災 [ tsai ]	との結合——十一音
[ yon ] 岸 [ an ]		[ goi ] 該 [ kai ]	
		[ hoi ] 開 [ k'ai ]	
		[ koi ] 慨 [ kai ]	
		[ loi ] 來 [ lai ]	
		[ noi ] 內 [ nei ]	
		[ yoi ] 外 [ wai ]	
		[ soi ] 思 [ ssu ]	
		[ toi ] 臺 [ t'ai ]	
		[ tsoi ] 才 [ ts'ai ]	



	(39)		(38)
[ dœn ]	遁 [ tun ]	[ œn ]	[ œy ]
[ dzœn ]	津 [ chin ]	との結合	との結合
[ jœn ]	閏 [ jun ]	—七	—十一
[ loen ]	倫 [ lun ]	音	音
[ scen ]	荀 [ hsün ]		
[ tœn ]	盾 [ tun ]		
[ tsœn ]	巡 [ hsün ]		
		[ dœy ]	對 [ tui ]
		[ dzœy ]	堆 [ tui ]
		[ gœy ]	居 [ chü ]
		[ hœy ]	虛 [ hsi ]
		[ jœy ]	銳 [ jui ]
		[ kœy ]	區 [ ch'ü ]
		[ lœy ]	雷 [ lei ]
		[ nœy ]	女 [ nü ]
		[ soey ]	雖 [ sui ]
		[ tœy ]	推 [ t'ui ]
		[ tsœy ]	催 [ ts'ui ]

	(37)		(36)
[ dœ ]	朶 [ to ]	[ œ ]	[ œk ]
[ hœ ]	靴 [ hsüeh ]	との結合	との結合
[ tœ ]	唾 [ t'o ]	—三	—十八
		音	音
		[ bœk ]	博 [ po ]
		[ dœk ]	度 [ tu ]
		[ dzœk ]	作 [ tso ]
		[ fœk ]	縛 [ fu ]
		[ gœk ]	角 [ chüeh ]
		[ gwœk ]	國 [ kuo ]
		[ hœk ]	學 [ hsüeh ]
		[ kœk ]	確 [ chüeh ]
		[ kwœk ]	擴 [ k'uo ]
		[ lœk ]	樂 [ lo ]
		[ mœk ]	莫 [ mu ]
		[ nœk ]	諾 [ no ]
		[ yœk ]	鏢 [ é ]
		[ pœk ]	撲 [ p'u ]
		[ sœk ]	索 [ so ]
		[ tœk ]	托 [ t'o ]
		[ tsœk ]	錯 [ ts'o ]
		[ wœk ]	獲 [ huò ]



	(43)		(42)
[ wu ] 烏 [ wu ]	[ u ]	[ dœk ] 啄 [ cho ]	[ œk ]
[ fu ] 夫 [ fu ]	との結合	[ dzœk ] 雀 [ ch'iao ]	との結合
[ gu ] 姑 [ ku ]	—	[ goek ] 脚 [ ch'iao ]	—
[ ku ] 箍 [ ku ]	四音	[ jœk ] 約 [ yüeh ]	八音
		[ kœk ] 却 [ chüeh ]	
		[ lœk ] 略 [ lüeh ]	
		[ sœk ] 削 [ hsiao ]	
		[ tsœk ] 鵲 [ ch'iao ]	

	(41)		(40)
[ dœt ] 咄 [ tu ]	[ œt ]	[ dzœy ] 將 [ Chiang ]	[ œy ]
[ dzœt ] 卒 [ tsu ]	との結合	[ goey ] 疆 [ Chiang ]	との結合
[ lœt ] 律 [ li ]	—	[ hœy ] 香 [ Hsiang ]	—
[ noet ] 訥 [ no ]	六音	[ joey ] 央 [ Yang ]	九音
[ soet ] 戌 [ hsi ]		[ kœy ] 強 [ Chiang ]	
[ tsœt ] 出 [ ch'u ]		[ loey ] 良 [ Liang ]	
		[ noey ] 娘 [ Niang ]	
		[ soey ] 相 [ Hsiang ]	
		[ tsœy ] 槍 [ Ch'iang ]	



(47)  
 [wut] 活 [huo]  
 [but] 鉢 [po]  
 [fut] 闊 [k'uo]  
 [kut] 括 [k'uo]  
 [mut] 末 [mo]  
 [put] 撥 [p'o]

[ut]  
 との結合—六音

(46)  
 [buy] 捧 [pêng]  
 [duy] 冬 [tung]  
 [dzuy] 宗 [tsung]  
 [fuy] 峰 [fêng]  
 [guy] 公 [kung]  
 [huy] 空 [k'ung]  
 [juy] 翁 [wêng]  
 [kuy] 窮 [ch'iung]  
 [luy] 龍 [lung]  
 [muy] 蒙 [mêng]  
 [nuy] 農 [nung]  
 [puy] 碰 [p'êng]  
 [suy] 送 [sung]  
 [tuy] 通 [t'ung]  
 [tsuy] 匆 [ts'ung]

[uy]  
 との結合—十五音

(45)  
 [wun] 換 [huan]  
 [bun] 本 [pên]  
 [fun] 歡 [huan]  
 [gun] 官 [kuân]  
 [mun] 門 [mên]  
 [pun] 拼 [p'in]

[un]  
 との結合—六音

(44)  
 [wui] 回 [hui]  
 [bui] 貝 [pei]  
 [fui] 灰 [hui]  
 [kui] 繪 [hui]  
 [mui] 梅 [mei]  
 [pui] 倍 [pei]

[ui]  
 との結合—六音



(51)  
〔yt〕  
との結合——十音

〔jyt〕	乙	〔i〕
〔dyt〕	奪	〔to〕
〔dzyt〕	絶	〔chüeh〕
〔gyt〕	概	〔chüeh〕
〔hyt〕	血	〔hsieh〕
〔kyt〕	決	〔chüeh〕
〔lyt〕	劣	〔lieh〕
〔syt〕	雪	〔hsüeh〕
〔tyt〕	脱	〔t'o〕
〔tsyt〕	撮	〔ts'o〕

(50)  
〔yn〕  
との結合——十一音

〔jyn〕	淵	〔yüan〕
〔dyn〕	端	〔tuan〕
〔dzyn〕	尊	〔tsun〕
〔gyn〕	捐	〔chüan〕
〔hyn〕	圈	〔ch'üan〕
〔kyn〕	拳	〔ch'üan〕
〔lyn〕	亂	〔luan〕
〔nyn〕	暖	〔nuan〕
〔syn〕	孫	〔sun〕
〔tyn〕	團	〔tun〕
〔tsyn〕	村	〔ts'un〕

(49)  
〔y〕  
との結合——四音

〔jy〕	於	〔yü〕
〔dzy〕	朱	〔chu〕
〔sy〕	書	〔shu〕
〔tsy〕	處	〔ch'u〕

(48)  
〔uk〕  
との結合——十五音

〔buk〕	卜	〔pu〕
〔duk〕	督	〔tu〕
〔dzuk〕	足	〔tsu〕
〔fuk〕	福	〔fu〕
〔guk〕	谷	〔ku〕
〔huk〕	哭	〔k'u〕
〔juk〕	旭	〔hsü〕
〔kuk〕	曲	〔ch'ü〕
〔luk〕	六	〔liu〕
〔muk〕	木	〔mu〕
〔nuk〕	性	〔niu〕
〔puk〕	仆	〔fu〕
〔suk〕	肅	〔su〕
〔tuk〕	秃	〔t'u〕
〔tsuk〕	促	〔ts'u〕



(52) [m] との結合——ナシ

(53) [y] との結合——一音

[ hy ] 哼 [ hêng ]

(二) 聲に關して

今日までに公にせられたる「廣東語」の書物に就いて「聲」を調べて見ると、そのまち／＼なのに驚かされる。日本人の著書だけについて見ても、福屋正男氏の「日粵會話」は九聲で、西洋人の諸著書と同一であるが、臺灣放送協會發行山下昇氏著「廣東語講座」は十聲——九聲に變聲一聲を含ましてゐる。更に福大公司篇の「日粵會話讀本」は六聲、總督府文教局學務課編「日粵會話」も六聲、眼を轉じ内地に於いて出版せられたものを見るに、影山魏氏著「速成廣東語」江川氏著「廣東語會話」楊良氏著「實用廣東語會話」等はすべて無聲である。(近頃「支那語雜誌」に載つてゐる廣東語の講義は六聲であつたと記憶してゐる)

故に日本に於ける廣東語は、無聲から十聲の間を往來してゐる理である。無聲即ち聲を表示せぬ著書は、そこに何か意圖するところが有つたのかも知れない、然し無聲では折角の著述も何の意義も有たぬ。支那語の本質から言つて佛造つて魂入れずの憾あることを知らねばならない。六聲は、筆者の考では、無聲より尙不可であり、且或意味に於いては罪深いものと言はねばならない。如何なる根據に基いて六聲以上のものを六聲に減少したのかは不明であるが、徒らに南支の他方言の聲にならつて、便宜上妙な工作を施すことは我々の取らざるところである。福屋氏の著書は前述せる如く良心的なものである。斯くの如き良心的な著書が前に公にせられてゐるにも拘らず、如何に忙中に稿をなしたとは言へ、數等劣る著書がこゝ南進の基地を以て自ら任ずる臺灣の足下から出されてゐることは遺憾とせざるを得ない。然し福屋氏の著述も——九聲を採り、此を丹念に各文字について追求して行つた點は大に買はなければならぬが——變聲を認めない點に於いて致命傷を受けてゐる。然らば、山下氏の聲に關する限り完全であらうか、完全に最も近いことは事實である。但し山下氏の第十聲は獨立せるものなるか變聲かの説明がない、若し十聲が獨立して存在するものとすれば誤である。

廣東語の聲は、原聲九種、變聲三種(但し入聲中の變聲を高上聲の變聲に含めれば二種である)計十二種の聲調から成立する。故に無聲、六聲、九聲、十聲共に誤り、或は完全でない理である。

① 聲の名稱

廣東語の原聲は、平・上・去・入の四聲を高調・低調・中調(入聲だけ)の三種に分けるが、その名稱は次の通りである。

[高 調] 平聲(上平)

[中 調]

[低 調] 平聲(下平)



上聲(上上)

去聲(上去)

入聲(上入)

更に變聲は、

變平聲(變平) 或は(超平)

變上聲(變上)

變入聲(變入)

入聲(中入)

上聲(下上)

去聲(下去)

入聲(下入)

② 各聲の發音法

上平聲——高く強く始まり急に音尾を消す。

上上聲——北京語の第二聲の如く、始め低くして急に高くなる。

上去聲——北京語の第四聲を緩かに發せばこの聲になる、即ち始め高く後は音尾を自然に消す。

上入聲——音尾急促高く收音す、我國語の「居つた」の「た」に力を入れて發せばこの聲になる。

下平聲——低音で始まり滑かに自然に收音する。北京語第三聲の前半——北京語で上聲連続に際して先の變

讀されたる上聲に似てゐる。

下上聲——北京語の上聲と同じである。即ち低音で始まり更に低音となり、始めより高く收音する

下去聲——北京語の第一聲の如く平板で音尾に至つて稍、降る

下入聲——音尾を急促するは上入聲と同じであるが息を吸込む如くする。「居つた」の「つ」を發音する要

領である

中入聲——上入聲と下入聲の中間を行く、促音でも平板に始終する

變上聲——上平聲の音尾を弱く長くのばす

變上聲——上上聲の始まりも高く強く出し、中間を低音にし、又高音で收める

變入聲——入聲を變上聲で發する要領による

③ 聲表示の符號

聲を表はす符號も各人各様であつて、今日まで統一されてゐないが、それらの主なるものを示せば次の如し

高調	平	福屋式	/	山	山下式	香港式	教會式	Eitel式	Jones式	Karlgren式
	上	2	□	く	□	□	□	□	□	□
	去	3	□	□	□	□	□	□	□	□
低調	平	一	□	□	□	□	□	□	□	□
	上	二	□	□	□	□	□	□	□	□
	去	三	□	□	□	□	□	□	□	□
入聲	上	○	□	□	□	□	□	□	□	□
	中	○	□	□	□	□	□	□	□	□
	下	○	□	□	□	□	□	□	□	□



變聲の符號

黃氏式

變平聲

變上聲

變入聲

輕聲

山下氏式

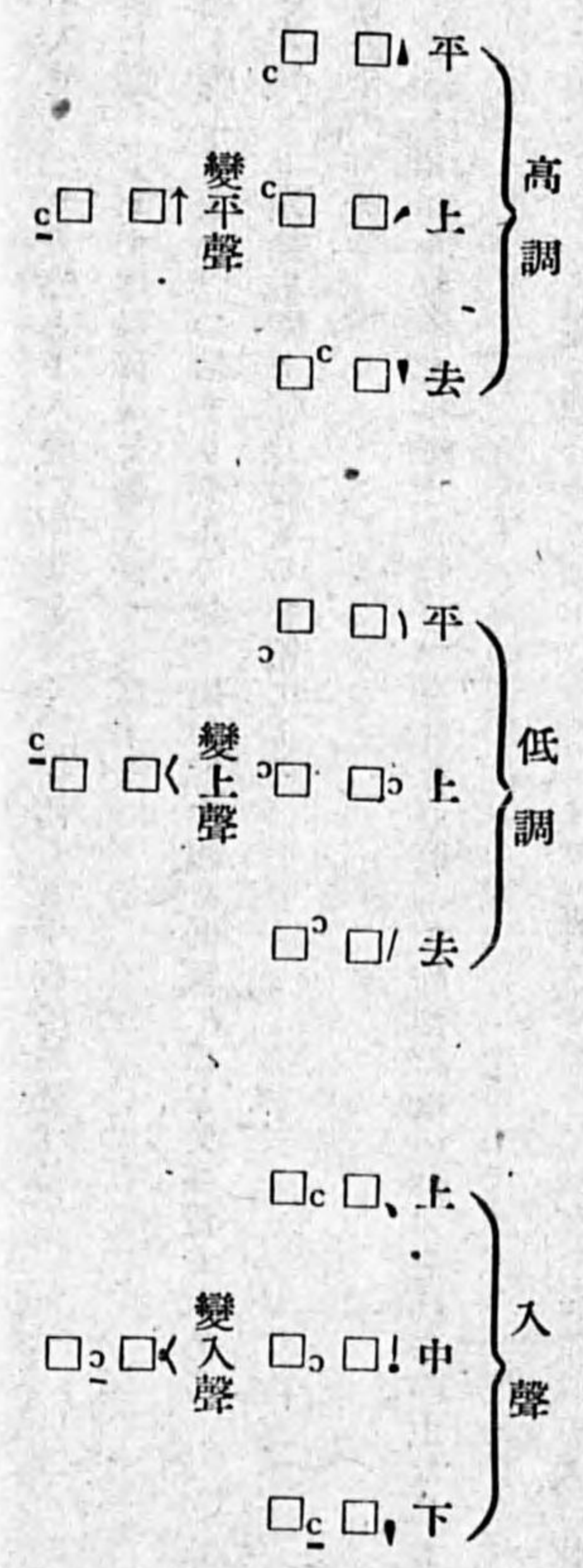
變平聲

變上聲

變入聲

輕聲

以上夫々一長一短を有するが、廣東語の聲の數は多い故、一見直ちに識別し得るものが良いことは勿論である。この意味で直感的符號が最も望ましい。山下氏のは臺灣語（廈門語）の聲表示用符號を借用してゐると言はれてゐるが、これに若干の修正を加へれば良いものが出来るであらう。山下氏の直感的符號中、上上聲、中入聲、變平聲（第十聲と言つてゐるもの）の符號は、直感的符號としては妥當を缺く。上上聲の符號は寧ろ變上聲の符號として適當であり（山下氏は變上聲と上上聲を區別してゐないが）中入聲の「 $\phi$ 」は全く意味をなさない。變平聲の矢印は眞下向は不可、寧ろ眞上向を可とするであらう。修正の上筆者の使用すべき符號左の如し。



④ 聲音の變化

聲音の變化は便宜上次の三項に分けて説明する。

- (a) 聲の變化
- (b) 字音の變化
- (c) 字音・聲調の變化

(a) 聲の變化

廣東語の聲の變化は次の如き場合に見られる。即ち、

- (1) 聲調の自然を求むる場合
- (2) 意義上よりの要求による場合
- (3) 外國語音譯の場合
- (4) 慣習に依る場合

(1) 聲調の自然を求めて變化する若干詞を挙げれば次の如し。

春	天	(sɔɛnt' t'in)	千	金	(ch'in kamt)
鬧	鐘	(nau tsungt)	呢	個	(nit ko)
便	中	(pin tsungt)	醫	生	(i sangt)
自	己	(chi keit)	收	尾	(sau meit)

(以上變平聲になるもの)

前	年	(ch'in nien)	南	洋	(nam yeung)
---	---	--------------	---	---	-------------



- 白油 (pak yau<sup>˩</sup>)
- 工頭 (kung tau<sup>˩</sup>)
- 書友 (shu yau<sup>˩</sup>)
- 老母 (lou mou<sup>˩</sup>)
- 被面 (pei min<sup>˩</sup>)
- 名士 (meng si<sup>˩</sup>)
- 太太 (tai tai<sup>˩</sup>)
- 花旦 (fa tan<sup>˩</sup>)
- 花塔 (fa tap<sup>˩</sup>)
- 請帖 (ching tip<sup>˩</sup>)
- 被褥 (pei yuk<sup>˩</sup>)
- 上樓 (sheung lau<sup>˩</sup>)
- 紫檀 (chi fan<sup>˩</sup>)
- 鶴心柿 (kai sam chi<sup>˩</sup>)
- 大女 (tai nei<sup>˩</sup>)
- 笑話 (siu wa<sup>˩</sup>)
- 臘味 (lap mei<sup>˩</sup>)
- 擔擔 (tam tam<sup>˩</sup>)
- 魚片 (yu pin<sup>˩</sup>)
- 堂客 (tung hak<sup>˩</sup>)
- 金盒 (kam hap<sup>˩</sup>)
- 賞月 (sheung yit<sup>˩</sup>)

(2) 意義上よりの要求に依る場合

(1) 動詞が過去を表はす場合、その動詞が低調或は上去調に読まれるものなるときは、「變上調」に變讀する。

例へば、

「我嚟喇」の場合

「嚟」を (jai<sup>˩</sup>) に讀めば、

「私は已に來た」と言ふ意になる。若し「嚟」を本來の聲たる下平調に讀めば「私は來る」「私は來てゐる」の意を示す。

「佢去喇」の場合も同様で「去」を (heu<sup>˩</sup>) と讀むか本來の上去調に讀む場合とでは「彼はもう行つて了つた」と「彼は行く」の意味が出て來るのである。

低調の形容詞疊用された場合。この場合は前の字を變讀すると、後の字を變讀するのでは意義上に差がある。例へば、

- 紅紅地 (hung hung tei) 稍々紅し
- 紅紅地 (hung hung tei) 非常に紅し
- 白白地 (pak pak tei) 稍々白し
- 白白地 (pak pak tei) 非常に白し
- 痛痛地 (tung tung tei) 少し痛む
- 痛痛地 (tung tung tei) 大に痛む

名詞の變讀に依り二様の意義を有たせる場合。小さいもの、重要ならざるもの、或は輕視するものは變讀する。例へば、

「後門」の「門」を mun<sup>˩</sup> に變讀するは「大門」に對し次要の位置にあるからである。



「個個人」の「人」を *ng* に變讀するならばこの者の性情人格等につき問題になるを示すのである。

「刀仔」の「刀」は本来上平であるが「小いさ」意を有たせるため、變平聲に變讀し *ng* に發音する。

(3) 外國語音譯の場合の變讀  
外國語を音譯した場合には、入聲文字によつて表記せられぬ限り、殆んど例外なく變平聲に變讀する。若干舉例する。

一 打 (yat lat) 一ダース

一 咪 (yat mat) 一マイル

冷 衫 (lanɣt sam) 毛衣「冷」は佛語の (Laine)

咕 喱 (kut lei) 苦力

法蘭西 (fat lanɣt sai) フランス

但し入聲文字に譯された「骨」(十五分)などは變讀しない。

(4) 習慣上の變讀

或る文字——詞は習慣上常に變讀されると言はんよりは、變讀調——變上調の文字、詞であると言つた方が適當である位、殆んど變上調にしか讀まれぬ詞が存する。これ等を大別すると、助詞嘆詞に屬するものとならざるものに二大別される。

イ 助詞歎詞にして常に變平調に讀まれるもの

咧 nei↑ 軽い疑問助詞

咩 mei↑ 同上

嘍 hiu↑ 完了を表はす助詞

口 其他にして常に變平調に讀まれるもの

Ⅰ 名 詞

杯 pui↑ 羹 kang↑ 蚊 man↑ 猪 chü↑ 錶 piu↑ 仙 sin↑ 猫 mau↑ 遮 tse↑

Ⅱ 代 名 詞

呢 ni↑ (呢個、呢處、呢度、邊位)

邊 pin↑ (邊個、邊處、邊度、邊位)

Ⅲ 形容詞、副詞

多 to↑ (幾多) 啱 ngam↑ (啱啱)

慣習による變讀にはこの外特定の地名などの變讀があるが、これは數多いものではない(廣州市の「河南」の「南」は *nam* と讀まれる如し)



(b) 字音の變化

隣音の影響で字音が變化することがある。例へば、

- 有去冇呀 yau hui mou-a → mou-wa
- 你貴姓呀 nei kuai seng-a → seng-ga
- 邊處人呀 pin ch'ü yan-a → yan-na
- 唔噲聽嗎 m wei teng ma → m-üi teng ma

(c) 意義の相異から来る聲の變化

これは次の三種ある。

イ 同一字音にして聲を異にする。例へば、

- 重 f'ong (下平) 重なれる
- 重 f'ong (下上) 重し
- 更 kang (上平) 改める
- 更 kang (上去) 更に
- 好 ho (上上) 良い、非常に
- 好 ho (上去) 好む

ロ 同一聲にして字音を異にする。例へば

- 參 sam (上平) 「三」に同じ

- 參 tsam (上平) 参考、参見
- 參 sam (上平) 人參
- 番 fan (上平) 外國(番菜) 土着、一番
- 番 po (上平) 「番」に通ず

ハ 字音四聲を異にする。例へば

- 重 f'ong (下上) 重し
- 重 f'ung (下去) 更に、尙ほ
- 長 ch'ung (下平) 長し
- 長 cheung (上上) 頭、成長す

(5) 原聲—九聲表

次に原聲たる九聲を、同一音の文字を基にして表記して見よう。(○は該當する文字なきを示し、×は該聲の存在せざるを示す)。

行銀央中	央	(平上)	yéung
樣咁係唔	樣	(上上)	
	○	(去上)	
	○	(入上)	
酒啤陽太	陽	(平下)	
大得唔養	養	(上下)	
喇嘢讓相	讓	(去下)	
葯癩癬	葯	(入下)	
葯烟無	葯	(入中)	



	si	chi	séung
兒乞捨施	施	工人支	支 雙成事好 雙
飯疍屎食	屎	虎老架紙	紙 去想嚟想 想
吓試的買	試	志心實立	志 相睇使唔 相
	×	×	○
時天好唔	時		○ 街出時常 常
市收的快	市		○ 城省上 上
個一但是	是	字寫噲唔	字 上山去上 上
	×	×	酒杓一打 杓
	×	×	杓 酒 杓

	chêung	kéung	hêung
戴李冠張	張	辣唔薑地本	薑 香都身週 香 [平上]
掌手大坦	掌		○ 處响日今 响 [上上]
帳蚊起掛	帳		○ 喇去東向 向 [去上]
喇得有佢	喇		○ ○ (入上)
	○		○ [平下]
	○		○ [上下]
楚清量丈	丈	頸條擲副	擲 ○ [去下]
喇數着唔	着		○ ○ (入下)
雀麻打	雀	脚 茶 脚	○ (入中)



hēu                  chū                  yū

喇吓噓吹 噓 真咁珠真 珠 好唔於一 於

呀未可許 許 意主有佢 主 血痧有重 痧

喇吓涕去 去 喇的意注 注 呀飽狀好 狀

×                          ×                          ×

○                          ○ 魚鯉大好 魚

○                          ○ 通唔語言 語

○ 處邊係住 住 人個啱遇 遇

×                          ×                          ×

×                          ×                          ×

ni                  chī                  i

○ 喇痴咁咪 痴 生醫國中 醫 [平上]

○ 恥知唔佢 恥 靠倚人有 倚 [上上]

○ 食好翅魚 翅 思思意意 意 [去上]

×                          ×                          × (入上)

姑 尼 尼 悞自嚟遲 遲 宜相好唔 宜 [平下]

個邊係你 你 呀野乜特 特 耳雙埋掩 耳 [上下]

膩肥好 膩 匪匪區 虎 義禮多咁 義 [去下]

×                          ×                          × (入下)

×                          ×                          × (入中)



lō                      tō                      kō

仔家撈撈利唔刀菜刀大長高快高

佬車拉佬嗎倒得趕倒稿起响快稿

○ 呀到時幾到示告睇告

×                      ×                      ×

喇晒勞有勞 ○ ○

帝王婆老老 ○ ○

行通不路路喇度我嚟度 ○

×                      ×                      ×

×                      ×                      ×

hō                      kēü                      sū

蒿青蒿業樂居安居呀未書讀書〔平上〕

好幾係唔好舉老叫舉時天暑大暑〔上上〕

街去好好好句兩言三句務庶庶〔去上〕

×                      ×                      × (入上)

傑豪雄英豪 ○ 薯番薯〔平下〕

○ ○ ○ 〔上下〕

呀號多幾號懼恐使唔懼樹竈一樹〔去下〕

×                      ×                      × (入下)

×                      ×                      × (入中)



hoi oi fu

身開嚟就 開 喇吓懇哀 哀 夫丈大 夫

浴水海 海 旋 凱 凱 地你苦辛 苦

○ 個邊愛你 愛 嘅厚富 富

× × ×

孩小理咪 孩 仔 呆 呆 人窮助扶 扶

○ ○ 女 婦 婦

害利好 害 嘅外意有 外 傅師水泥 傅

× × ×

× × ×

wu ku pō

達辣糟污 污 鬼寒孤 孤 茶冲水煲 煲 [平上]

塢船修 塢 鼓聽唔拒 鼓 人證保 保 [上上]

嘅惡憎最 惡 店衣故 故 紙報睇 報 [去上]

× × × (入上)

呀塗胡好 胡 ○ ○ [平下]

○ ○ ○ [上下]

頭芋薯番 芋 ○ 雨風暴 暴 [去下]

× × × (入下)

× × × (入中)







	tung		kung		lung
風	大	番	風	工	做
			工	煨	飯
俸	薪	俸	人讓手拱	拱	襖
			袖	衫	襖
諷	譏	諷	貢	進	貢
					○
福	幸	好	真	福	茶
				花	菊
				菊	能
				無	碌
				碌	碌
服	衣	縫	縫		○
				尾	鳳
				頭	龍
				龍	龍
				○	
				箱	槓
				槓	槓
風	鳳	鳳	元	一	共
			總	共	樣
				個	成
				弄	弄
呀	未	服	輸	服	鷄
				焗	塩
				焗	六
				分	三
				六	六
				○	
				局	警
				巡	局
				鹿	花
				梅	鹿

	tung		tui		pui
耳	馬	吹	風	東	東
			喇	處	囉
			堆	堆	先
				坯	個
				整	坯
					〔平上〕
事	董	董	隊	部	隊
					○
					〔上上〕
凍	好	氣	天	凍	店
				換	兌
				兌	喇
				晒	備
				配	配
					〔去上〕
佢	住	督	監	督	
					×
					×
					〔入上〕
					○
					○
					賊
					晒
					錢
					賠
					賠
					〔平下〕
					○
					○
					力
					落
					倍
					加
					倍
					〔上下〕
動	運	早	晨	動	人
				隊	一
				隊	隊
					○
					〔去下〕
呀	咪	書	讀	讀	
					×
					×
					〔入下〕
					一六八
處	底	居	居		
					×
					×
					〔入中〕



洋 南洋 yêung 香 蚊蚊 mǎn 糕糖白糕 kō

油 白油 yau 杯雙淨洗杯 pui 天 冬冬 tung

頭 工頭 t'au 金 日金 kām 獅 舞獅 si

尙 和尙 shêung 巾 手巾 kan 曹操捉操 tsō

樓 上樓 lau 堆 扱拉堆 tui 窿 穿窿 lung

蘭 芥蘭 lan 啱 啱啱 gām 個 呢呢 ni

娘 嫁新娘 néung 餐 西餐 t'san 刀關迷屎刀 tō

檀 紫檀 t'ān 鐘 辰時鐘 tsung

皮 薯皮 p'ei 妹 年住妹 mui

誰 乜誰 sui 衫 冷衫 sām

變  
上  
聲  
舉  
例

秧 花秧 yêung

豬 生豬 chü

菰 冬菰 ku

竹 薑酸薑 kēung

墟 趁墟 héü

夫 拉夫 fu

箱 皮箱 shêung

居 茶居 kēü

籬 襪籬 t'ü

姨 阿姨 i

變  
平  
聲  
舉  
例

sung

鬆頭手鬆 [平上]

頭出佢聳\*聳 [上上]

行送去送 [去上]

圍範小縮縮 [入上]

督基拜崇崇 [平下]

○ [上下]

○ [去下]

友朋熟熟 [入下]

○ [入中]



廣東語發音表記法私案

この私案は概ね次の如き原則に準據せり。

- ① 表記文字はローマ字に依る。
  - ② 出來得る限り、北京語のウエード式表記法を取り入れ、北京語既修者の便を考慮せり。
  - ③ 從來準據となり、幾多の西洋人が採用したる「分韻提要」に徹底的なる斧鉞を加へたり。
  - ④ [ch-] と [ch'-] [ts-] と [ts'-] の兩子音を別に設け、次に來る子音に依つて讀み方を異にする如き煩を避けたり。
  - ⑤ 有氣音は子音に「<sup>h</sup>」印を附すことにより表はせり。
  - ⑥ [y] [w] の半母音は [i] [u] を以て始まる音に附す、但し該母音の前に子音なき場合なり。
  - ⑦ 本私案の符號は、今日まで公にせられるものと異なる所多きも、その是非は眞摯なる學徒の批判に俟つ。
- (1) 母 音……單母音……九種
- ā——長(a)である。口腔を十分に開きaをやゝ長く發音する。
- a——短(a)である。口腔を半開しaを短く發音する。この母音は單獨に存在せず。
- e——ウエード式の(e)に同じなるも、この母音は單獨に存在せず、常に(i)と結合す。
- é——ウエード式の(é)の口型で(e)を發音す。
- i——ウエード式の(i)に同じである。

變入聲學例

鴨大爐掛鴨	gāp	人 瞳人	yan
脚 手脚	kēuk	眉 畫眉	mei
月 賞月	yūt	枱 仙八枱	t'ui
搭 花搭	tap	梨 沙梨	lei
客 堂客	hāk	梅皮陳梅	mui
		房間一房	fong
		行三十行	hong
		城 新城	seng
		名 人名	meng







この子音を發音部位によつて分けると

(ch) 子音の次には (e) (i) (ü) の母音が來、  
 (ts) 子音の後には其の他の母音が來る。

[7] 子音  
 ch ch' f h k k' e m n ng p p' s t t' ts ts'

此は音頭に使用される、次の拵音表に於いてはngを子音に入れたり

[6] 單獨或は音頭に使用される鼻音  
 m ng

(t) (p)  
 āt āp  
 at ap  
 éut ip  
 it (yip)  
 iat iap  
 (yat) (yap)  
 iéut  
 ot  
 ut  
 (wut)  
 uāt  
 (wāt)  
 uat  
 (wat)  
 üt  
 (yüt)

(k) [5] 入聲韻……三種  
 此等と結合せるもの  
 k p t  
 uok āk uòng āng  
 (wok) ak (wong) ang  
 ek eng  
 éuk éng  
 iāk ieng  
 (yāk) (yeng)  
 iek iuug  
 (yek) (yuug)  
 iuk iéung  
 (yuk) (yéang)  
 iéuk ang  
 (yéuk) ung  
 ok uāng  
 uk (wāng)  
 uāk uang  
 (wāk) (wang)  
 uek ueng  
 (wek) (weng)







【結合母音表】

iā	ia	iē	iai	iau	iēu	iēü	uā	ua	uāi'	uai
(yā)	(ya)	(yē)	(yai)	(yau)	(yéu)	(yéü)	(wā)	(wa)	(wāi)	(wai)
(也)		(嗜)	(曳)	(由)		(銳)	(娃)		(歪)	(爲)
子音と結合せず	子音と結合せず				子音と結合せず		子音と結合せず	子音と結合せず		
[yāk]	[yam]				[yéun]		[wān]	[wan]		
(喫)	(飲)				(閏)		(灣)	(溫)		
	[yan]				[yéung]		[wāng]	[wang]		
	(人)				(央)		(橫)	(絃)		
	[yap]				[yeuk]		[wāt]	[wat]		
	(入)				(約)		(捲)	(屈)		
	[yāt]						[wāk]			
	(日)						(或)			

此等の母音子音の拵音表を作成すれば次の如くなる。

ch f  
ch' — 唇齒音  
— 舌前音



【複母音と子音の結合】

	ai (唉)	āu (拗)	ai (矮)	au (歐)	ei (欸)	êu	êü	iu (天)	ōu (澳)	oi (哀)	ui (僂)	uo (和)
ch								chiu 招				
ch'								chiu 樵				
f	fāi 快		fai 微	fau 浮	fei 非							
h	hāi 鞋	hāu 考	hai 係	hau 候	hei 希	hêu 靴*	hêü 去	hiu 僂	hōu 蒿	hoi 開		
k	kāi 街	kāu 交	kai 雞	kau 勾	kei 基		kêü 居	kiu 嬌	kōu 高	koi 該	fui 灰	
k'	k'ai 楷	k'au 靠	k'ai 楷	k'au 扣	k'tei 崎		k'êü 區	k'iu 橋		k'oi 巧	k'ui 僮	
l	lāi 拉		lai 囉	lau 樓	lei 李		lêü 雷	liu 了		loi 來		
m	māi 埋	māu 猫	mai 米	mau 某	mei 眉			miu 苗	mōu 毛		mui 梅	
n	nāi 乃	nāu 撓	nai 泥	nau 鏤	nei 你		nêü 女	niu 鳥	ngōu 奴	noi 內		
ng	ngāi 厓	ngāu 咬	ngai 蟻	ngau 牛					ngōu 敖	ngoï 外		
p	pāi 拜	pāu 包	pai 閉	p'au 剖	pei 卑			piu 標	pōu 保		pui 杯	
p'	p'ai 排	p'au 拋	p'ai 批	p'au 剖	p'ei 皮			p'iu 票	pōu 甫			
s	sāi 徒	sāu 梢	sai 西	sau 修	sei 死		sêü 水	siu 小	sōu 掃	soi 腮		
t	tāi 帶		tai 低	t'au 頭	tei 地		têü 對	t'iu 丟	tōu 刀	toi 代		
t'	t'ai 太		t'ai 梯	t'au 頭		t'êü 桑	t'êü 對	t'iu 挑	t'ōu 叩			
ts	tsāi 債	tsāu 找	tsai 仔	tsau 週		têü 睡	tsêü 最		tsōu 早	tsoi 在		
ts'	ts'ai 柴	ts'au 禽	ts'ai 婁	ts'au 丑			ts'êü 崑		ts'ōu 操	ts'oi 才		



【單母音と子音の結合】

	ā	a	e(ei)	ê	i	ō(ou)	o	u	ü
ch					chi 孩				chü 豬
ch'					ch'i 池				ch'ü 處
f	fā 花					fo 課	fu 夫		
h	hā 下					ho 何			
k	kā 加		kê 嘅			ko 哥	ku 姑		
k'	k'ā 咖		k'ê 騎			k'o 鈎	k'u 籬		
l	lā 拉		lê 咧			lo 囉			
m	mā 媽		mê 咩			mo 磨			
n	nā 拿		nê 呢			no 糯			
ng	ngā 牙					ngo 我			
p	pā 巴		pê 啤			po 波			
p'	p'ā 扒					p'o 吹		sü 書	
s	sā 洒		sê 些	sí 思		so 所			
t	tā 打		tê 爸			to 多			
t'	t'ā 他					t'o 妥			
ts	tsā 查		tsê 借			tso 左			
ts'	ts'ā 茶		ts'ê 且			ts'o 坐			



【入聲韻と子音の結合】  
【一】

	āk	ak	ēk	éuk	iāk	iēk	iuk	iéuk	ok	uk	uāk	kū	uok
	(軛)	(擗)			[yāk]	[yēk]	[yuk]	[yéuk]		[wuk]	[wak]	[wik]	[wok]
					(喫)	(亦)	(沃)	(約)	(惡)	(屋)	(或)	(域)	(獲)
ch			chēk	chēuk									
ch'			ch'ēk	ch'ēuk									
f									fok	fuk			
h	hāk	hak							hok	huk			
k	kāk		kēk	kēuk					kok	kuk	kuāk	kwik	kuok
k'	k'āk		k'ēk	k'ēuk					k'ok	k'uk			k'uok
l	lāk	lak	lēk	lēuk					lok	luk			
m	māk	mak	mēk						mok	muk			
n			nēk						nok	nuk			
ng	ngāk								ngok				
p	pāk	pak	pēk						pak	puk			
p'	p'āk		p'ēk						p'ok	p'uk			
s	sāk	sak	sēk	sēuk					sok	suk			
t	tāk	tak	tēk	tēuk					tok	tuk			
t'			t'ēk						t'ok	t'uk			
ts	tsāk	tsak							tsok	tsuk			
ts'	ts'āk	ts'ak							ts'ok	ts'uk			

【入聲韻と子音の結合】

	āp	ap	ip	iap	āt	at	it	iat	ēt	ut	uāt	uat	üt
	(押)		[yip]	[yap]	(壓)		(熱)	(一)		[wut]	wāt	[wat]	[yüt]
			(葉)	(入)						(活)	(捲)	(風)	(月)
ch			chip				chit						cnüt
ch'			ch'ip				ch'it						ch'üt
f					fāt	fat				fut			
h	hāp	[hap]	hip		法	弗	hit			關			hüt



【入聲韻と子音の結合】  
【二】

	āp	ap	ip	iap	āt	at	it	iat	ēut	ut	uāt	uat	üt
	(押)		[yip] (葉)	[yap] (入)	(駭)		(熟)	[yat] (一)		[wut] (活)	wāt (捲)	[wat] (風)	[yüt] (月)
ch			chip				chit						chüt
ch'			接 ch'ip				節 ch'it						絕 ch'üt
f					fāt 法	fat 弗				fut 闕			
h	hāp 匣	[hap] 合	hip 怯			hat 乞	hit 歇						hüt 血
k	kāp 夾	kap 急	kip 劫		kāt 軋	kat 吉	kit 結			kut 括	kwat 刮	kwat 骨	küt 刷
k'		k'ap 吸				k'at 迄	k'it 搗						k'üt 決
l	lāp 立	lap 笠	lip 獵		lāt 刺	lat 用	lit 列		lēut 律				lüt 劣
m					māt 裊	mat 物	mit 滅						
n	nāp 納	nap 粒	nip 捏		nāt 捺	nat 啞			nēut 訥				
ng					ngāt 鬮	ngat 訖	ngit 嚙						
p					pāt 八	pat 不	pit 必			put 鉢			
p'						p'at 匹	p'it 譬			p'ut 潑			
s	sāp 颯	sap 十	šip 變		sāt 薩	sat 失	sit 舌		sēut 率				süt 雪
t	tāp 沓		tip 喋		tāt 但	tat 突	tit 跌		tēut 咄				tüt 恣
t'	t'āp 塔		t'ip 帖		t'āt 撻		t'it 鐵						t'üt 脫
ts	tsāp 習	tsap 汁			tsāt 抄	tsat 疾			tsēut 卒				
ts'	ts'āp 拈	ts'ap 輯			ts'āt 察	ts'at 七			ts'ēut 出				